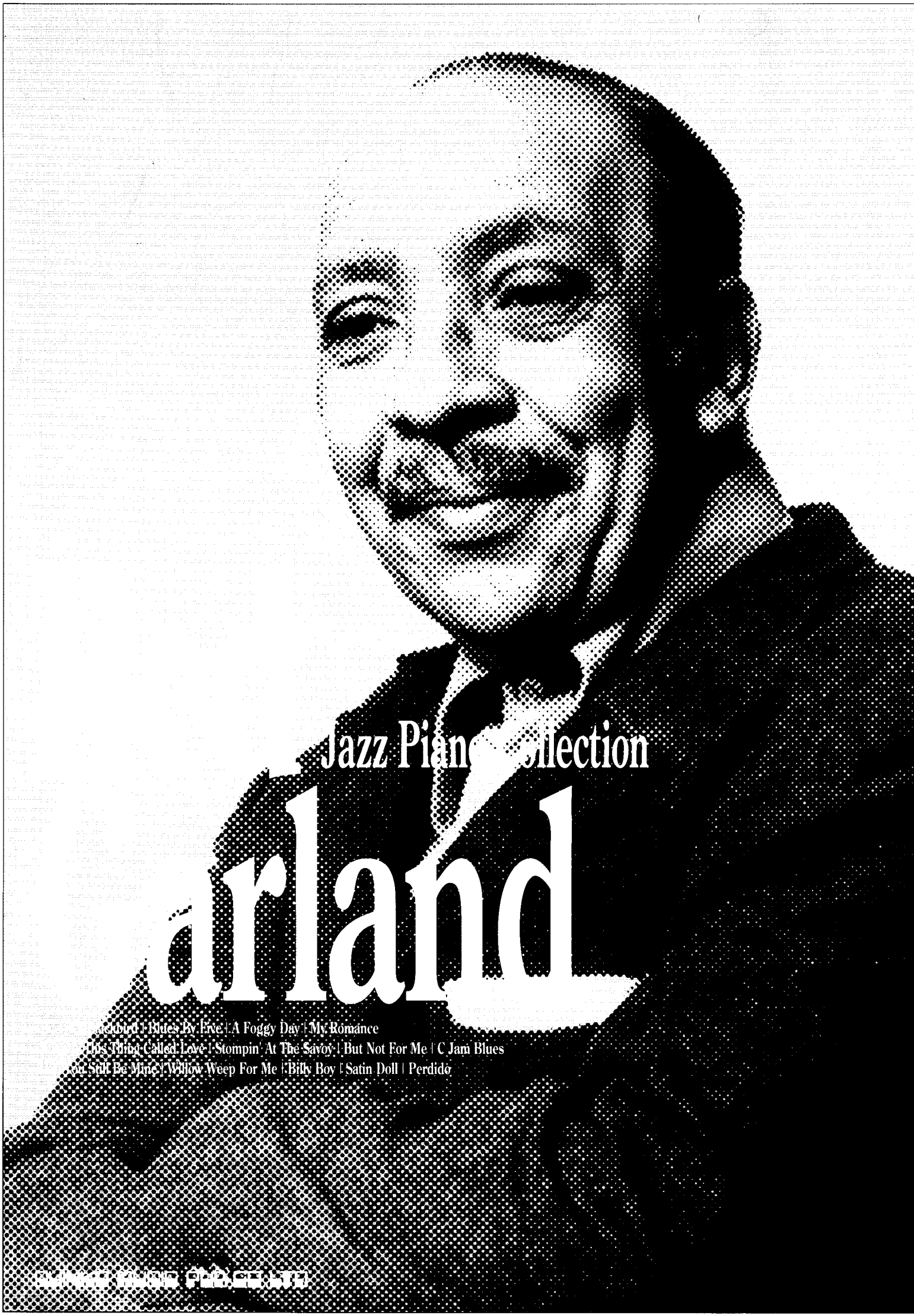

Jazz Pian ollection
arland
ackbird | Blues By Five | A Foggy Day | My Romance
This Thing Called Love | Stompin' At The Savoy | But Not For Me | C Jam Blues
ou Still Be Mine | Willow Weep For Me | Billy Boy | Satin Doll | Perdido

# Jazz Piano Collection
# Red Garland

## CONTENTS


Bye Bye Blackbird 7
バイ・バイ・ブラックバード

Blues By Five 13
ブルース・バイ・ファイヴ

A Foggy Day 16
ア・フォギー・デイ

My Romance 22
マイ・ロマンス

What Is This Thing Called Love 28
恋とは何でしょう

Stompin' At The Savoy 34
サヴォイでストンプ

But Not For Me 40
バット・ノット・フォー・ミー

C Jam Blues 46
C・ジャム・ブルース

Will You Still Be Mine 50
ウィル・ユー・スティル・ビー・マイン

Willow Weep For Me 56
柳よ泣いておくれ

Billy Boy 62
ビリー・ボーイ

Satin Doll 68
サテン・ドール

Perdido 75
パーディド


It shall be unlawful to publish, sell, or distribute this copy outside of Japan

# PROLOGUE
●プロローグ

1950年代の中期、マイルス・デイヴィス・クィンテットは数々の名演・名作を生みだした。たった2日間で27曲を録音したマラソン・セッションの伝説も作った。そのリズム・セクションはまさに最強の名をほしいままにし、ジャズ史に確かな1ページを残した。レッド・ガーランドがそのピアニストであることは、本書を手にとるようなジャズ愛好家なら誰でも知っているだろう。

1984年、享年60歳で他界したレッド・がーランドであるが、晩年の彼は必ずしも満足のできる活動はしていなかったようだ。しかし、50年代は新進のアーティストとして大いに期待され、エネルギーがほとばしるような力強いプレイで一世を風靡した。

強力なリズムとコロコロと歌うノリのいいフレージング、そのスタイルはバップそのものだが、けっして泥臭くなくあくまでも洗練されているところが彼の身上と言えるだろう。

ジャズ・ピアノの入門者は、どういうレコードを参考にし、練習すればいいかよく悩む。確かに名人たちの演奏はどれもが勉強になるが、ビギナーに最適なのはガーランドである、と断言できる。なぜなら、彼の演奏にはリズムやハーモニー、スケールなどの面でジャズの基本が網羅されているばかりでなく、なにより明快で分かりやすい。

高度なことをやっているのにそう感じさせず、なぜか弾きたくなるような楽しい気持ちにさせてくれる、そんな稀有なアーティストなのだ。

本書はレッド・ガーランドのソロ・ピアノ曲集である。

基本的には完全コピー譜だが、原曲で本人以外のパートがメロディーをとっているような場合には、ピアノ用にアレンジして記譜した。

コード表記に関しては、

1. 要所はテンション・ノートも示したが、全体的に簡略なコード・ネームで表記した。

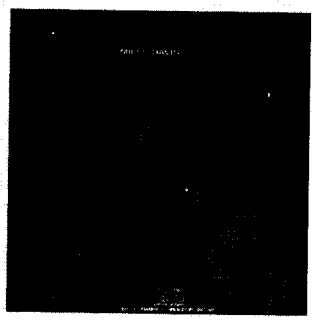
2. 曲の流れを第一に考え、ルート音や構成音の一部が譜面上で欠けていても、欠けていないようなコード・ネームにすることもある。

3. コード・ネームを断定しにくい場合は、曲の流れで判断し適当と思われる表記をする。

佐藤史朗

# DISCOGRAPHY ●参考アルバム (Japan CDs)

## 'ROUND ABOUT MIDNIGHT/MILES DAVIS
ラウンド・アバウト・ミッドナイト／マイルス・デイヴィス



'Round Midnight
Ah-Leu-Cha
All Of You
**Bye Bye Blackbird**
Tadd's Delight
Dear Old Stockhilm

●CBS・ソニー CSCS 5138

## COOKIN'/MILES DAVIS
クッキン／マイルス・デイヴィス

My Funny Valentine
**Blues By Five**
Airegin
Tune Up/When Lights Are Low

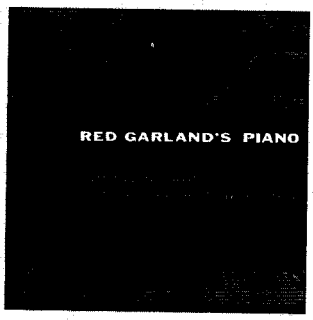
●ビクター VICJ-23503

## A GARLAND OF RED
ア・ガーランド・オブ・レッド

**A Foggy Day**
**My Romance**
**What Is This Thing Called Love**
Makin' Whoopee
September In The Rain
Little Girl Blue
Constellation
Blue Red

●ビクター VICJ-23662

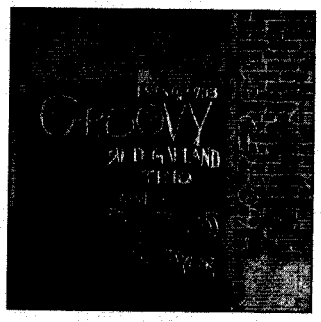
## RED GARLAND'S PIANO
レッド・ガーランズ・ピアノ




Please Send Me Someone To Love
**Stompin' At The Savoy**
The Very Thought Of You
Almost Like Being In Love
If I Were A Bell
I Know Why
I Can't Give You Anything But Love
**But Not For Me**

●ビクター VICJ-23663

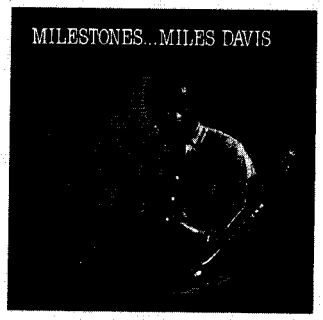
## GROOVY
グルーヴィ




**C Jam Blues**
Gone Again
**Will You Still Be Mine**
**Willow Weep For Me**
What Can I Say (After I Say I'm Sorry)?
Hey Now

●ビクター VICJ-23544

## MILESTONES/MILES DAVIS
マイルストーンズ／マイルス・デイヴィス




Dr. Jekyll
Sid's Ahead
Two Bass Hit
Milestones
**Billy Boy**
Straight, No Chaser

●CBS・ソニー CSCS 5342

## RED GARLAND AT THE PRELUDE
レッド・ガーランド・アット・ザ・プレリュード

**Satin Doll**
**Perdido**
There'll Never Be Another You
Bye Bye Blackbird
Let Me See
Prelude Blues
Just Squeeze Me
One O'clock Jump

●ビクター VICJ-23576

# 解説

## Bye Bye Blackbird

多くのミュージシャンが好んでとりあげるスタンダード・ナンバー。自身のアルバム「アット・ザ・プレリュード」でも快演が聴けるが、ここではマイルス・デイヴィスの超名盤「ラウンド・アバウト・ミッドナイト」のヴァージョンを採譜した。テーマ部は、マイルスのプレイするトランペットのメロディーをもとに、コード進行も多少変え、ソロ・ピアノ用にアレンジしてある。イントロはまさにおいしいフレーズ。テンポはおよそ♩=120。ゆったりとしたグルーヴ感の手本中の手本なので、細かい強弱やノリのニュアンスまでそっくりに弾けるくらいにマスターしたい。ジャジーな奏法のひとつに、黒鍵から白鍵に指をすべらす技があるが、ガーランドのコロコロと歌うフレージングもこれに負うところが大きい。たとえば、A'の1～2小節目のG♯音→A音という動き（1小節目の2拍目16分音符、4拍目の装飾音、2小節目の装飾音）はみんなこの奏法。指先で黒鍵をひっかくようにすべらすのがコツだ。

## Blues By Five

マイルス・デイヴィスの「クッキン」から。アップ・テンポ（♩=180くらい）のB♭ブルースだ。テーマ部は、ガーランドならではの分厚いブロック・コード・プレイ。理論にのっとって考えると同居させてはいけない音（たとえば♭9thと9th、♯9thと9th、♭13thと13thなど）もおかまいなしにコードの構成音にぶちこんでしまう、少々荒っぽい奏法だが、そのぶつかりあうテンション感がダイナミックな響きを出している点に注目したい。なお、2小節目のコードは、通常のブルース形式に従いE♭7（サブドミナント）としたが、構成音はF7（ドミナント）そのものだ。ベース奏者（ポール・チェンバース）はE♭7的なフレーズを弾いているので、ガーランドはそのときの勢いで無意識にこうプレイしたのだろう。いかにも彼らしいフレージングのひとつが、A8小節目。左手はG7的（つぎのCmのドミナントにあたる）だが、フレーズはC♯mっぽい。次小節に半音上のコードからアプローチしていると解釈できる。B8小節目も同様だ。

## A Foggy Day

ガーシュイン作のスタンダード・ナンバー。「ア・ガーランド・オブ・レッド」収録の名演を採譜した。テンポはおよそ♩=216。このハイ・スピードにのるのは至難の技。最初は150～160程度の速さで丁寧に練習し、指がもつれずにうまくのれるようになってから、徐々にこのテンポに近付けていくようにしよう。テーマ部では、左手に注目。A B Cの偶数小節、メロディー音が白玉で伸ばされるその間を、奇数小節のメロディーの呼びかけに応えるかのようなタイミングで左手のコードがプレイされている。人数の少ないピアノ・トリオでは特にこのような両手のコンビネーションで演奏を組み立てていくことが大事だ。インプロヴィゼイション部では、要所でブルーノートを使ったフレージングがされているのが実に効果的。例えばA'3小節目のDm7、A''の1～3小節（C E♭dim Dm7）、C'の2～4小節（A7 D7 G7）はいずれも、Cのブルーノート・スケールから導きだされたC7的なフレーズ。全体の流れの中でこれが生きている。

## My Romance

「ア・ガーランド・オブ・レッド」からの美しいバラード・ナンバー。テーマ部はガーランドの得意技、ブロック・コード・プレイ。バラードではなんといっても和音の響きが命。美しく鳴らすには、ペダルを細かく踏み変えることと、各指均等の強さとタイミングで鍵盤を押し込むことがポイント。後者は普段からピアノのタッチに慣れていないとなかなか難しいが、意識するとしないとでは全然ちがうので、注意深く打鍵するようこころがけてもらいたい。インプロヴィゼイション部からはシングル・トーンでフレーズが展開されていく。6連符や7連符、11連符などが譜面上に並んでいるが、これは正確な譜割ではなく、ゆったりとしたテンポの中で自由に動き回る音をあえて記譜する際のつじつまあわせのようなもの。ニュアンスはガーランドのプレイをよく聴いてつかんでもらいたい。なお、こういう演奏で最も難しいのは、タイム・キープ。速い連符のあとで拍の頭がずれてしまわないよう気をつけよう。

## What Is This Thing Called Love

「ア・ガーランド・オブ・レッド」からファスト・テンポ（♩=約225）のナンバー。Ⓐ、Ⓑ、Ⓓの7～8小節目がCメジャーに解決しているので、臨時記号なしのCメジャー・キーとして記譜したが、コードやメロディーの流れはむしろCマイナーっぽい感じ。Cmとなるべき小節をむりやりCにした転調感が特徴的な曲だ。ちなみにエンディングはCmでしめくくっている。アーティストの個性は、アドリブ・フレーズの音使いやリズムのとりかたなどに現われるが、多くのプレイヤーには手癖から生まれる決まりフレーズがある。悪くいえば何を弾いても同じになってしまうということと紙一重なのだが、ガーランドにはこの手癖的フレーズが非常に多く、それを弾いてくれると聴く側も思わずニヤリとし、安心するといった要素が少なからずある。ちなみに当曲Ⓓ7～8小節目のピック・アップ・フレーズは、"フォギー・デイ"のピック・アップ（Ⓓ7～8小節目）と一字一句たがわず同じだ。

## Stompin' At the Savoy

アルバム「レッド・ガーランズ・ピアノ」からの1曲。テンポはおよそ♩=216。軽快なスイング感がいかにもガーランドらしい。この曲に限らず、テーマからソロに移るときのピック・アップ・フレーズ（Ⓒ7～8小節目）がとにかくかっこいい。この2小節はドラムとベースは休み（ブレイク）で、まさにピアノの独壇場。逆にいえば失敗すると最高にかっこわるいところでもある。初心者はいざというときのピック・アップ用に、いくつかこういうフレーズをマスターしておくといいだろう。通常インプロヴィゼイション部はテーマ部と同じコード進行で構成されるが、当曲のテーマ部はキメが多く、ソロをとるのに適した流れとはいえないので，インプロヴィゼイション部の進行はソロむきに多少変えられている。小節数などの構成はテーマと同じだ。なお、Ⓓ1小節目と3小節目にⒻと同じようにコード・ネームが記されているが、前者はF7的（次小節B♭7のドミナント）で、フレーズのニュアンスはやや異なっている。

## But Not For Me

「レッド・ガーランズ・ピアノ」からミディアム・テンポ（およそ♩=162）の1曲。ガーシュイン作のスタンダード・チューンだ。曲頭から終始シングル・トーンでコロコロと歌い、スイングしまくっている。ガーランドのノリは，左手のコード・バッキングのリズムに負うところが多い。4ビートの左手バッキングは、8分音符先行したタイミング（俗に、8分で喰う、と言う）で入れるのが基本だ。つまり、Ⓐ1小節目のF7は、その小節の頭ではなく8分音符1個分前でタイミングをとり（前小節の4拍目ウラになる）、Ⓐ2小節目のA♭／B♭もその小節の頭ではなく、前小節の4拍ウラ（つまり8分で喰っている）で打鍵されているのがわかるだろう。ガーランドの左手は、右手がどんなに動きまわってソロをとっていても、基本的にはこの要領で1小節に2回タイミングをとっており、これが絶妙の歯切れ良さで、独特のスイング感を産み出しているのだ。拍のウラでタイミングをとる左手をぜひ修得してもらいたい。

## C Jam Blues

ピアノ・トリオの名盤として名高い「グルーヴィ」から。エリントンのペンによるミディアム・テンポのブルース・ナンバーだ。ジャズ・ピアノのエッセンスが凝縮されており、キーがCでなじみやすいこともあり、入門用の課題曲にまさにうってつけ。"ジャズ・ピアノってどうやって弾くの？"という人はまずこの曲にチャレンジするといい。そしてレコードにあわせられるくらいに弾きこんでもらいたい。ジャズのコツが見えてくるはずだ。フレーズで特に参考にしたいのが、譜割りの妙。8分音符主体のフレーズに時折混ぜる4分音符、16分音符や3連符の素早い動きが、流れにめりはりをつけ、生き生きとしたラインを生みだしている。Ⓓ3～5小節目、Ⓔ2～7小節目、Ⓕ2～11小節目の起伏に富んだメロディー・ラインは、絶妙な譜割りのたまもの。このニュアンスで弾けるよう運指を考え練習しよう。なお、Ⓒ1、3、7小節目、Ⓓ5小節目、Ⓔ1小節目の装飾音はいずれも黒鍵から白鍵に指をすべらす奏法。

## Will You Still Be Mine

「グルーヴィ」から超ハイ・スピードのナンバー。テンポはおよそ♩=300。これだけ速いと、演奏以前に譜面を追うだけでもひと苦労だ。まずは聴きながら譜面を見失わずについていけるようにしよう。4ビートのリズムは、8分音符がハネた感じになる（バウンス）のが特徴で、それがジャズ特有のノリになるわけだ。そのハネ具合というのは実に微妙で、テンポによっても違ってくるし、プレイヤーのタイプによっても変わってくる。すごくハネる演奏者もいれば、あまりバウンスせずにプレイする人もおり、生まれるサウンドのニュアンスはずいぶん異なって感じになる。プレイヤーの個性はこんなところからも出てくるわけだが、一般的にテンポが速くなればなるほど、ハネる分量は少なくなる。当曲くらいのテンポでは、もはや全くハネずに（というか、これだけ速いとハネることは不可能）8分音符を紡いでいくことになる。ただし強弱でめりはりをつけベタッとしたフィーリングになっていない点は見逃さないように。

## Willow Weep For Me

「グルーヴィ」収録のスロー・ナンバー。ガーランドお得意のブロック・コード奏法がブルージーな雰囲気を美しく演出している。この奏法の基本は、左手は4声のクローズド・ヴォイシングでコードを、右手は親指と小指のオクターブ・メロディーの間に1音か2音はさみこんでプレイする。両手が同時に打鍵するので響きが非常に厚くなる。右手オクターブの内声は、理論にのっとるならコード・トーン（あるいはコードから導きだされるテンション・ノート）であるべきだが、ガーランドはそんな原則に縛られることなく、ほとんどを平行移動技（トップ・ノートから完全4度下の音を内声にするケースがおおい）でまかなっている。つまり手型は固定してしまい、オクターブ・メロディーの動きに従って内声も平行移動するという仕組みだ。このやり方だと、コード・トーンからはずれた音が当たってしまうこともあるわけだが、むしろその偶然にぶつかりあう響きが刺激的でかっこよかったりもする。

## Billy Boy

マイルス・デイヴィスの傑作「マイルストーンズ」からの1曲。マイルスのリーダー・アルバムなのに、この曲だけピアノ・トリオ編成で演奏されている。マイルスがいかにこのリズム・セクションを信頼していたかが想像できよう。ガーランドも期待にこたえるべく見事な演奏を披露している。テンポはおよそ♩=265の超ハイ・スピード。この速さでのブロック・コード・プレイはまさに圧巻。右手はオクターブ間に3つ内声をはさむ5声ハーモニーが基本形となっている。"ウィロー・ウイープ・フォー・ミー"のケースと同様に、手型はほぼ固定してしまい、メロディーにあわせて平行移動する要領でキーをおさえる。片手で5声ということは全部の指をフルに使わなくてはならず、なおかつこのテンポなので相当演奏は困難だ。いいかげんなプレイにならないようゆっくりと丁寧に練習しよう。なお、エンディングはがらりと変わり、テンポが半分くらいになる。レコードを聴いてニュアンスをつかんでもらいたい。

## Satin Doll

エリントンの名曲でスタンダード中のスタンダード・ナンバー。「レッド・ガーランド・アット・ザ・プレリュード」からライヴならではのホットな演奏を採譜した。インストゥルメンタルの場合、Cメジャー・キーがオーソドックスだが、ここではB♭メジャーでプレイされており、ひと味違った感じになっている。またこれだけスタンダードな曲になると、いかにコード・チェンジするかなどのテーマ・アレンジがひとつの聴かせ所になる。たとえば、A4小節目、通常はDm7の部分がD7に変えられており、これだけの変化でずいぶん斬新な響きに聴こえる。また7～8小節目は当曲の工夫のしどころで様々なミュージシャンが様々にプレイする箇所でもあるが、ここではちょっとややこしいリズム・パターンで独特の処理がしてある。Bもメロディー・パターンが多少変えられている。なお、H～Iはレコードでは3コーラス目のインプロヴィゼイションでプレイされている。Hのフレーズは"ハニー・サックル・ローズ"からの引用だ。

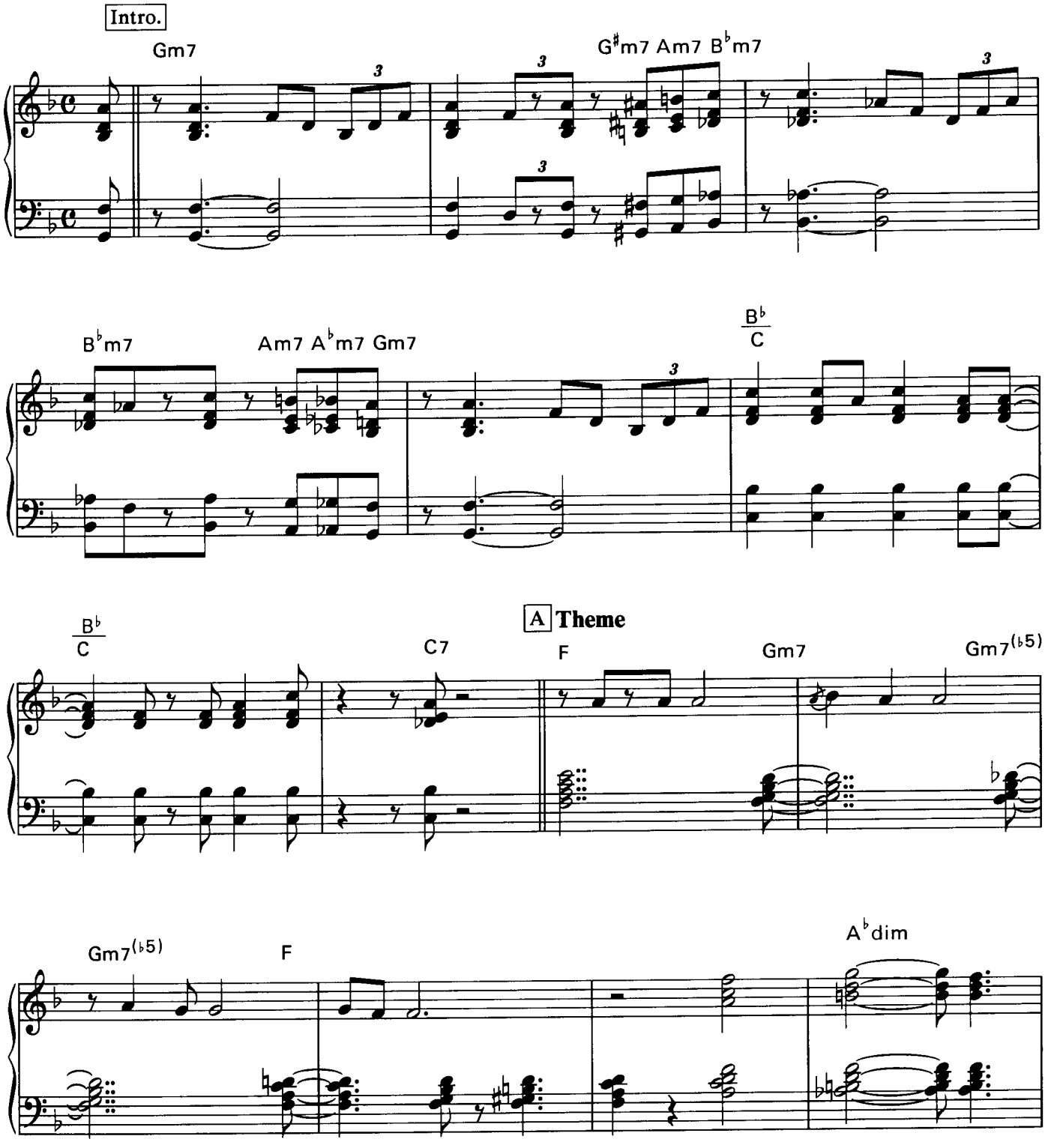
## Perdido

「レッド・ガーランド・アット・ザ・プレリュード」からこれまたエリントン・ナンバー。♩=約220のスピーディーな演奏だ。ジャズの楽曲は、俗に"2－5－1"といわれるコード進行が基本となってつくられていることが多い。当曲のようにキーがB♭メジャーの場合、B♭が"1（トニック）"で、"2（サブドミナント）"はDm7あるいはD7、"5（ドミナント）はF7ということになるが、当曲のA A' Cはまさにこれだけで成り立っている。またBの進行も、5小節目のC7を"1"とみればD7－G7は"2－5"と解釈できるし、7小節目のF7を"1"とみればG7－C7は"2－5"となる。つまり瞬間的にキーをかえながら2－5－1が連続しているわけだ。どんな曲でも細かくみればこの進行があちこちにあるものなのだ。5－1の動きはドミナント・モーションといい、連結力の最も強い進行で，使えるスケールが多く最も変化に富んだフレージングが可能な箇所でもある。各キーでこの進行を練習することがアドリブ上達の近道といえるだろう。

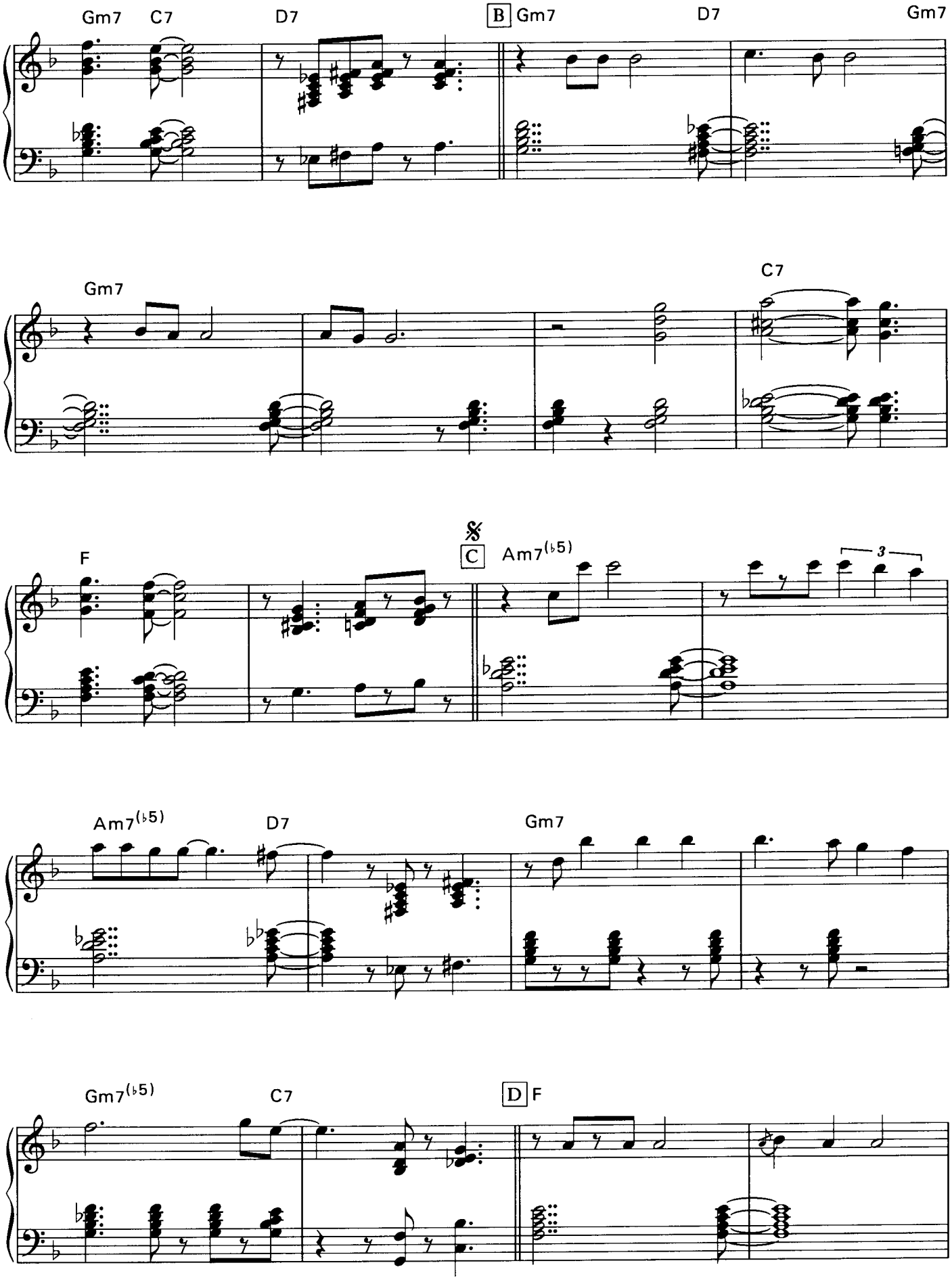
# Bye Bye Blackbird

バイ・バイ・ブラックバード

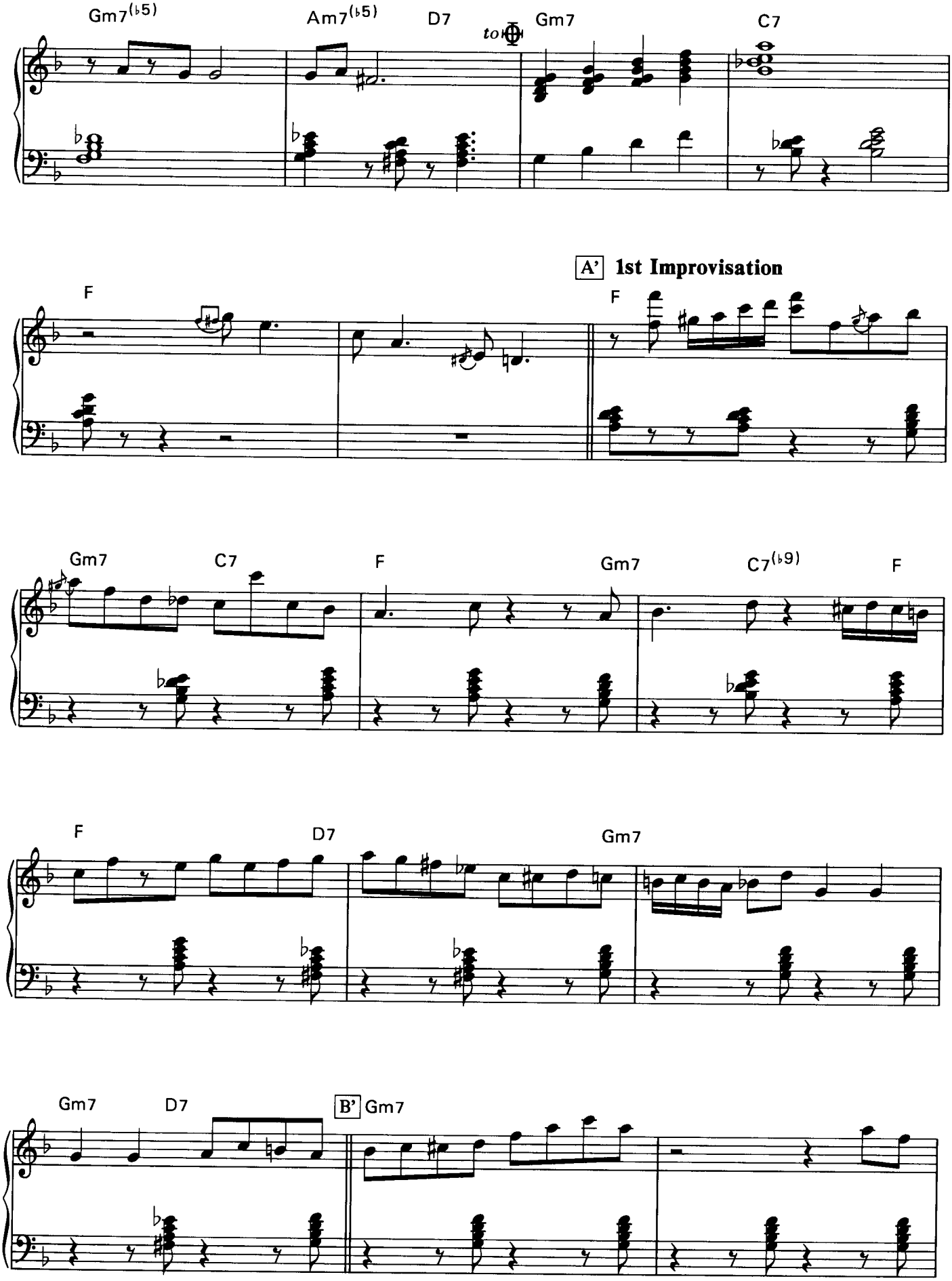
Words by Mort Dixon/Music by Ray Henderson



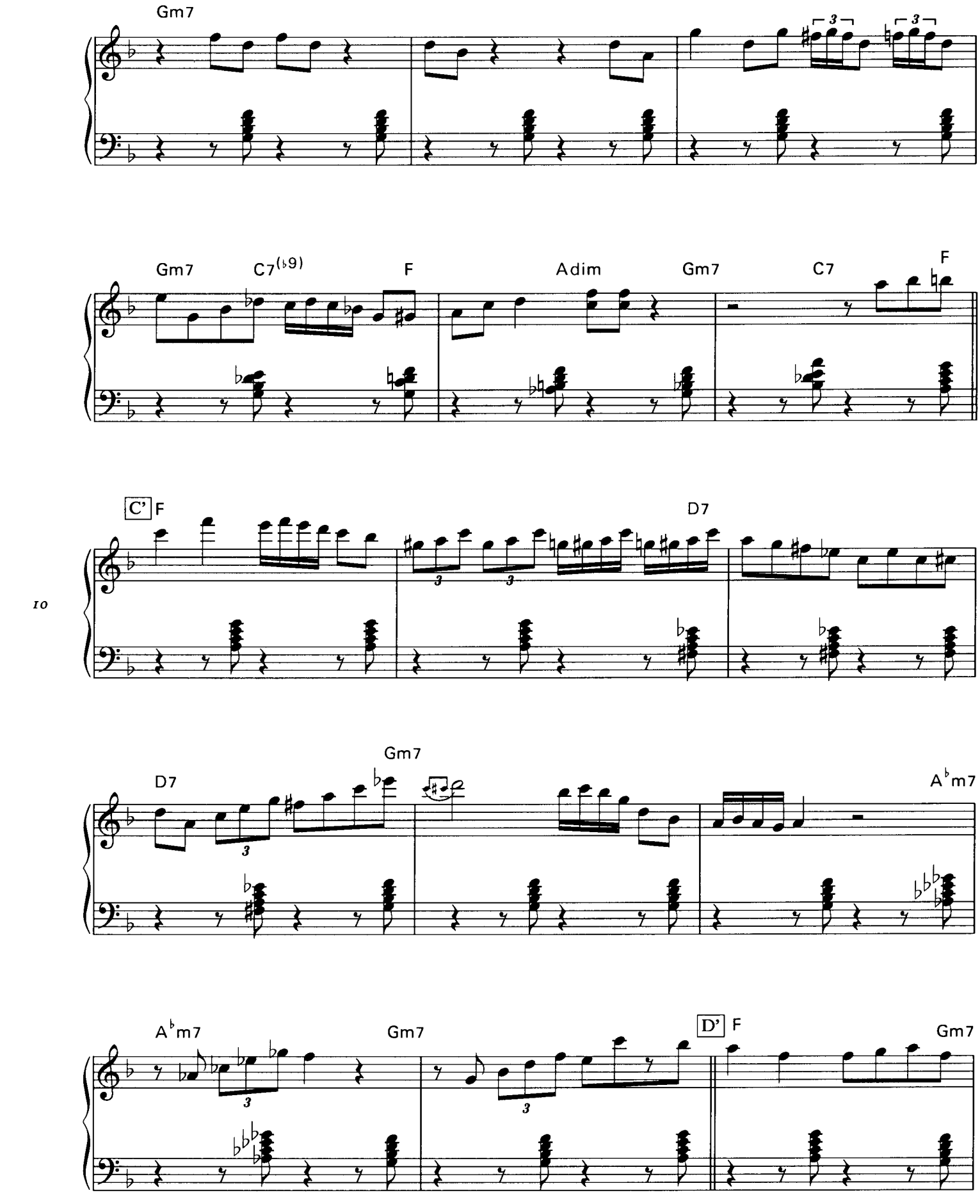

© 1926 by WARNER BROS. INC.
All rights reserved Used by permission
Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.

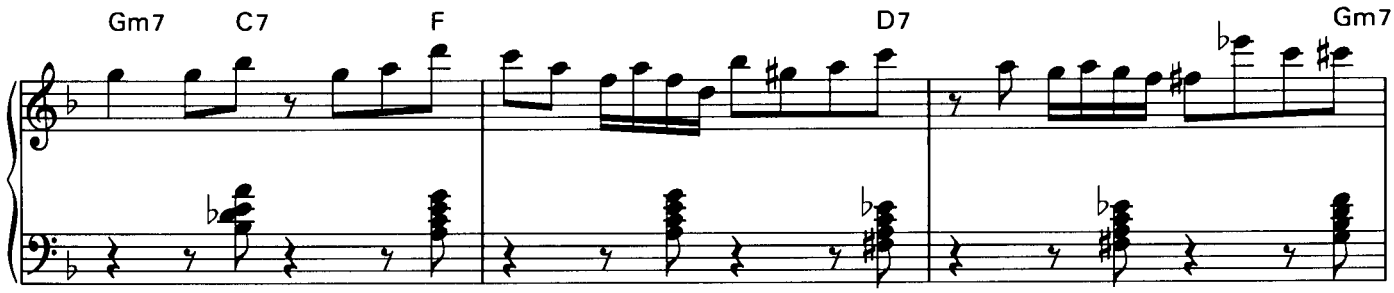


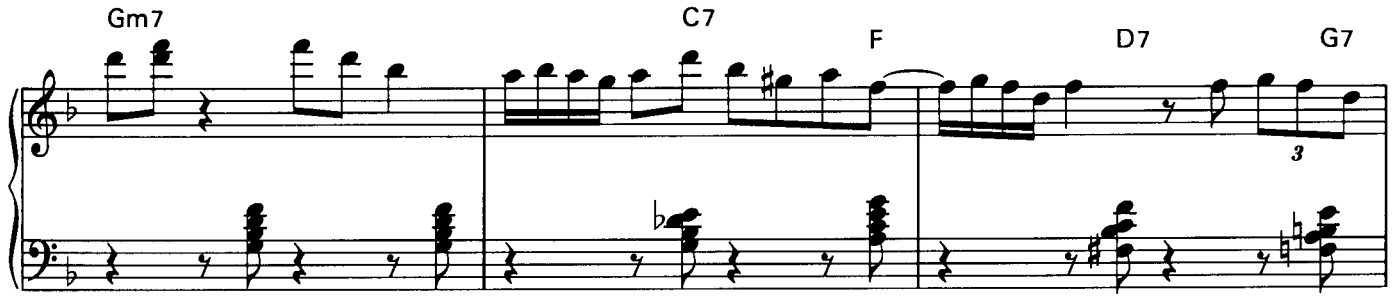

8


Gm7(♭5)
Am7(♭5)
D7
to ⊕
Gm7
C7
A' 1st Improvisation
F
F
Gm7
C7
F
Gm7
C7(♭9)
F
F
D7
Gm7
Gm7
D7
B' Gm7

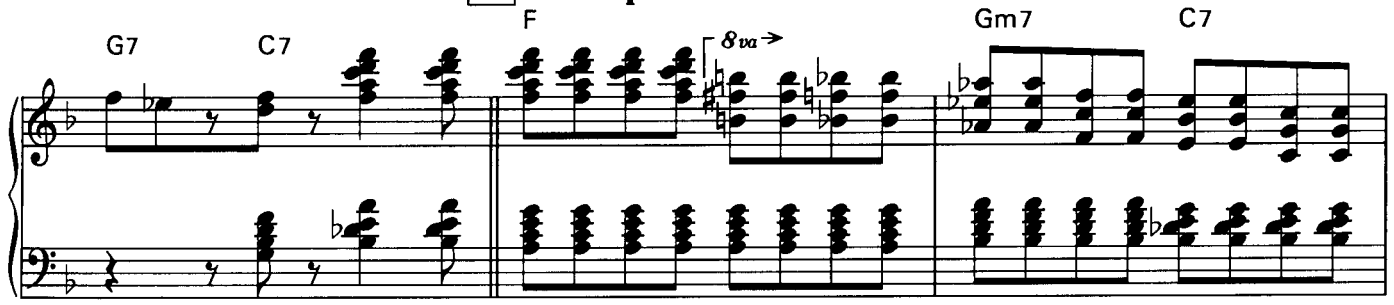
9

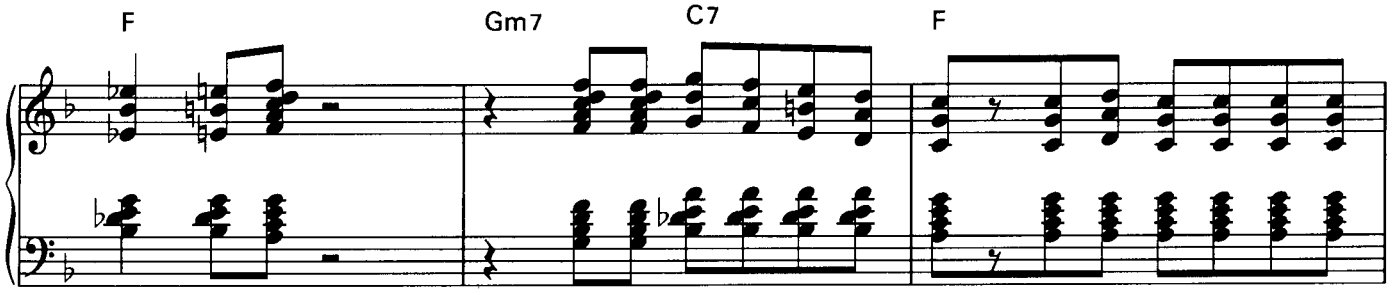

Gm7
Gm7 C7(♭9) F Adim Gm7 C7 F
C' F D7
Gm7
D7 A♭m7
A♭m7 Gm7 D' F Gm7

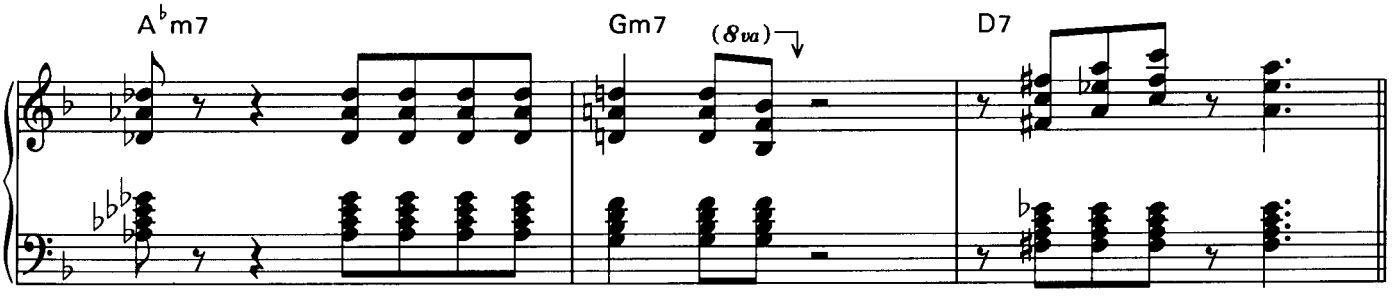


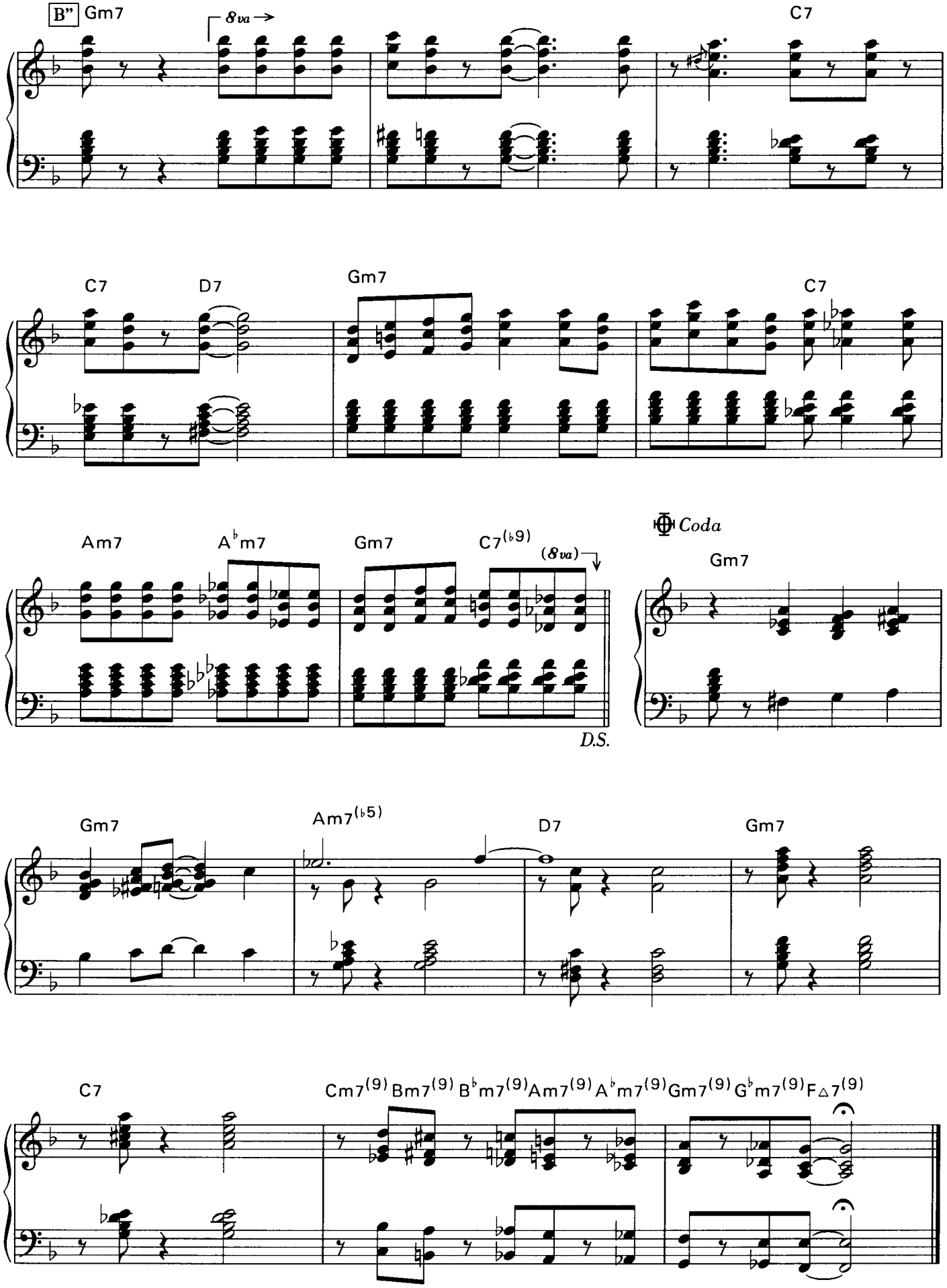




**A" 2nd Improvisation**



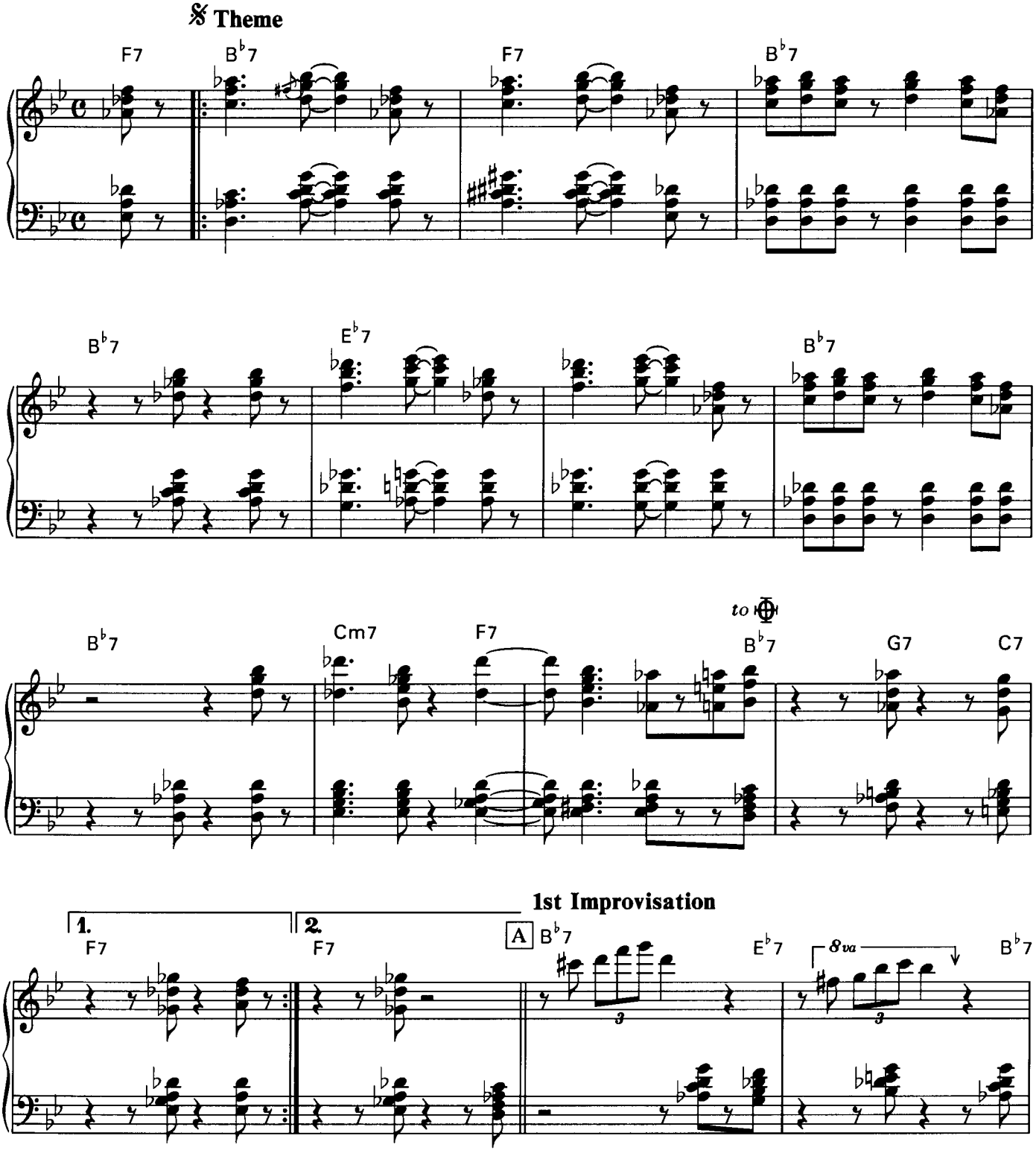




B" Gm7
8va
C7
C7
D7
Gm7
C7
Am7
A♭m7
Gm7
C7(♭9)
(8va)
D.S.
Coda
Gm7
12
Gm7
Am7(♭5)
D7
Gm7
C7
Cm7(9) Bm7(9) B♭m7(9) Am7(9) A♭m7(9) Gm7(9) G♭m7(9) F△7(9)

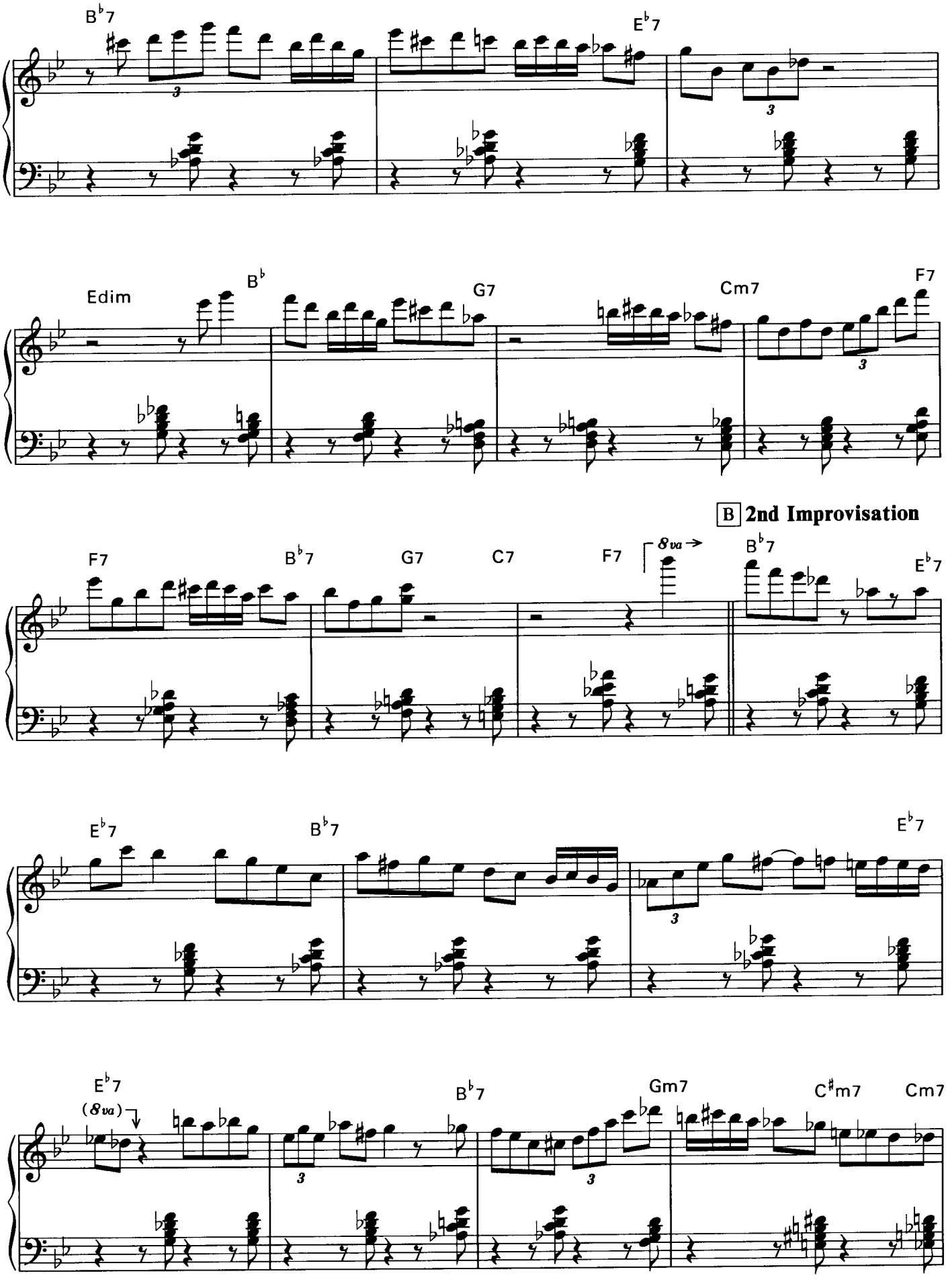
# Blues By Five

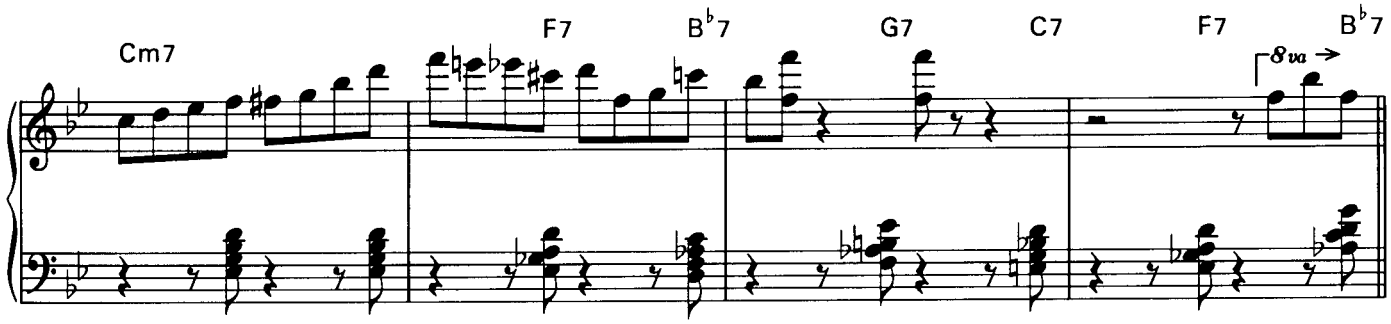
ブルース・バイ・ファイヴ

Music by Red Garland

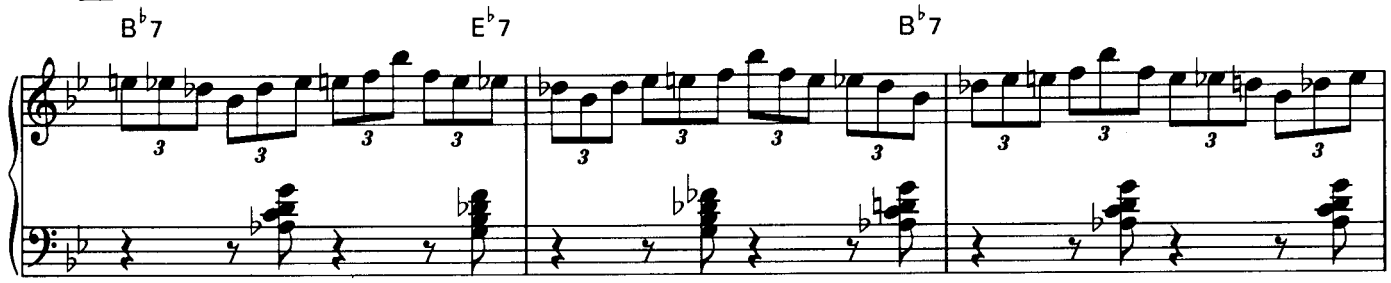


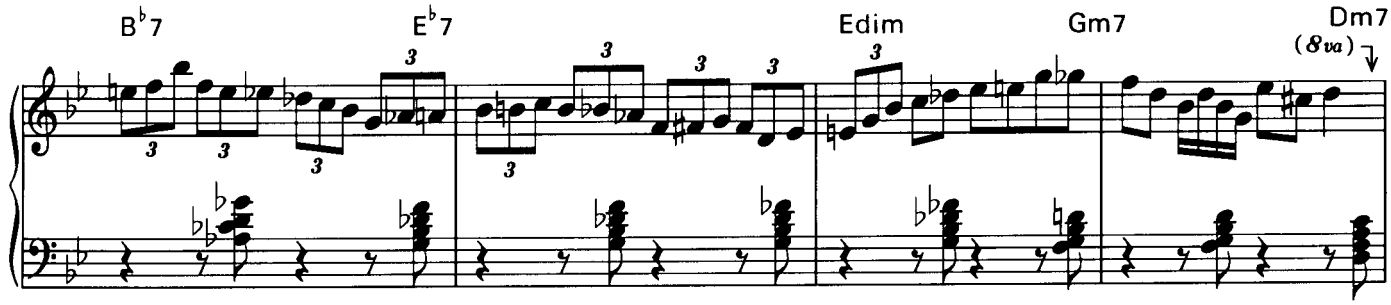

© by PRESTIGE MUSIC CO., INC.
Rights for Japan controlled by VICTOR MUSIC PUBLISHING CO., INC.

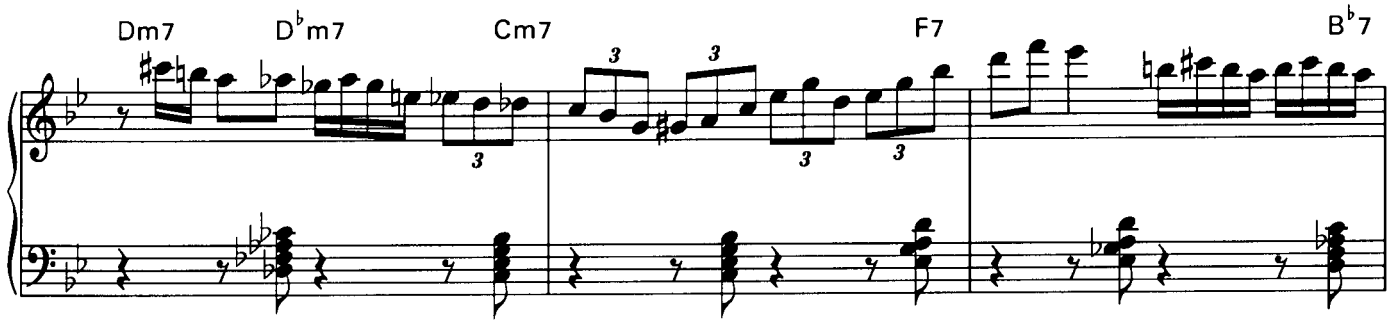

B♭7
E♭7
Edim
B♭
G7
Cm7
F7
B 2nd Improvisation
F7
B♭7
G7
C7
F7
8va
B♭7
E♭7
14
E♭7
B♭7
E♭7
E♭7
(8va)
B♭7
Gm7
C♯m7
Cm7

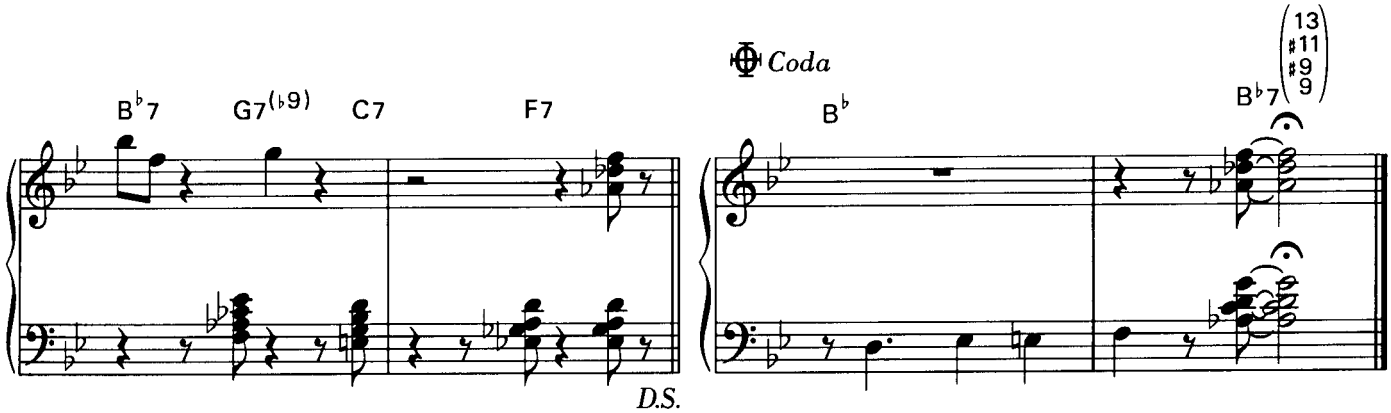



C **3rd Improvisation**



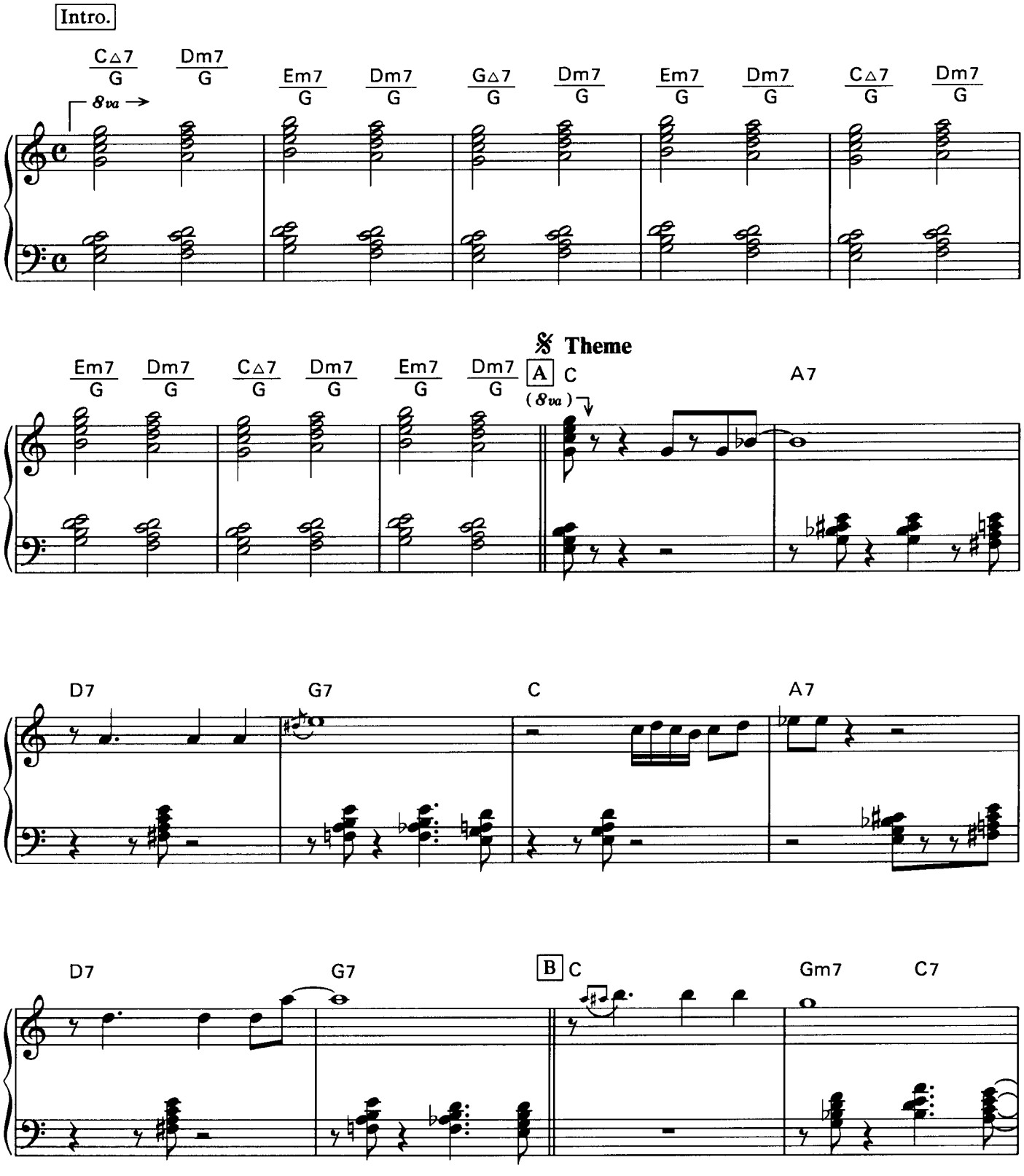



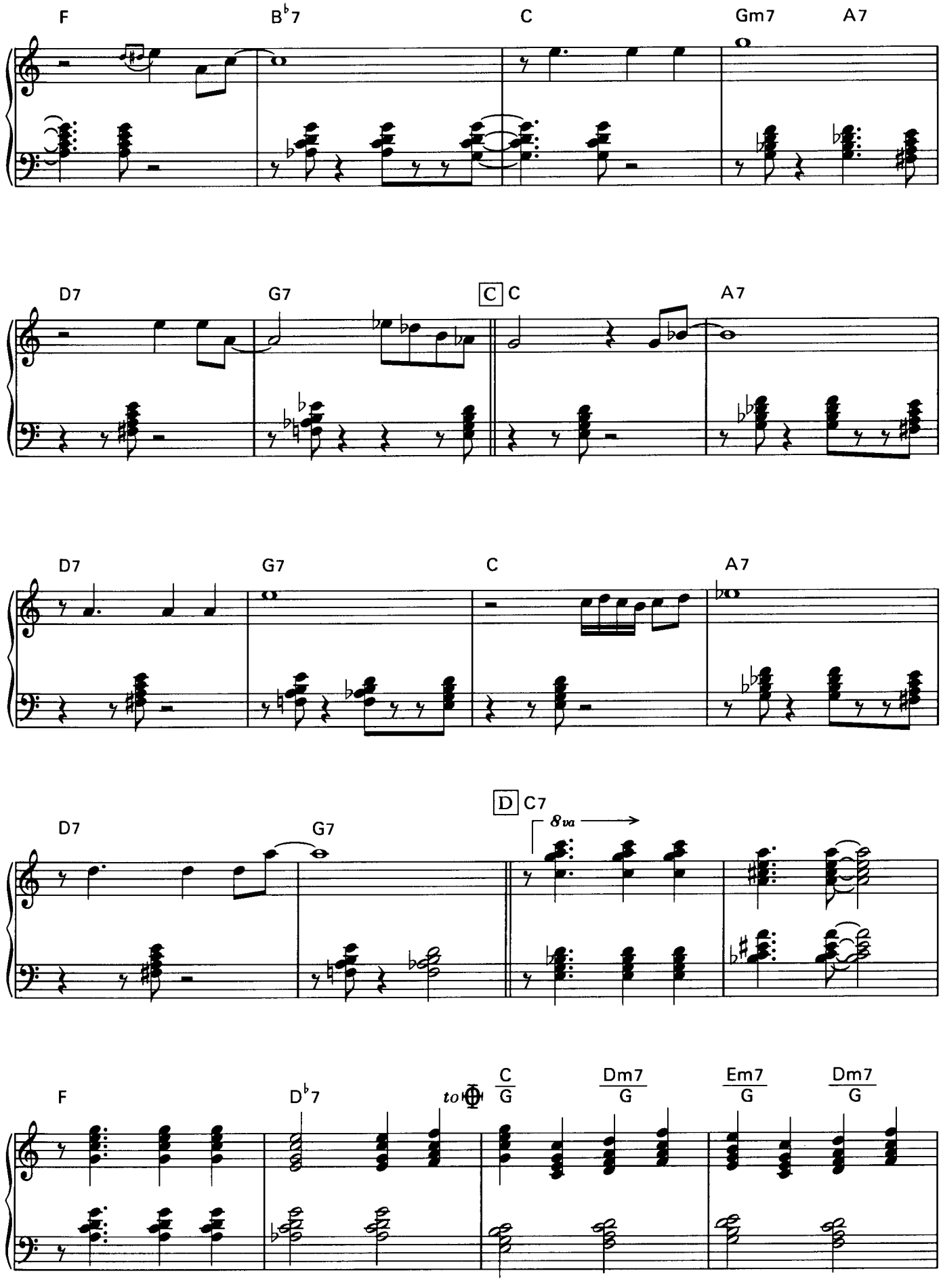
# A Foggy Day

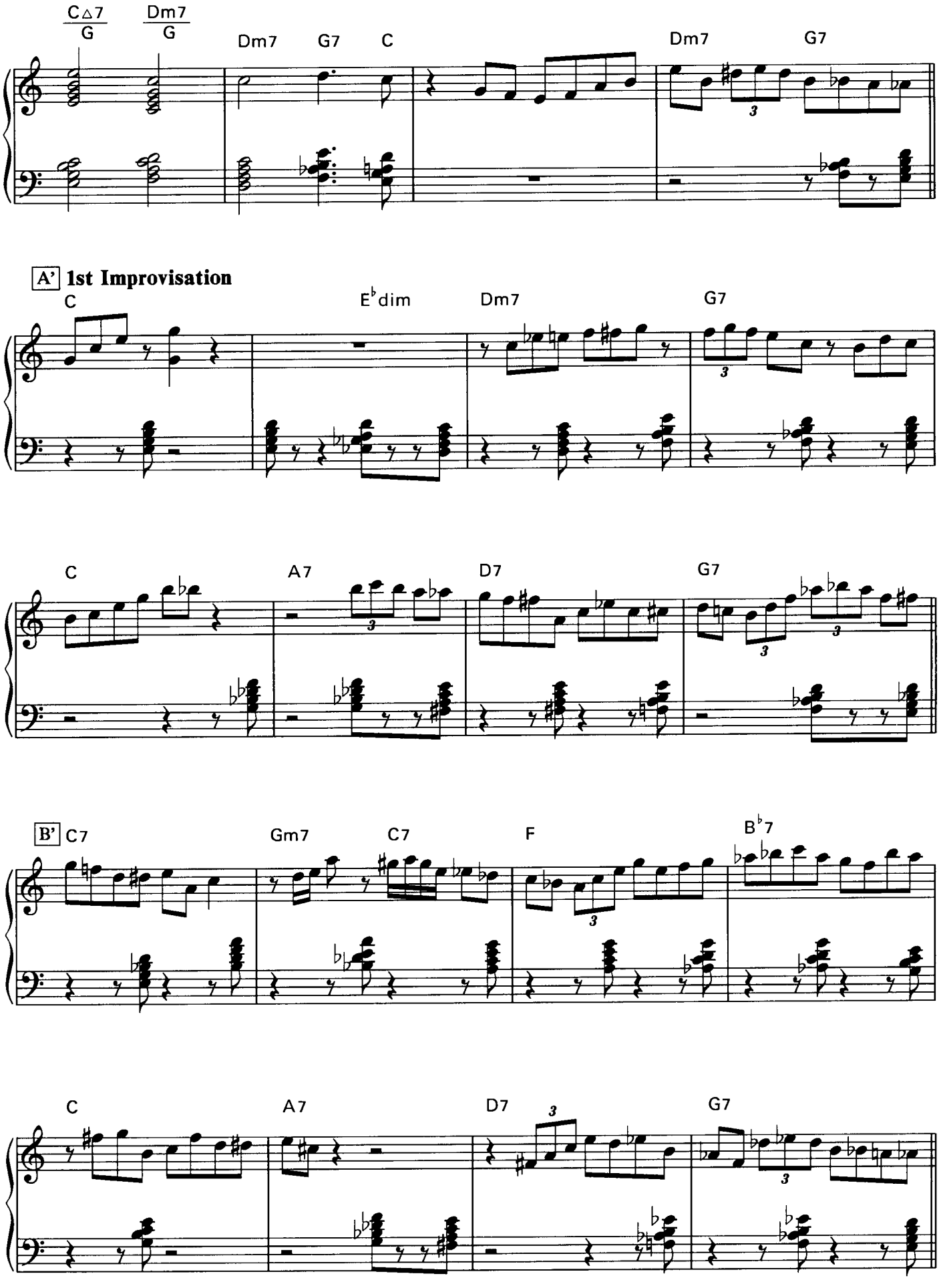
ア・フォギー・デイ

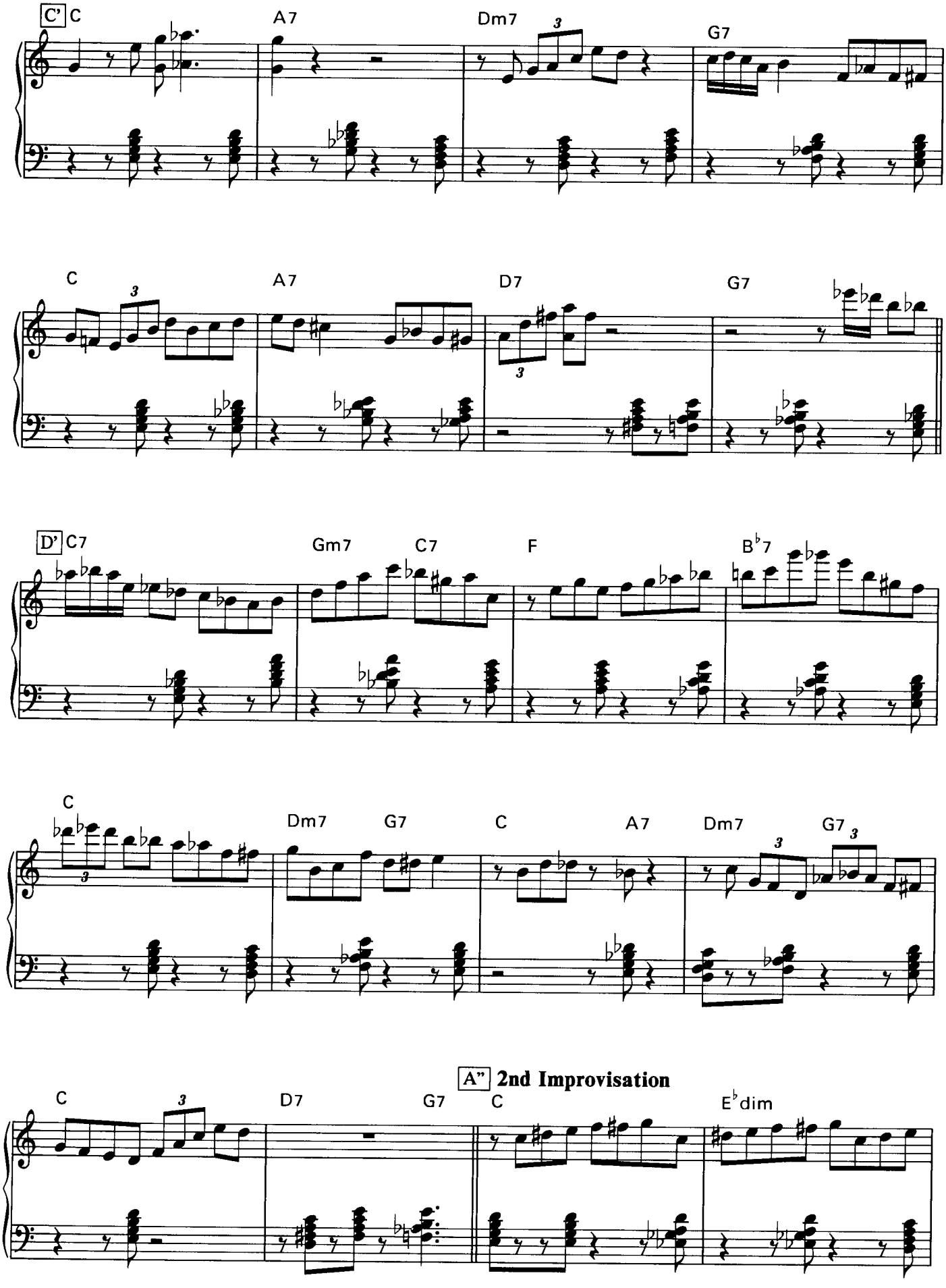
Words & Music by Ira Gershwin and George Gershwin

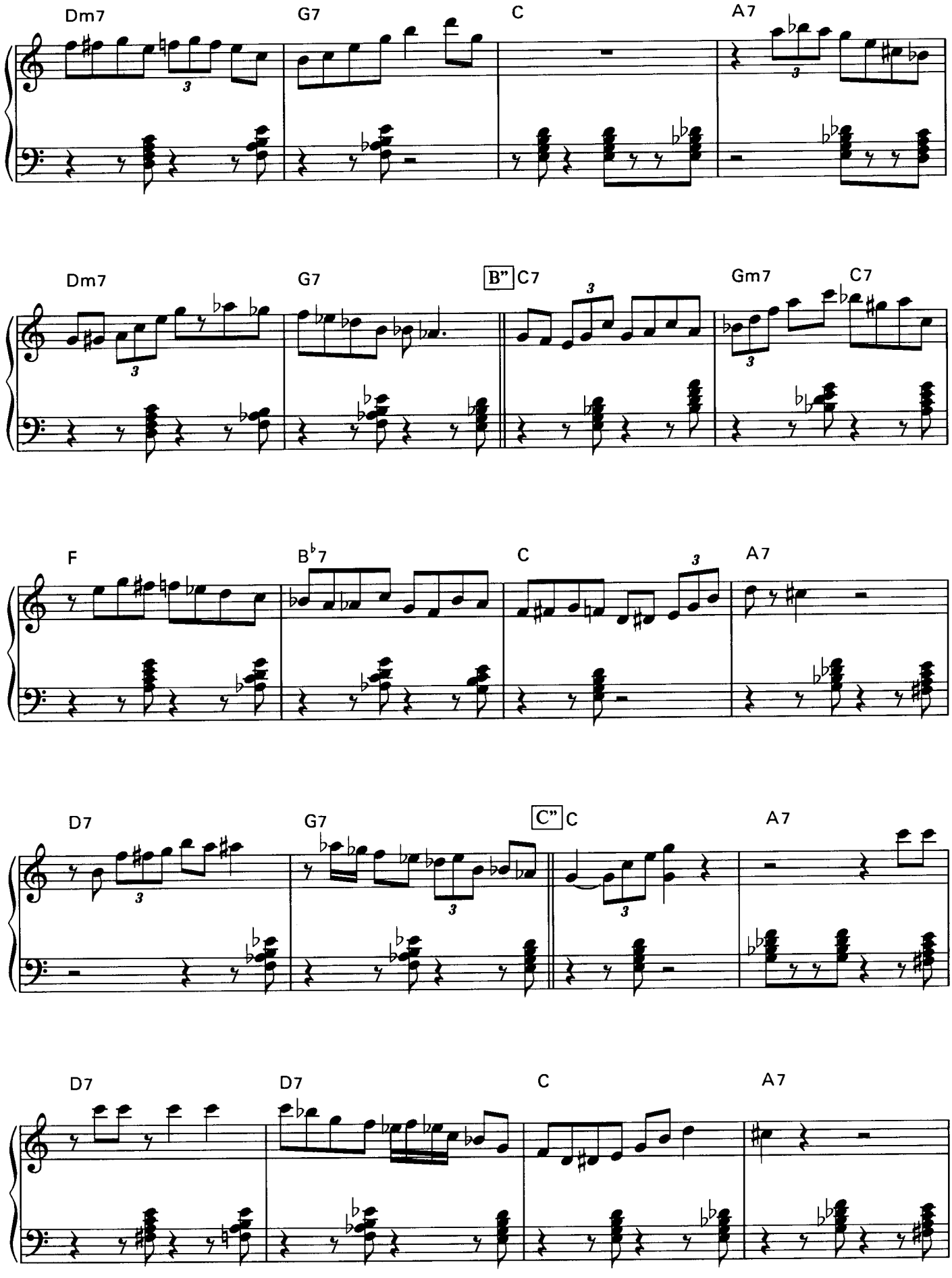


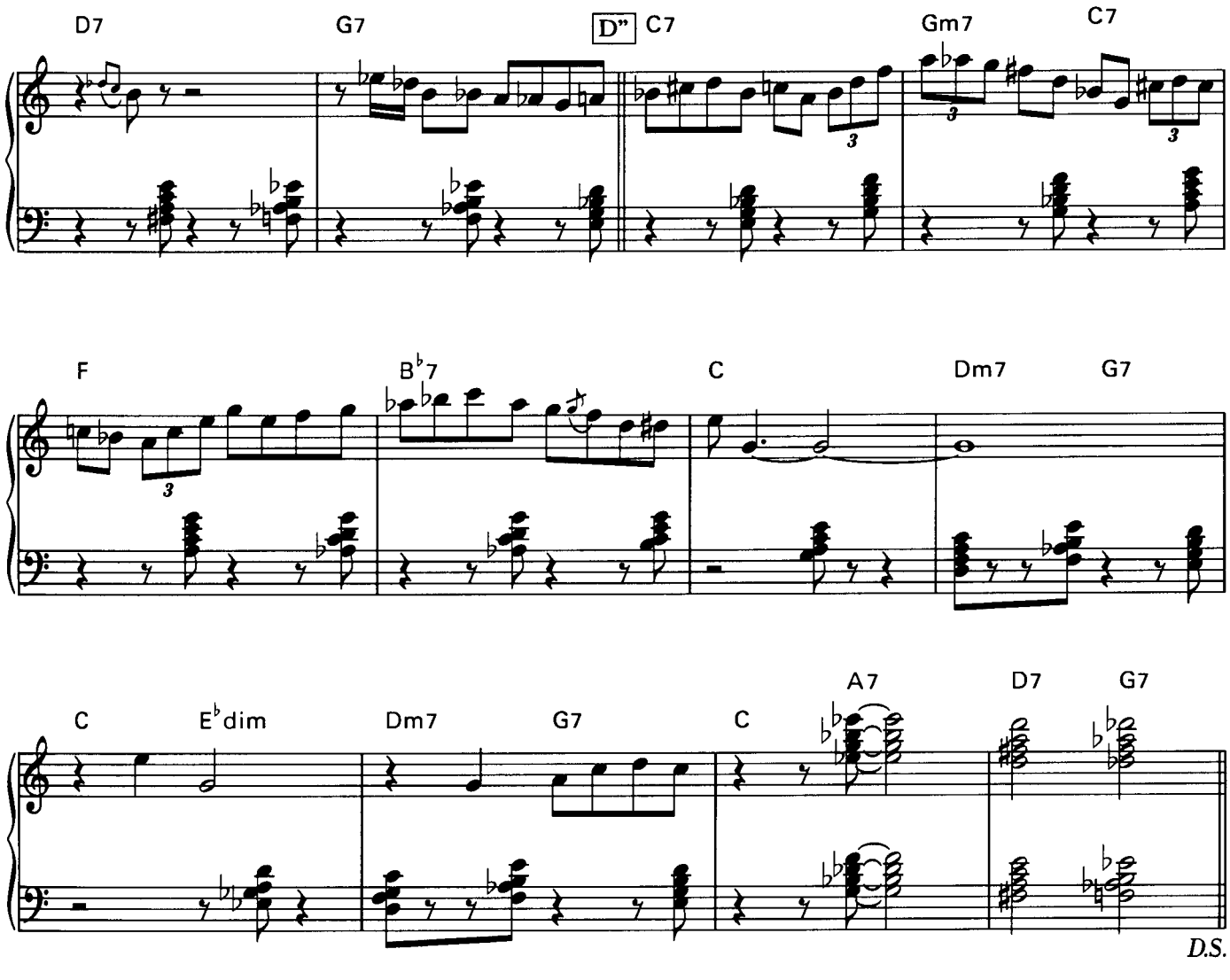

© 1937 by GERSHWIN PUBLISHING CORP.
All rights reserved Used by permission
Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.

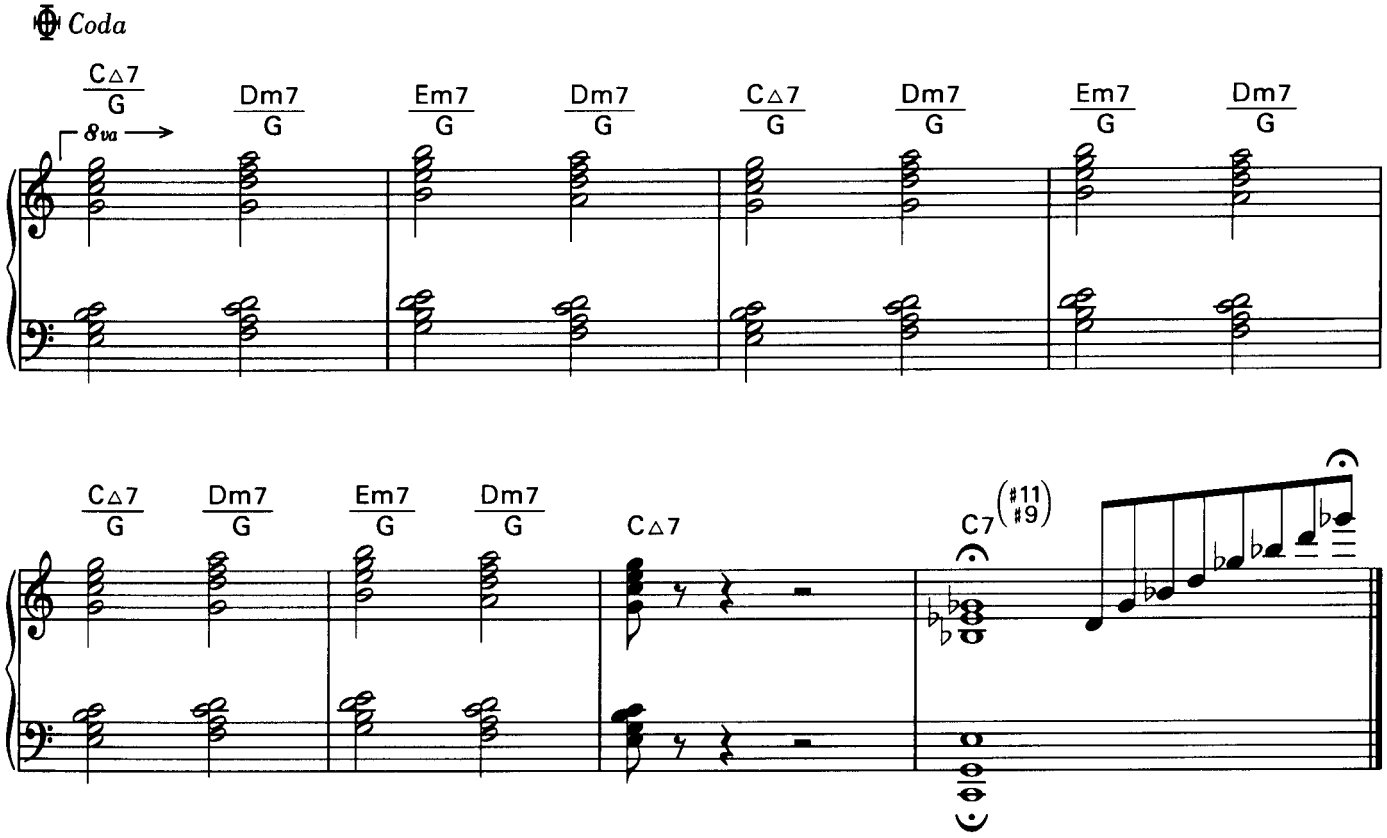

F
B♭7
C
Gm7
A7
D7
G7
C C
A7
D7
G7
C
A7
D7
G7
D C7
8va
F
D♭7
to ⊕
C/G
Dm7/G
Em7/G
Dm7/G


C△7 Dm7
G G
Dm7 G7 C
Dm7 G7
A' 1st Improvisation
C E♭dim Dm7 G7
C A7 D7 G7
B' C7 Gm7 C7 F B♭7
C A7 D7 G7


C' C
A7
Dm7
G7
C
A7
D7
G7
D' C7
Gm7
C7
F
B♭7
C
Dm7
G7
C
A7
Dm7
G7
A" 2nd Improvisation
C
D7
G7
C
E♭dim


Dm7
G7
C
A7
Dm7
G7
B" C7
Gm7
C7
F
B♭7
C
A7
20
D7
G7
C" C
A7
D7
D7
C
A7

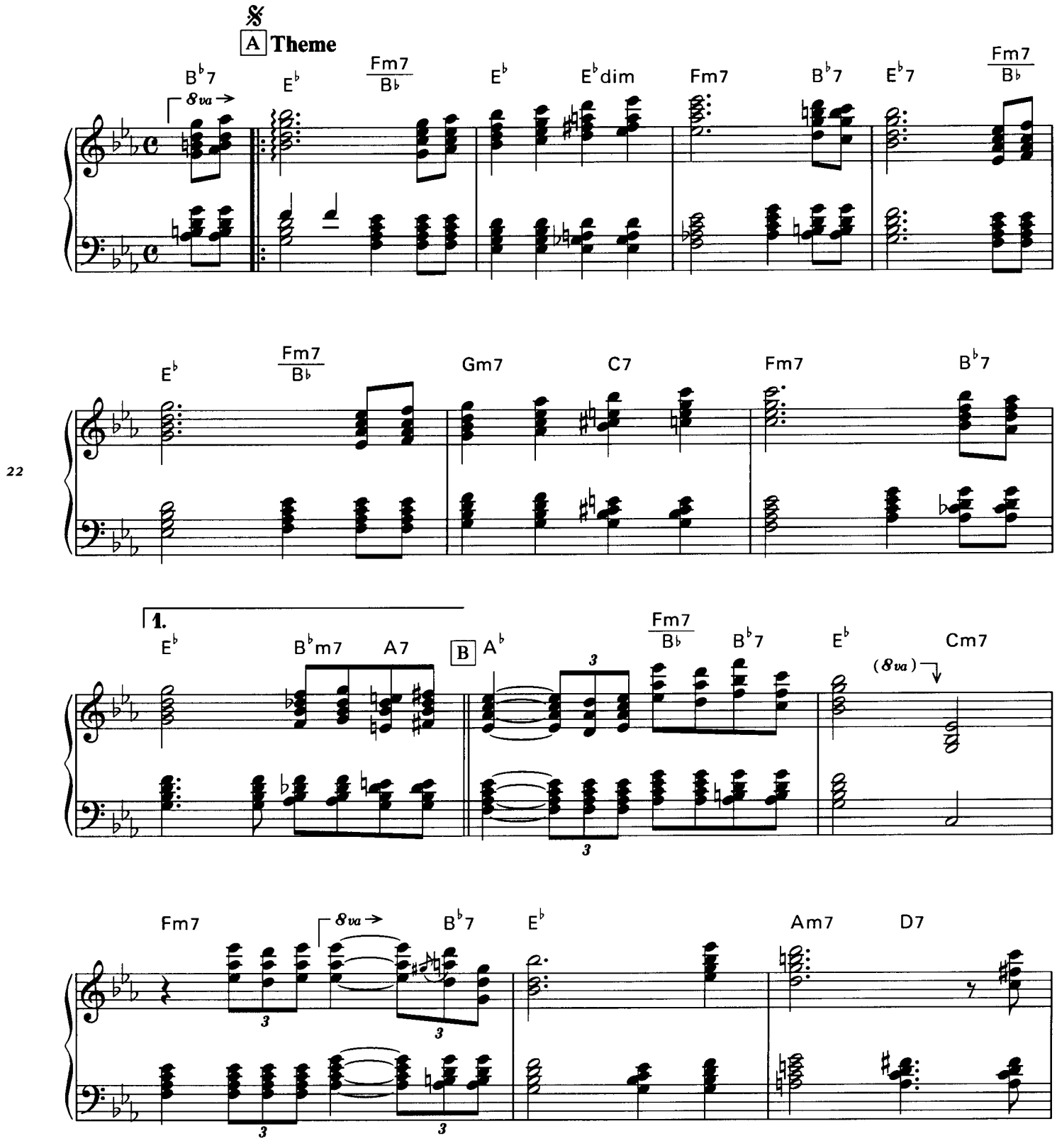

D7
G7
D"
C7
Gm7
C7
F
B♭7
C
Dm7
G7
C
E♭dim
Dm7
G7
C
A7
D7
G7
D.S.


Coda
C△7
G
8va
Dm7
G
Em7
G
Dm7
G
C△7
G
Dm7
G
Em7
G
Dm7
G
C△7
G
Dm7
G
Em7
G
Dm7
G
C△7
C7
(#11 #9)

# My Romance

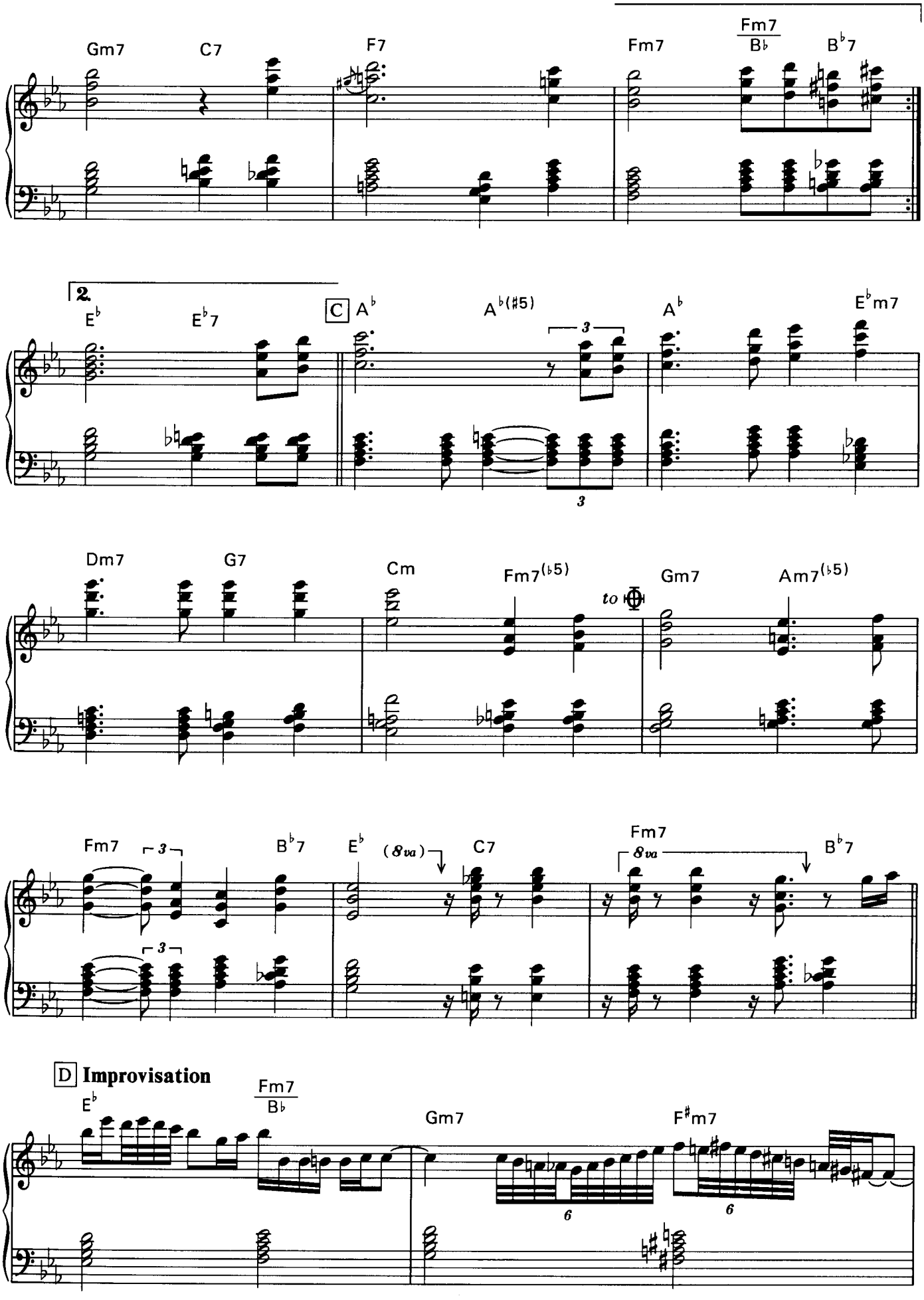
マイ・ロマンス

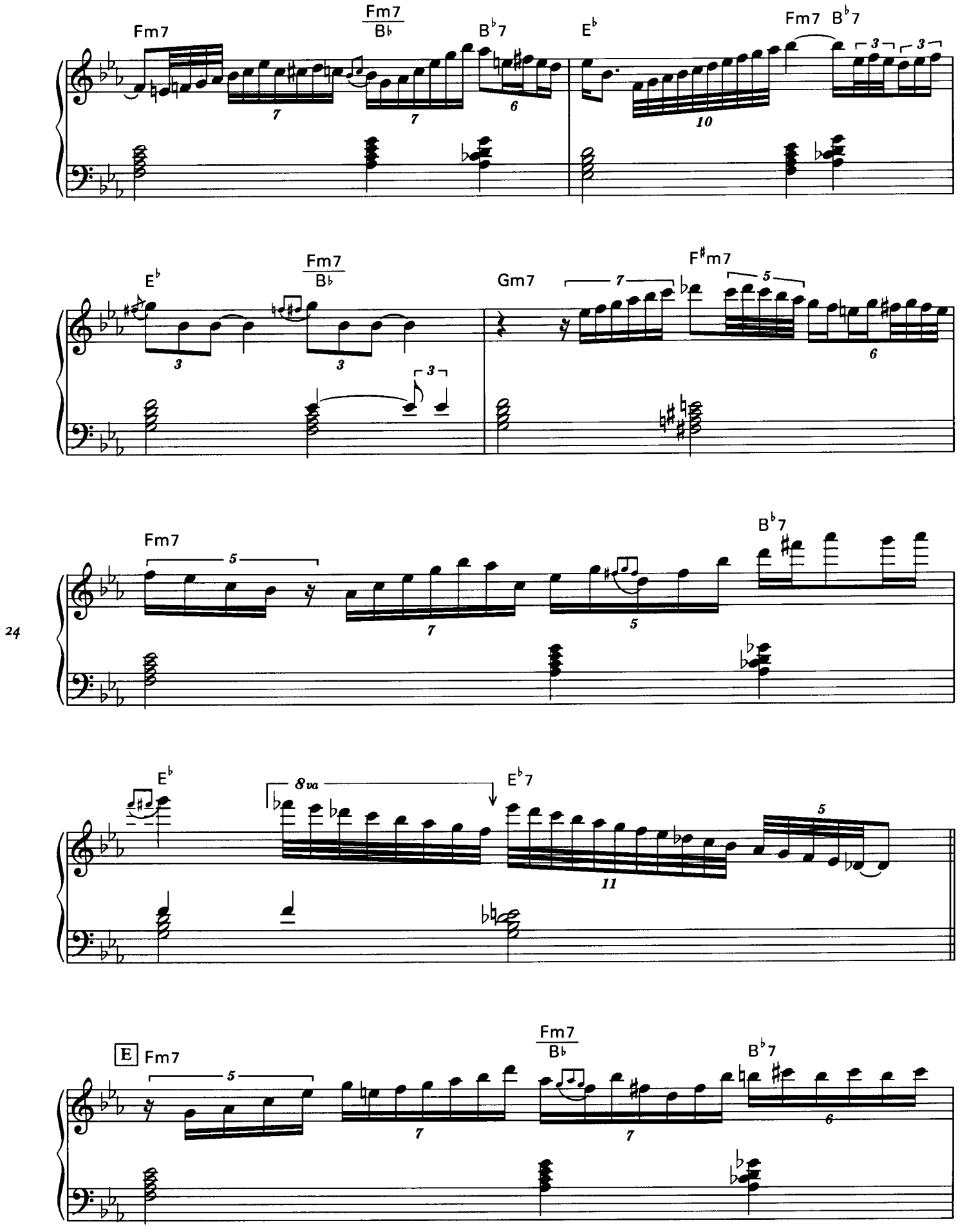
Words & Music by Lorenz Hart and Richard Rodgers

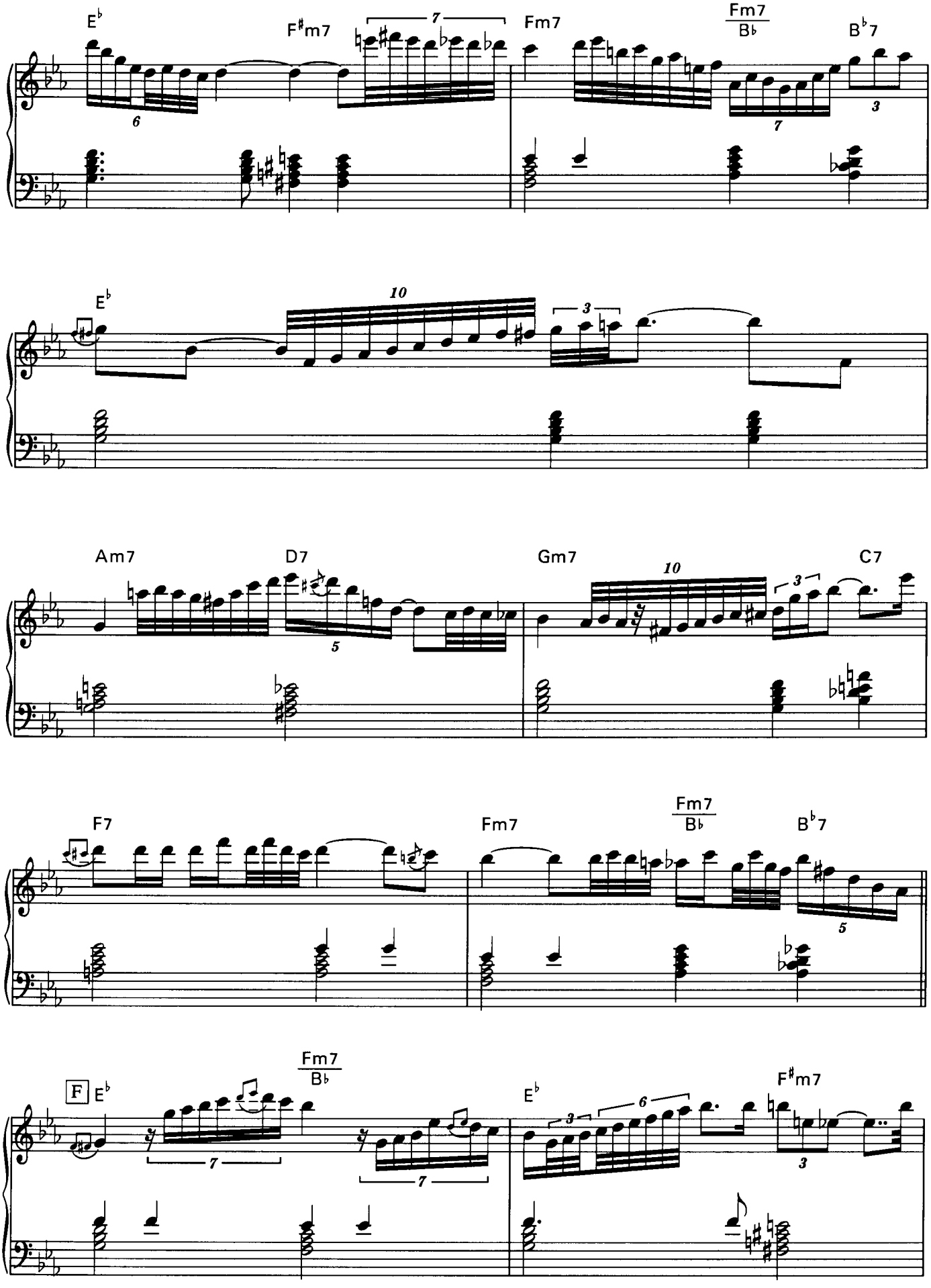




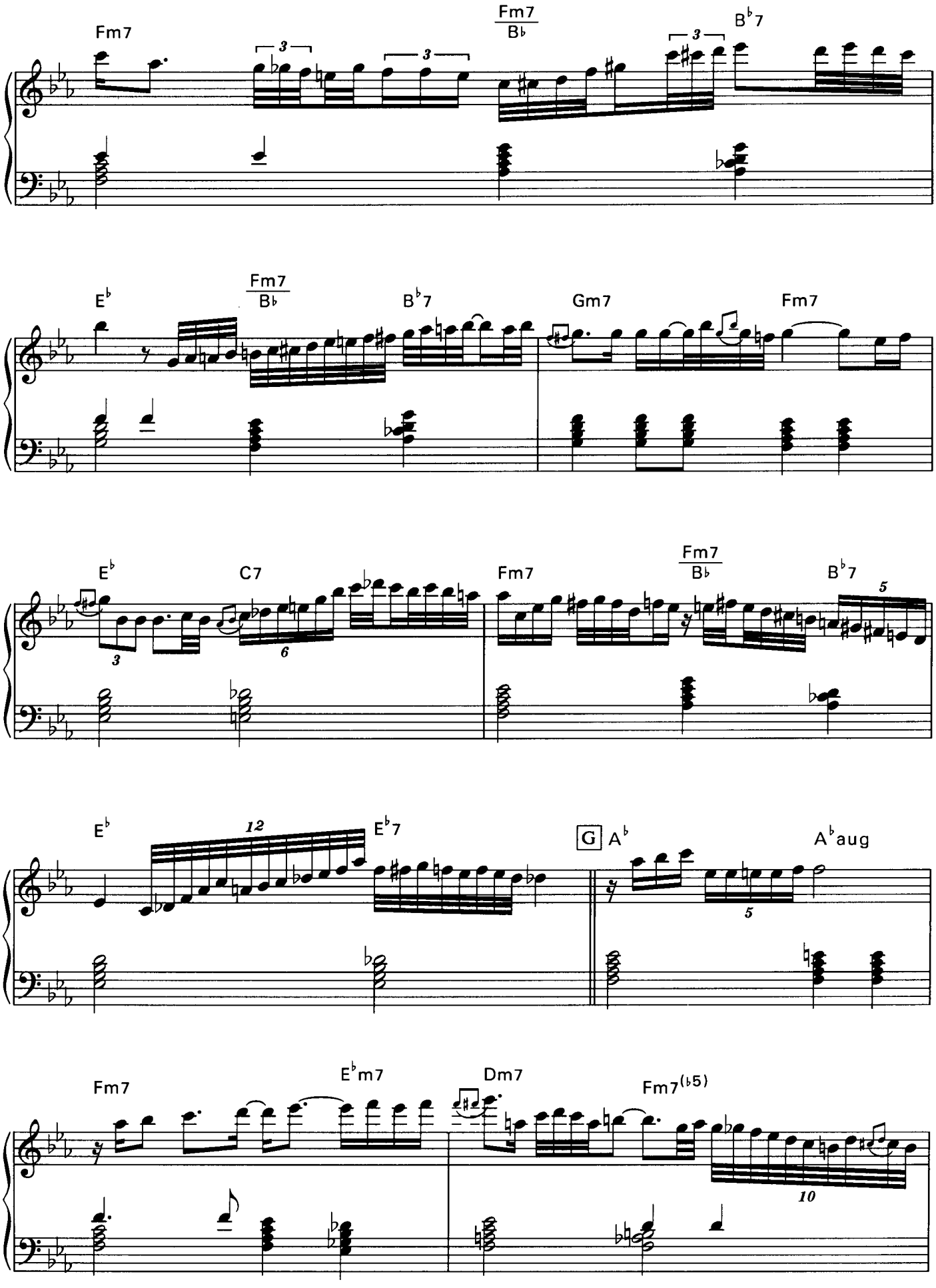

© 1935 T.B. Harms Company/ PolyGram Int'l Publishing, Inc.
Rights for Japan controlled by POLYGRAM MUSIC JAPAN, INC.
Authorized for sale in Japan only.

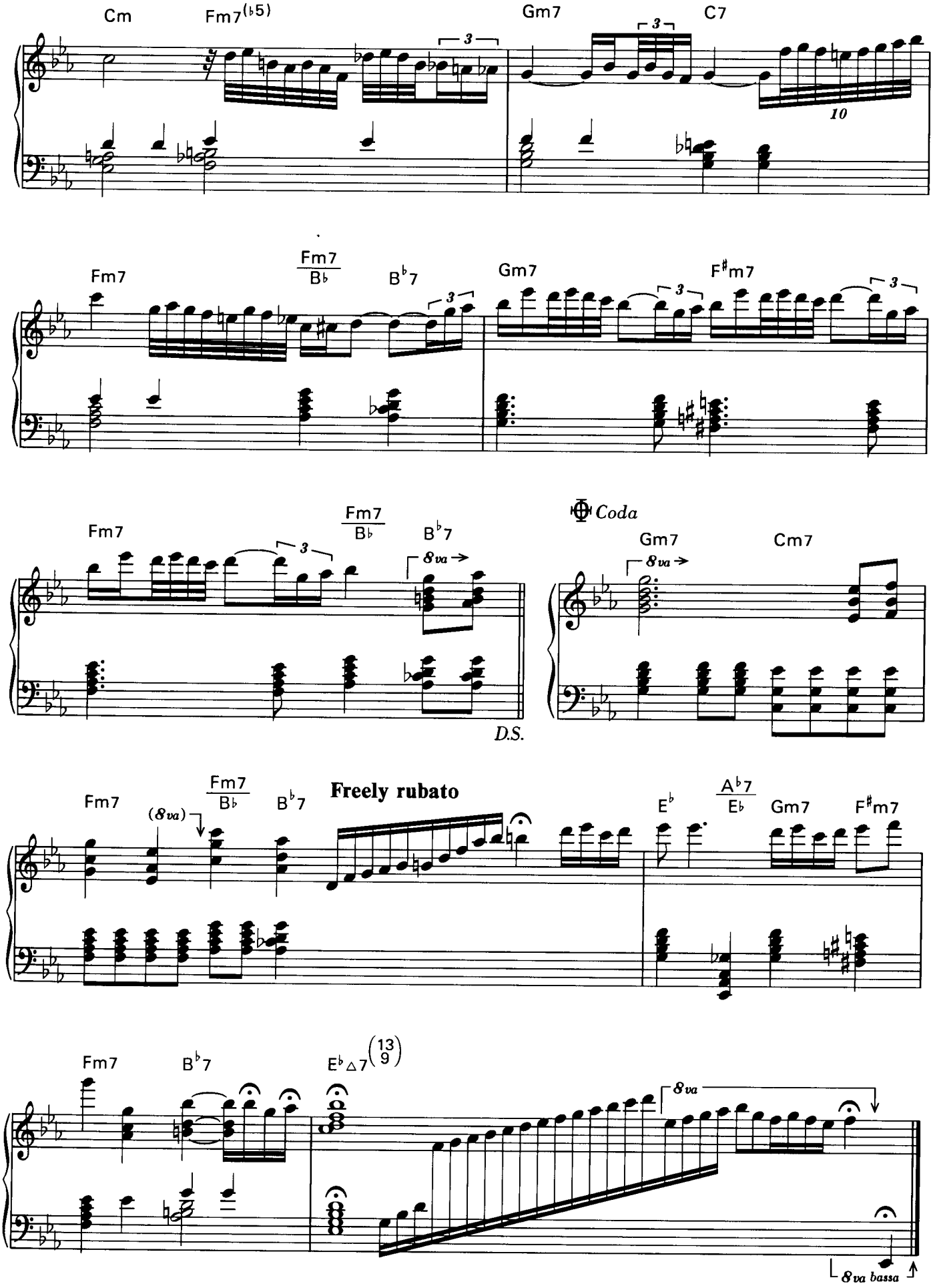

Gm7
C7
F7
Fm7
Fm7/B♭
B♭7
2.
E♭
E♭7
C
A♭
A♭(♯5)
A♭
E♭m7
Dm7
G7
Cm
Fm7(♭5)
to ⊕
Gm7
Am7(♭5)
Fm7
B♭7
E♭
(8va)
C7
Fm7
8va
B♭7
D Improvisation
E♭
Fm7/B♭
Gm7
F♯m7


Fm7
Fm7/B♭
B♭7
E♭
Fm7 B♭7
E♭
Fm7/B♭
Gm7
F♯m7
Fm7
B♭7
24
E♭
8va
E♭7
E Fm7
Fm7/B♭
B♭7




25

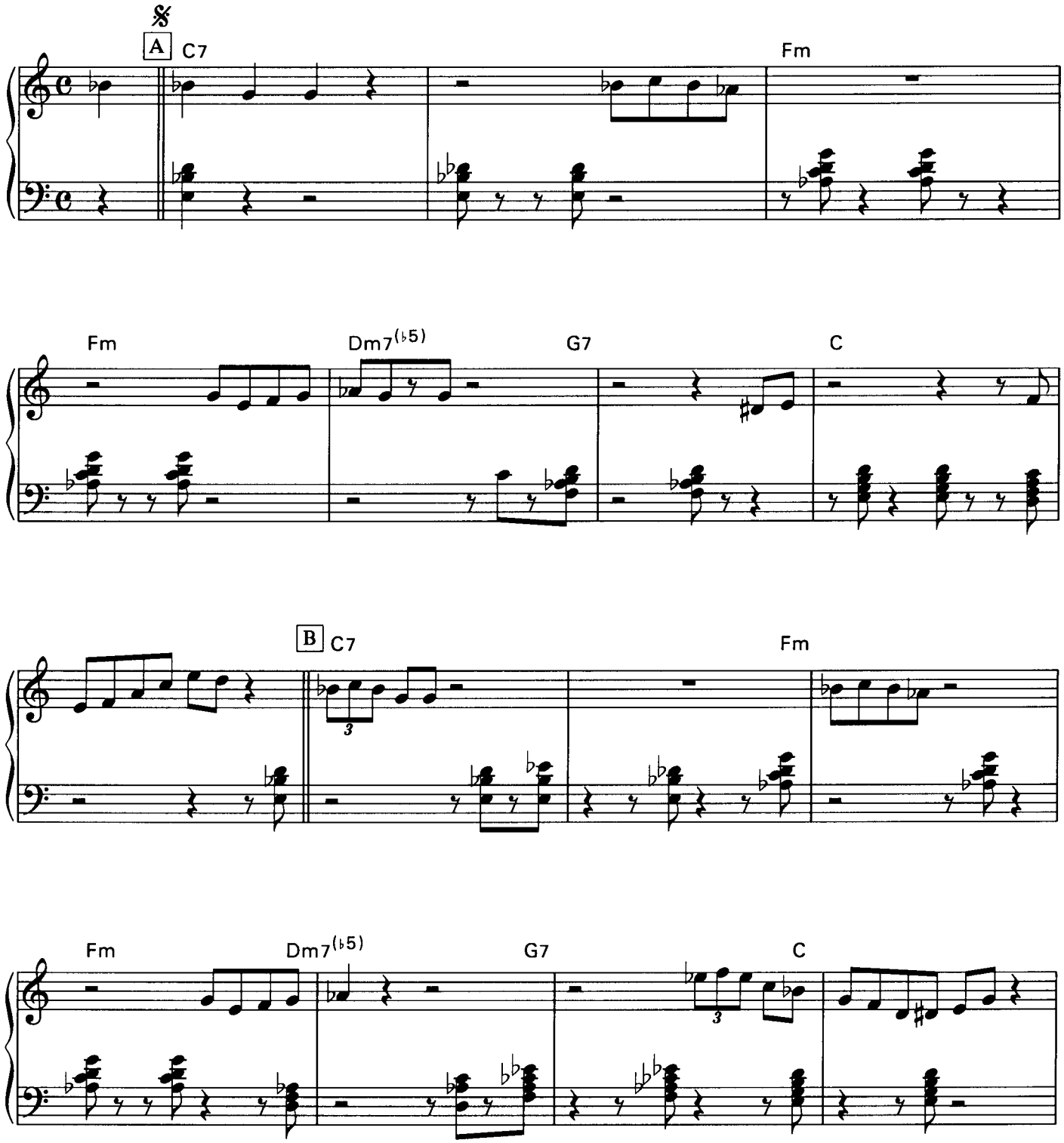

Fm7
Fm7/B♭
B♭7
E♭
Fm7/B♭
B♭7
Gm7
Fm7
E♭
C7
Fm7
Fm7/B♭
B♭7
26
E♭
E♭7
G
A♭
A♭aug
Fm7
E♭m7
Dm7
Fm7(♭5)


Cm
Fm7(♭5)
Gm7
C7
Fm7
Fm7/B♭
B♭7
Gm7
F♯m7
Fm7
Fm7/B♭
B♭7
8va
Coda
Gm7
Cm7
8va
D.S.
Fm7
Fm7/B♭
B♭7
Freely rubato
(8va)
E♭
A♭7/E♭
Gm7
F♯m7
Fm7
B♭7
E♭△7(13/9)
8va
8va bassa

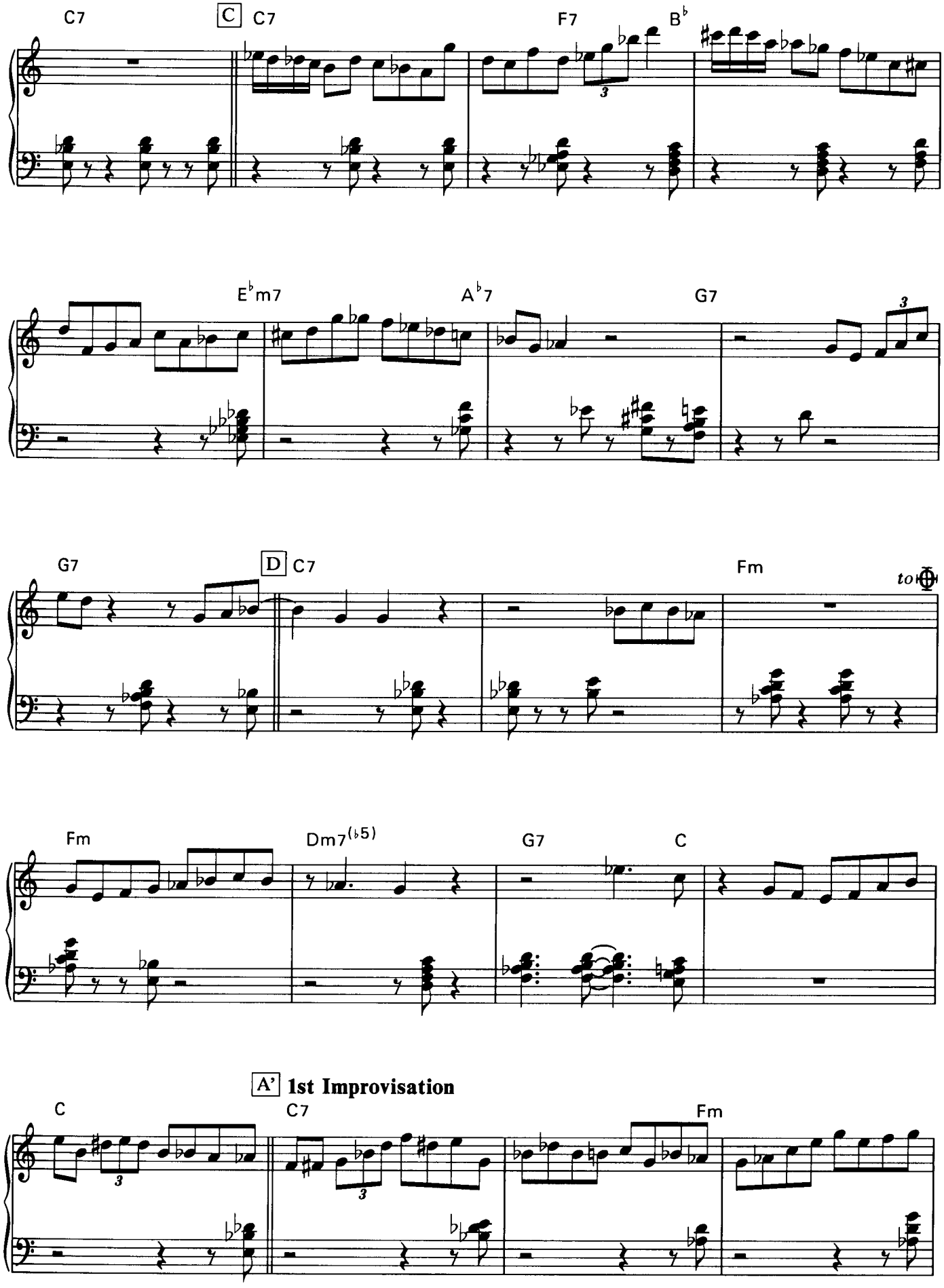
# What Is This Thing Called Love

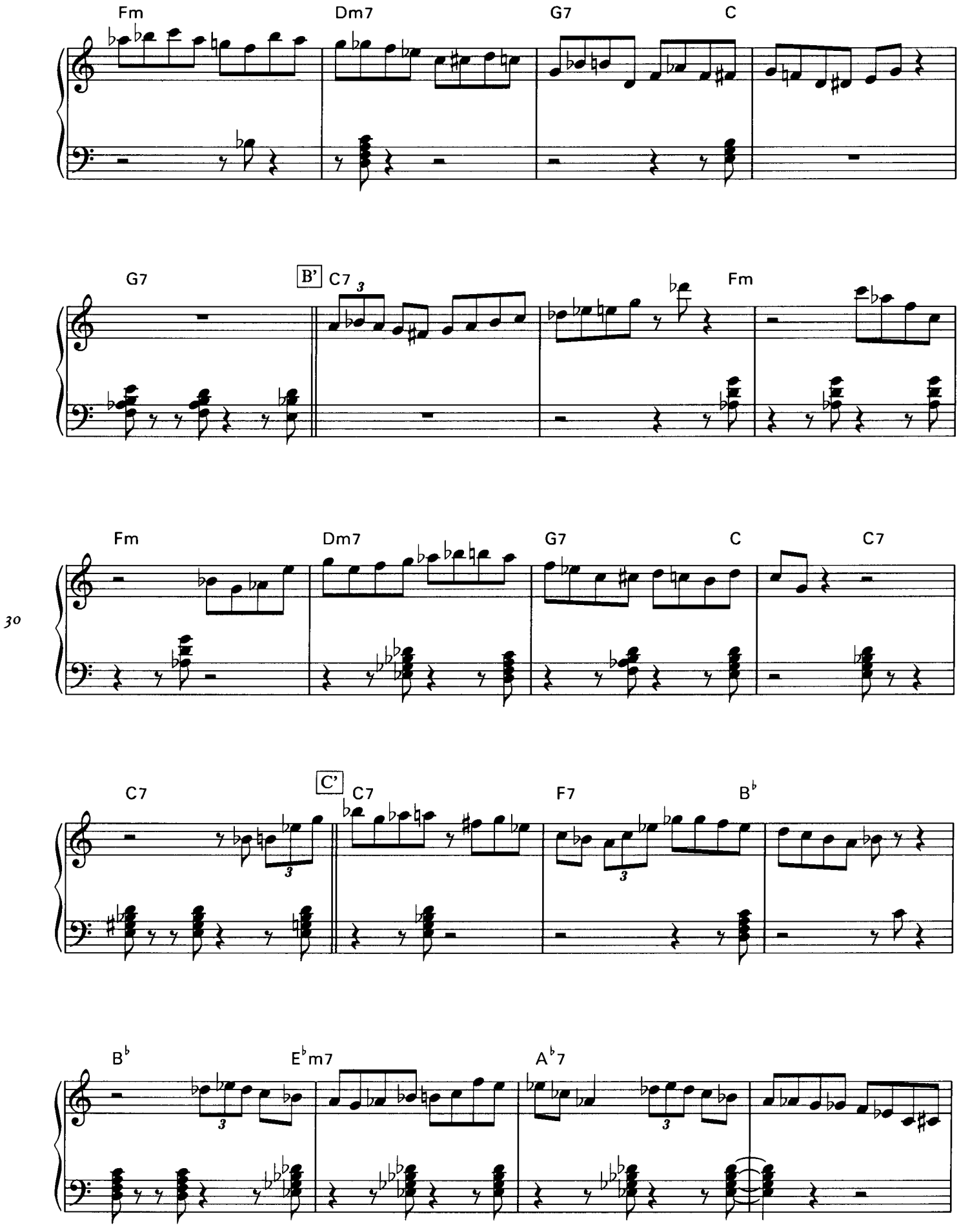
恋とは何でしょう

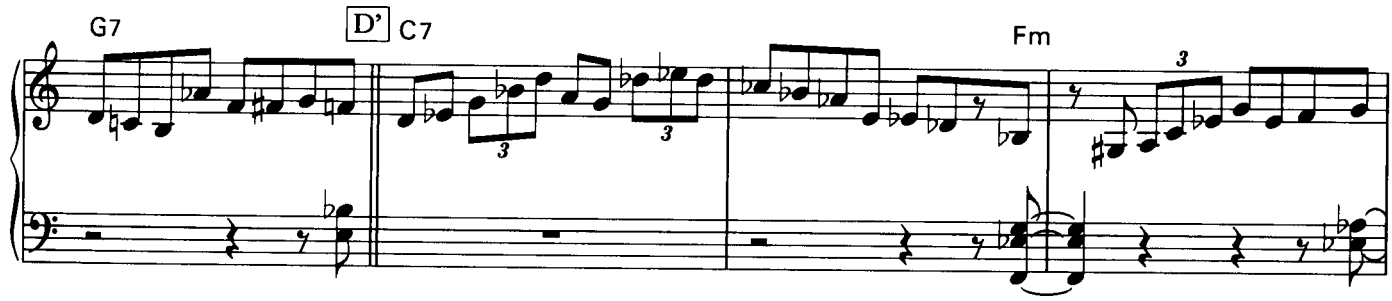
Words & Music by Cole Porter

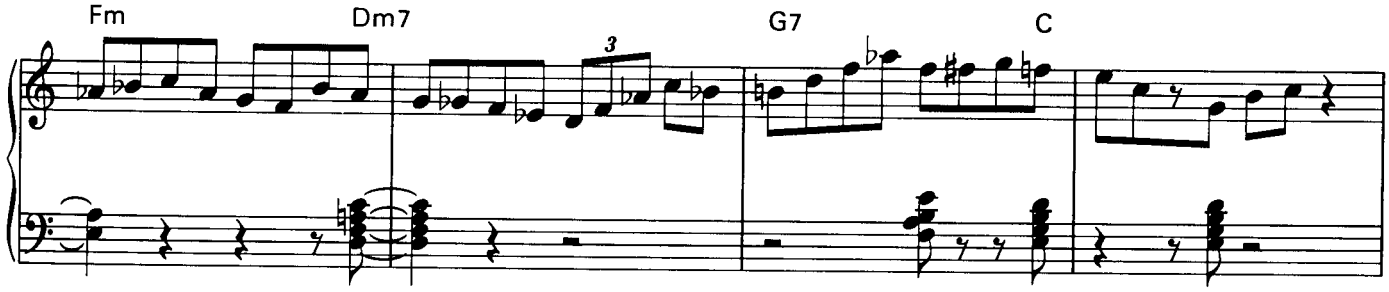



© 1929 by WARNER BROS. INC.
All rights reserved Used by permission
Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.

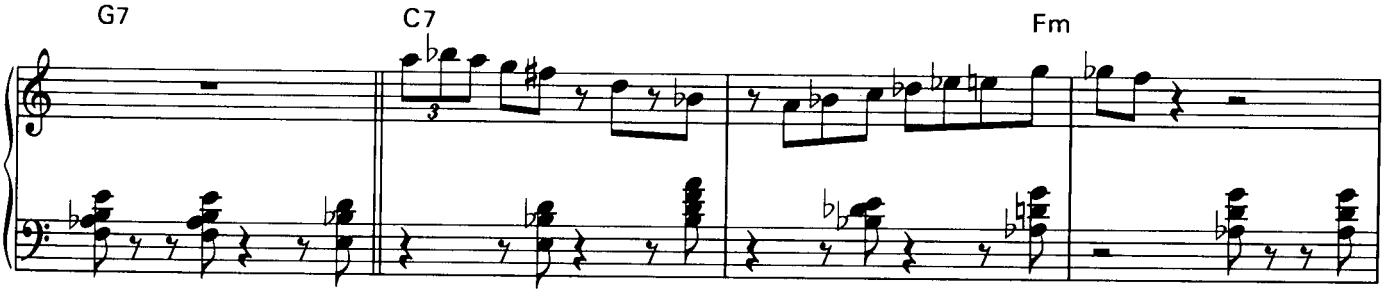

C7
C
C7
F7
B♭
E♭m7
A♭7
G7
G7
D
C7
Fm
to
Fm
Dm7(♭5)
G7
C
A'
1st Improvisation
C
C7
Fm

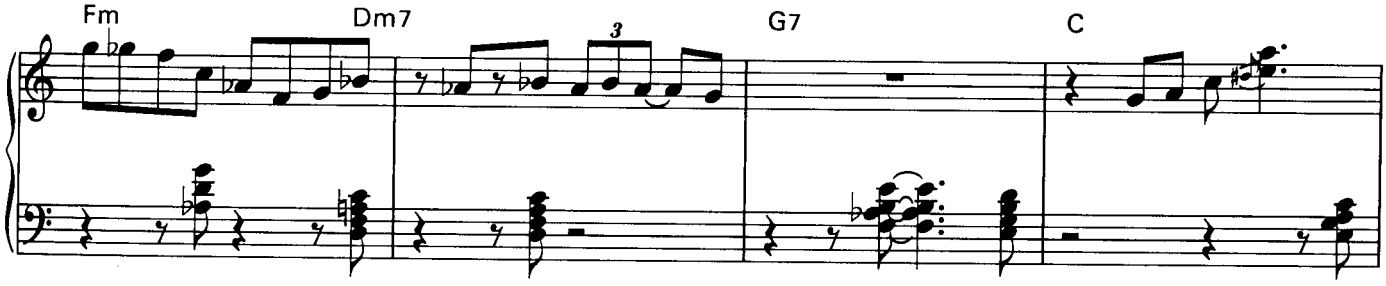

Fm
Dm7
G7
C
G7
B'
C7
Fm
Fm
Dm7
G7
C
C7
30
C7
C'
C7
F7
B♭
B♭
E♭m7
A♭7

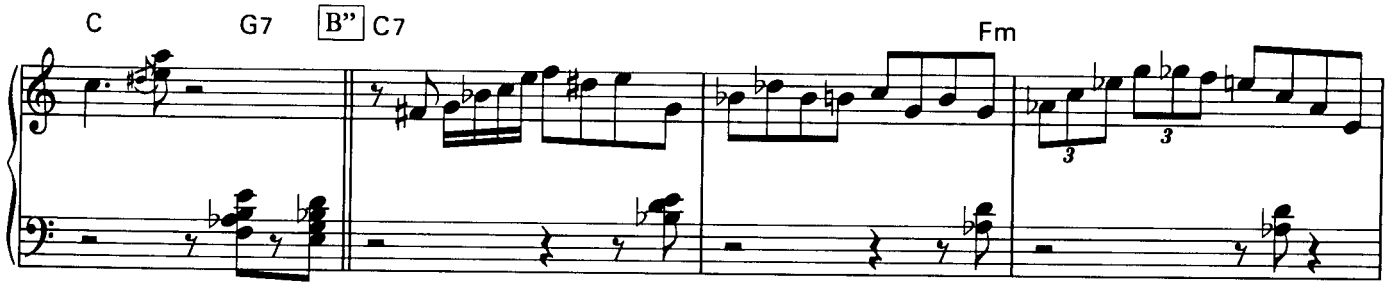


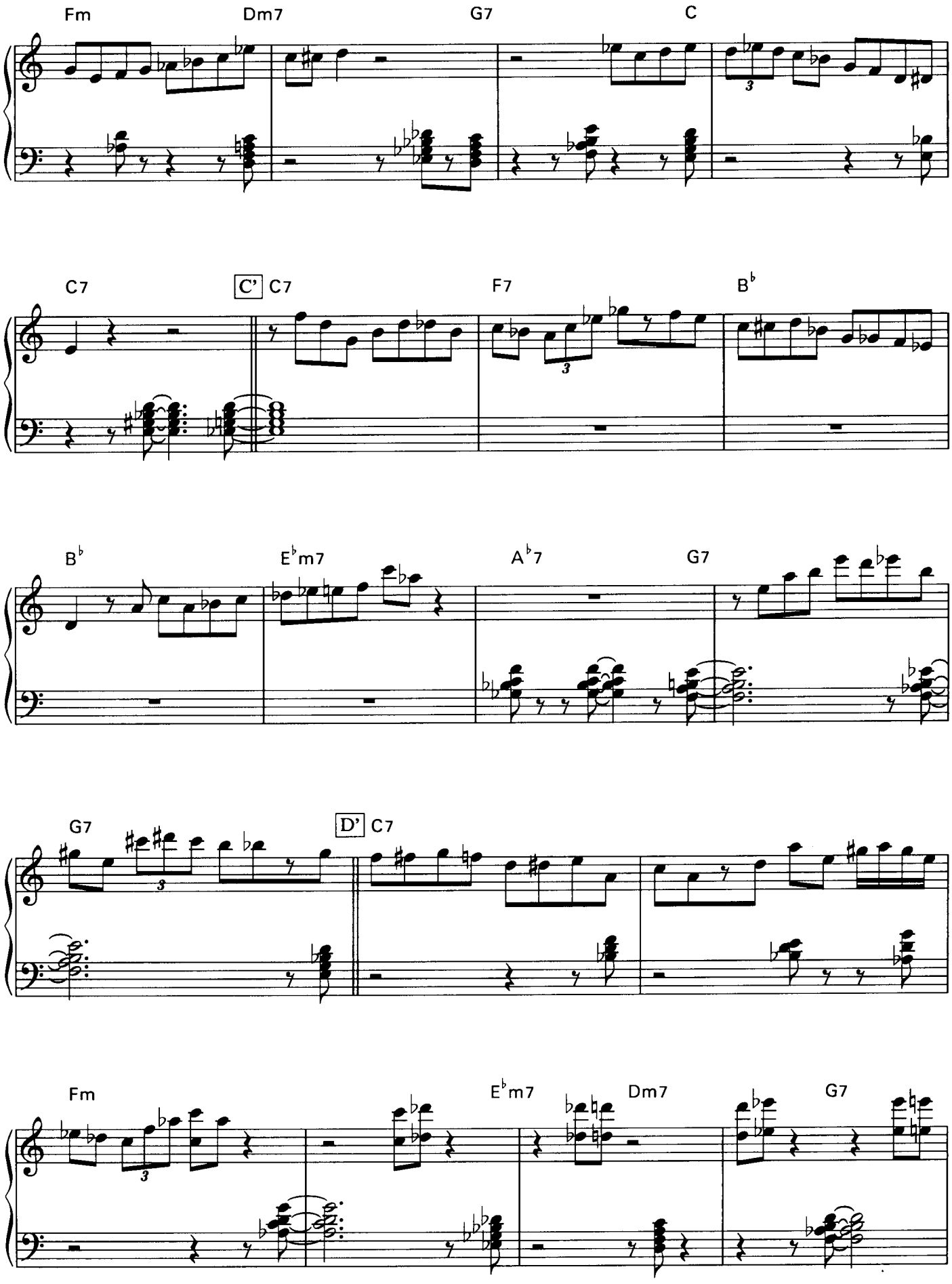



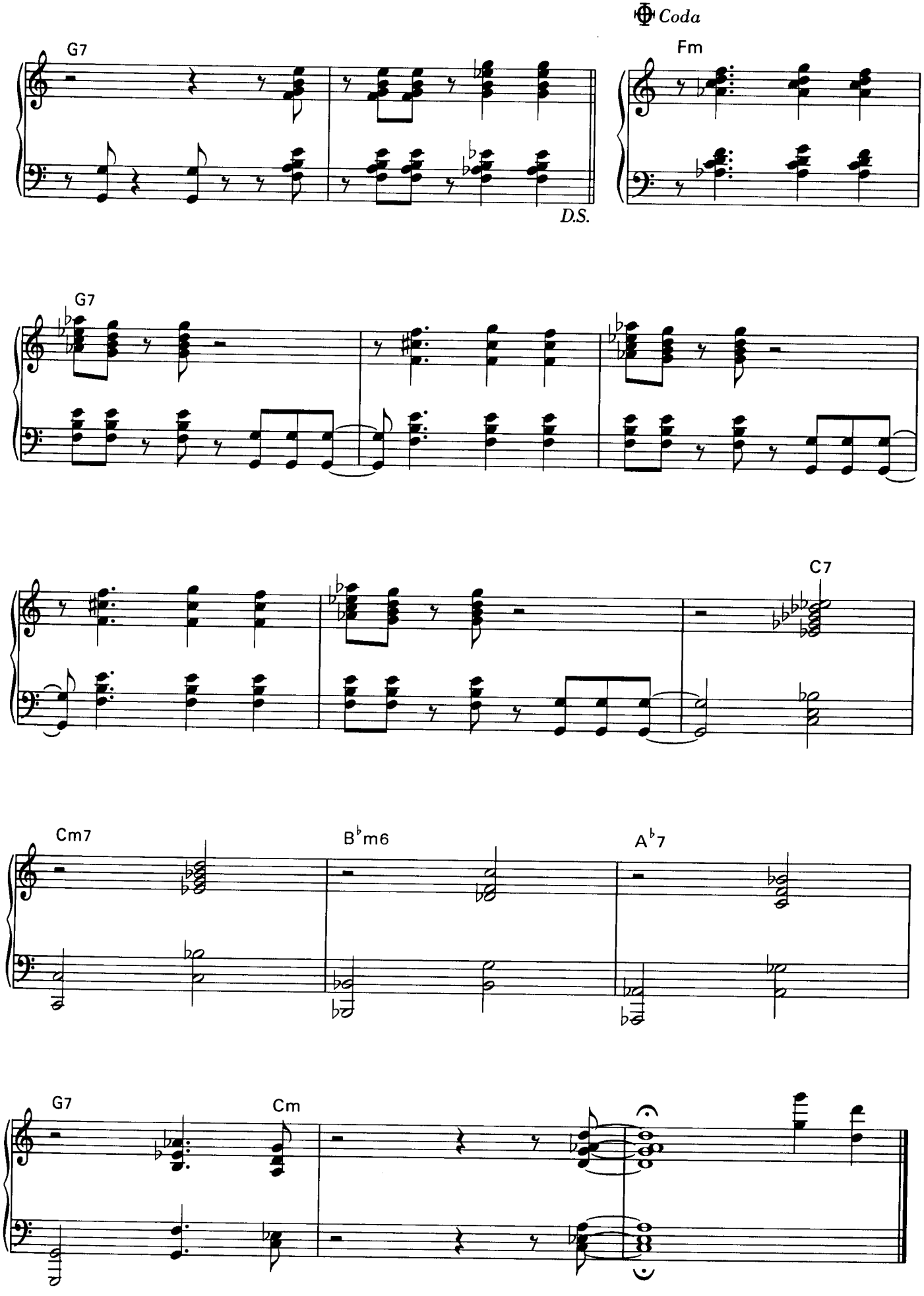

A" **2nd Improvisation**



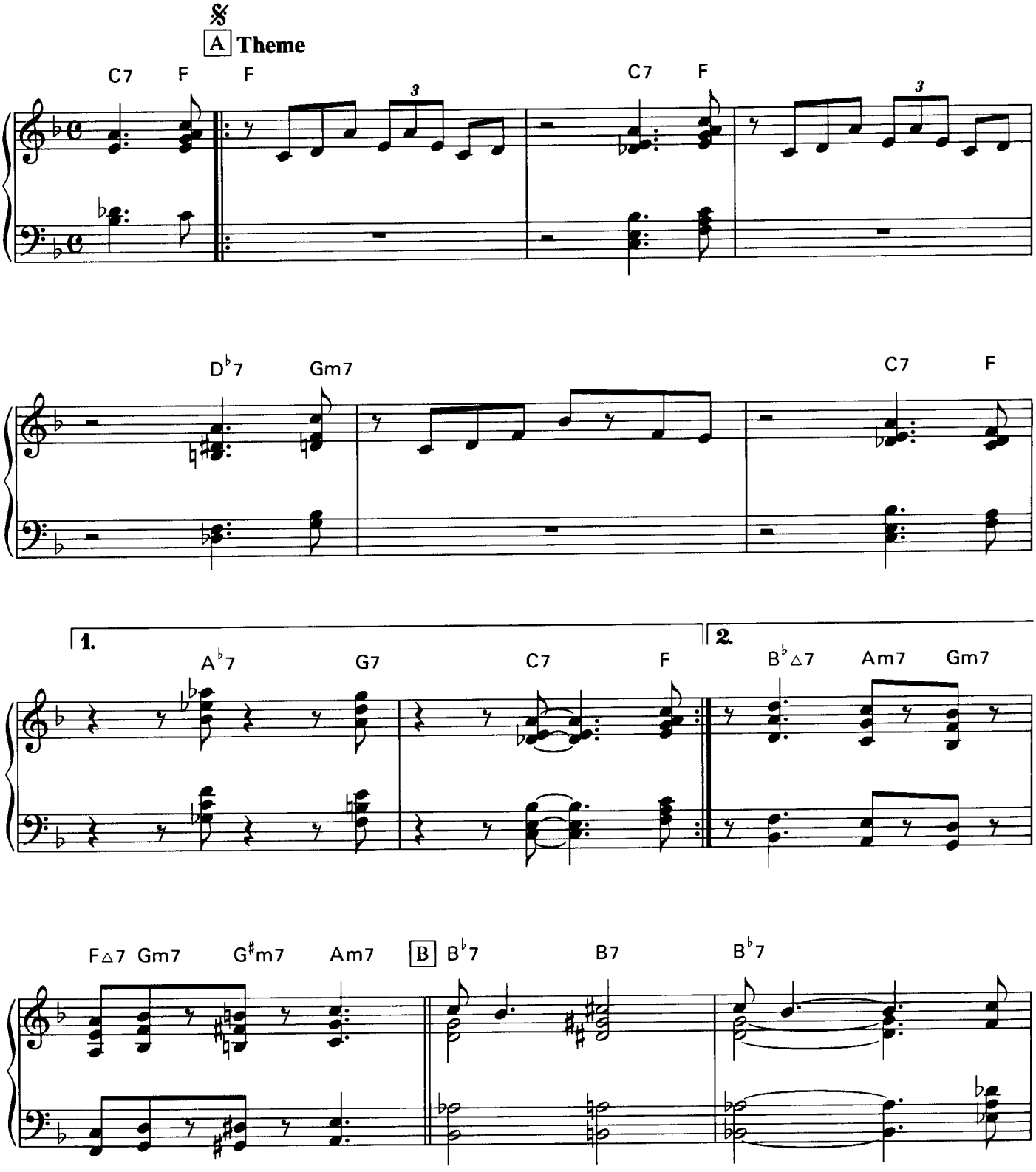

Fm
Dm7
G7
C
C7
C'
C7
F7
B♭
B♭
E♭m7
A♭7
G7
32
G7
D'
C7
Fm
E♭m7
Dm7
G7


Coda
G7
Fm
D.S.
G7
C7
Cm7
B♭m6
A♭7
G7
Cm

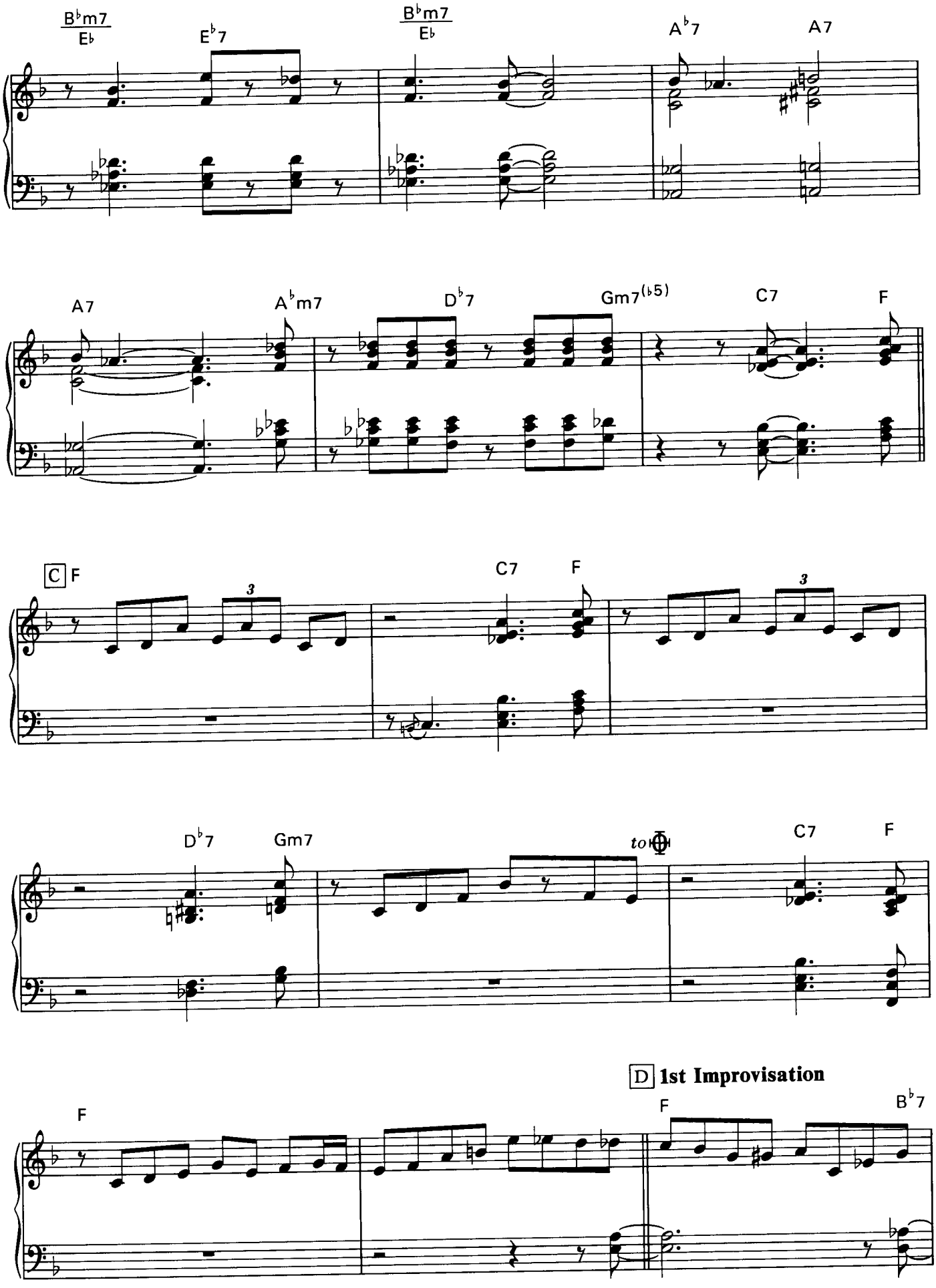
# Stompin' At The Savoy

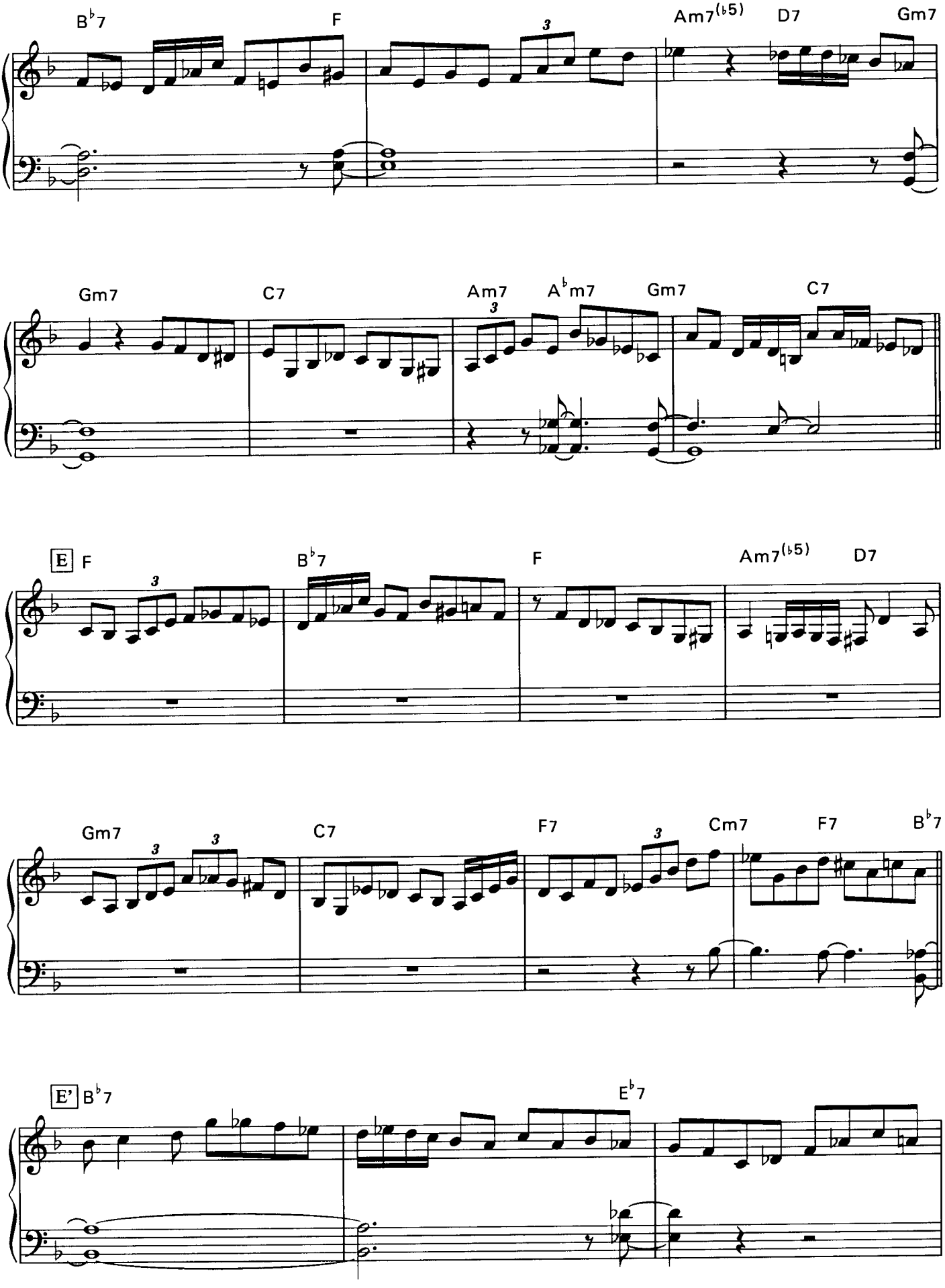
サヴォイでストンプ

Words & Music by Benny Goodman, Chick Webb and Edgar Sampson

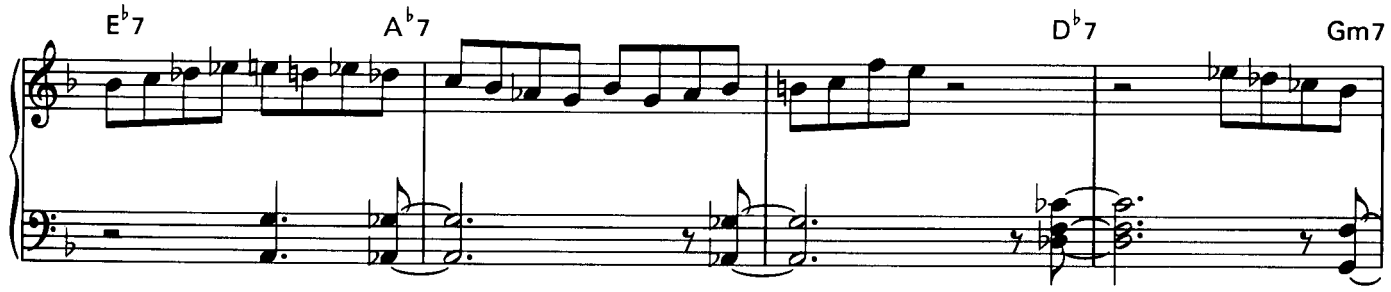


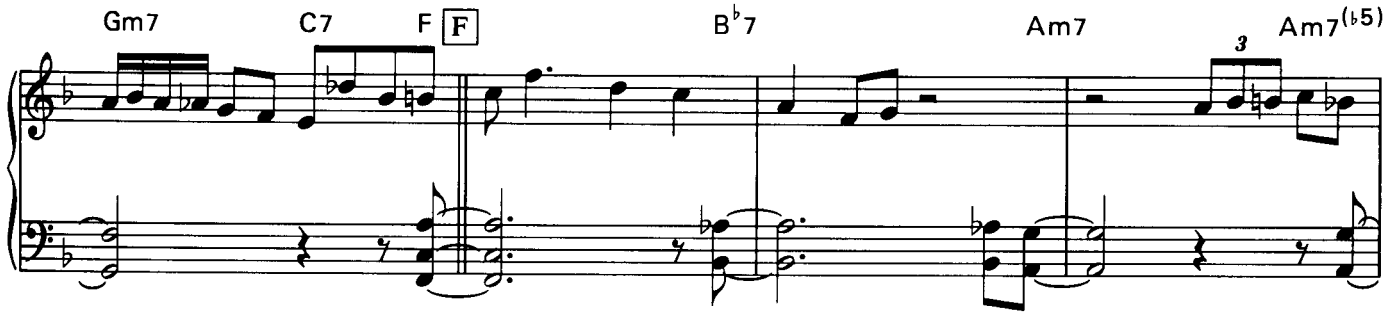

© 1936 (Renewed 1964) by EMI/ROBBINS CATALOG INC.
All right reserved Used by permission
Printing rights for Japan assigned to NICHION, INC.

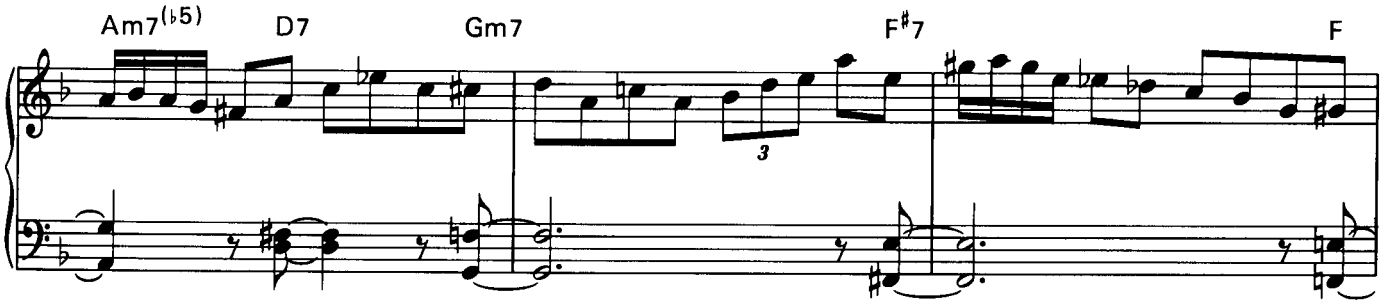

B♭m7
E♭
E♭7
B♭m7
E♭
A♭7
A7
A7
A♭m7
D♭7
Gm7(♭5)
C7
F
C F
3
C7
F
3
D♭7
Gm7
to ⊕
C7
F
D 1st Improvisation
F
F
B♭7


B♭7
F
Am7(♭5)
D7
Gm7
Gm7
C7
Am7
A♭m7
Gm7
C7
E F
B♭7
F
Am7(♭5)
D7
Gm7
C7
F7
Cm7
F7
B♭7
E' B♭7
E♭7

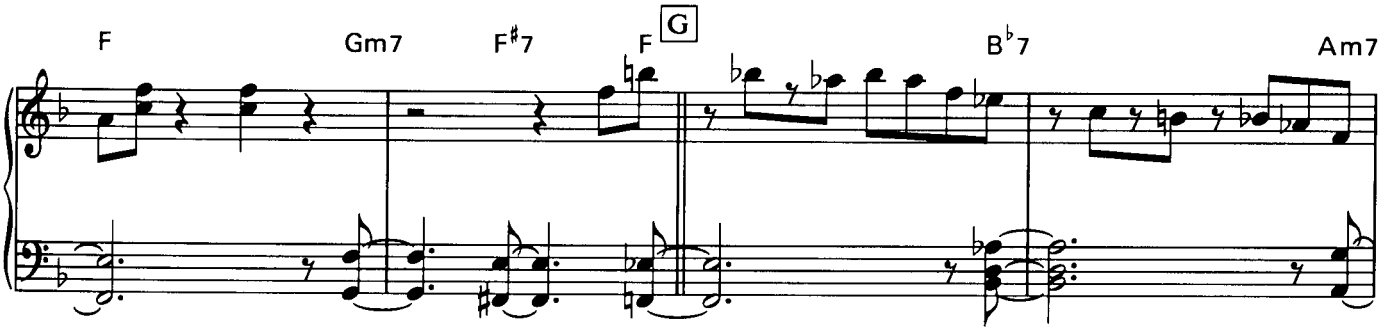
36

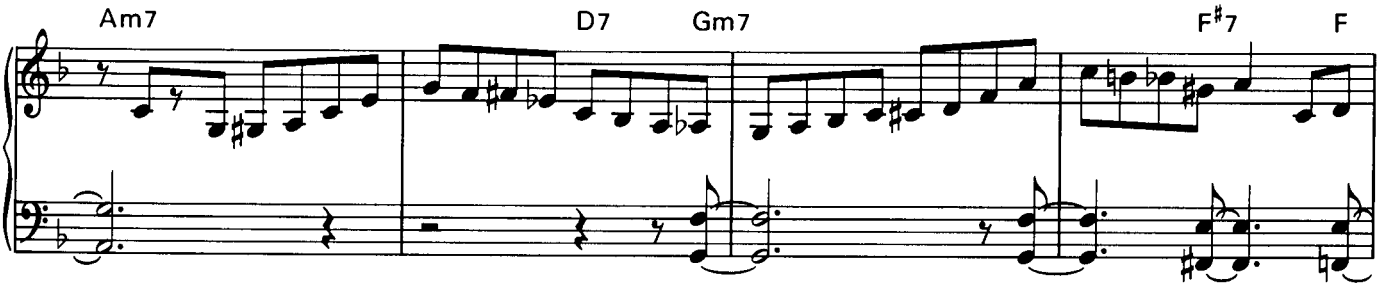


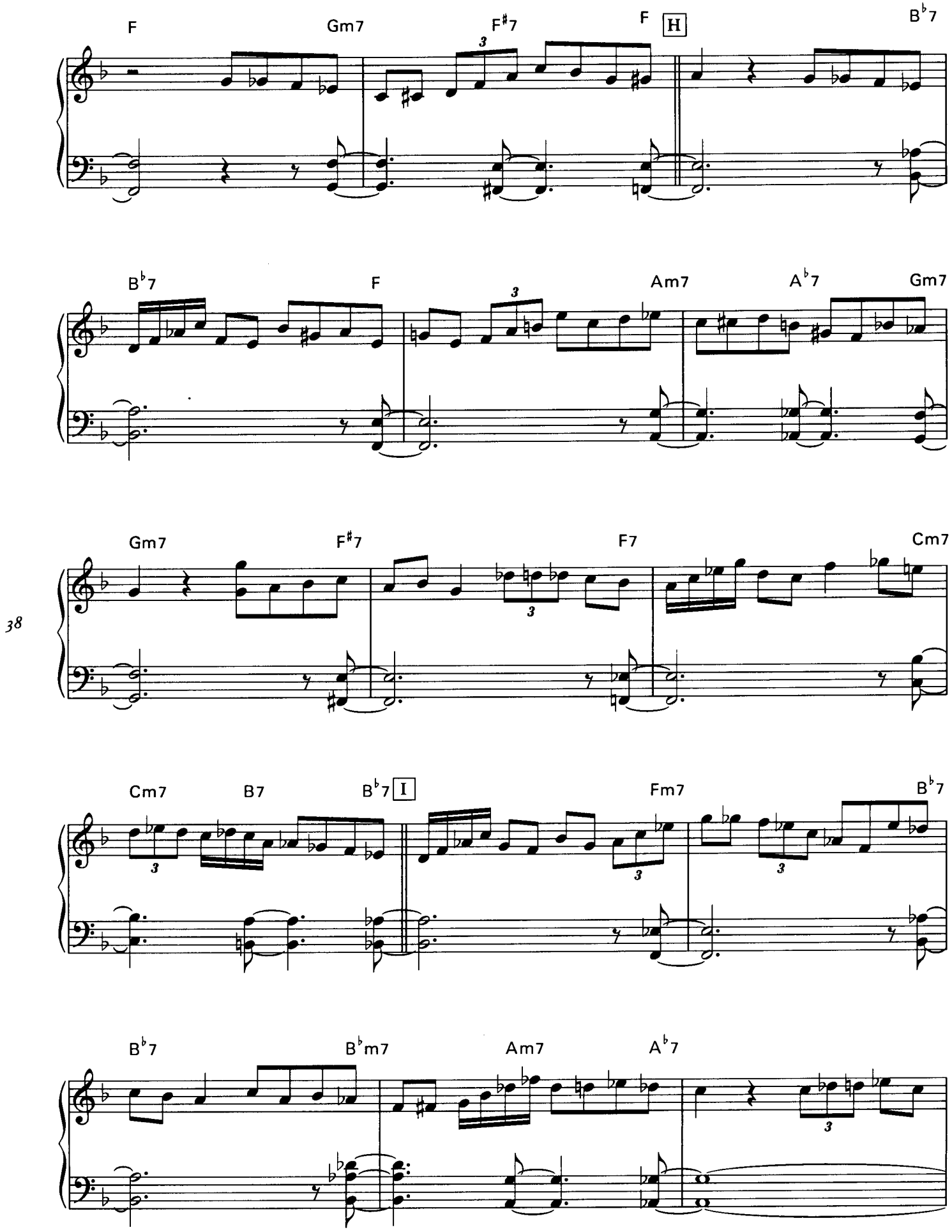



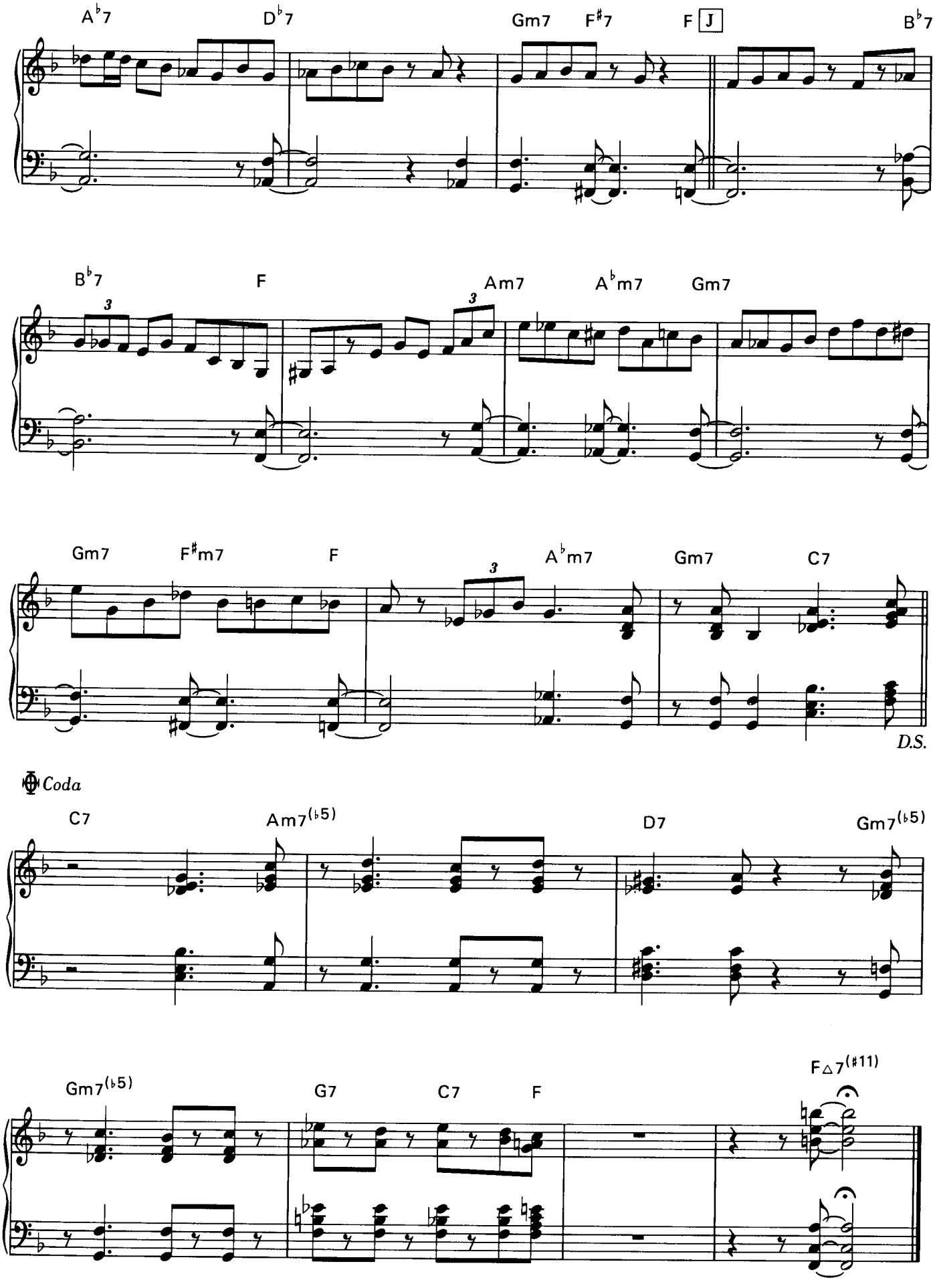




**2nd Improvisation**



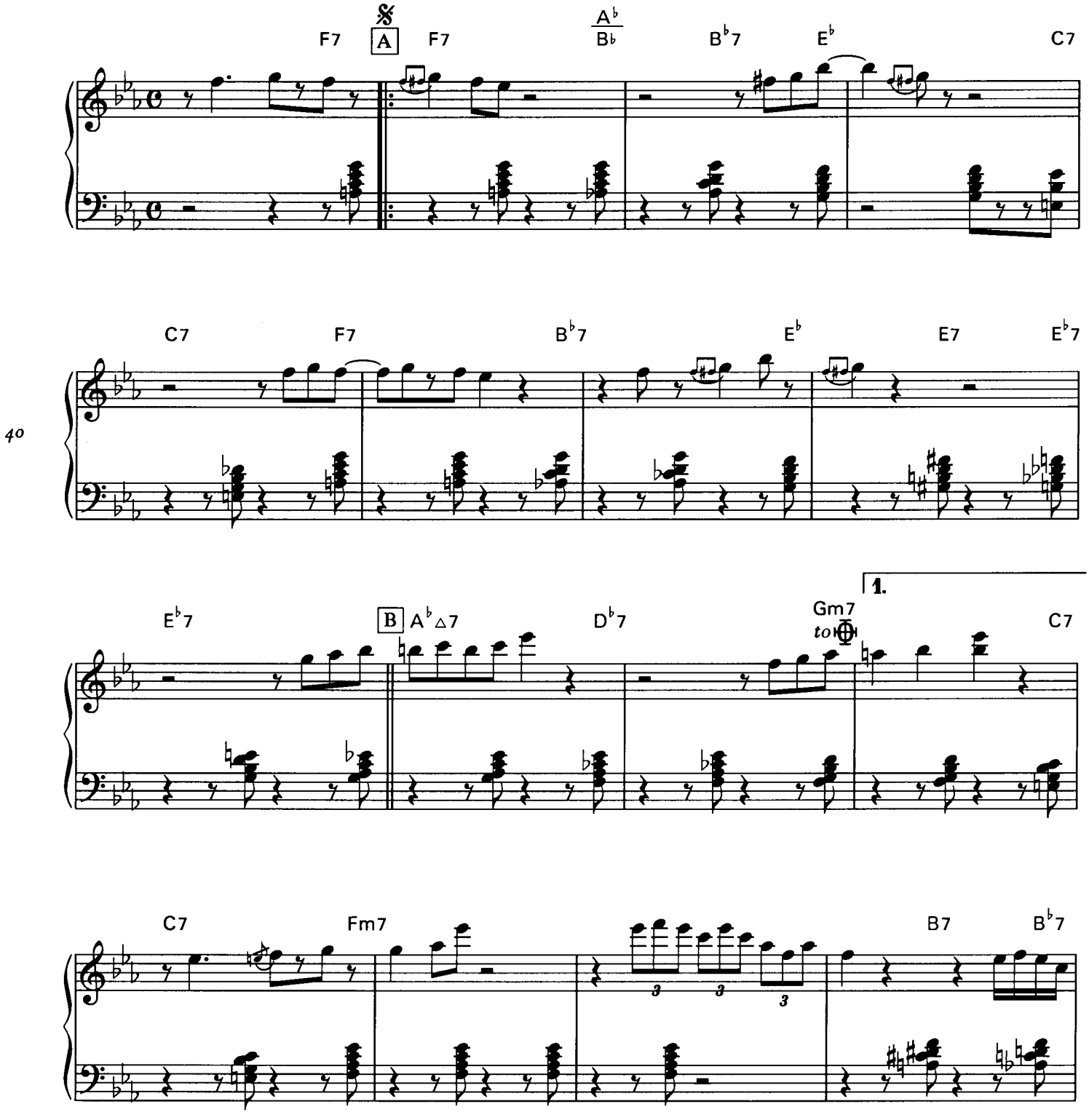

F
Gm7
F♯7
F
H
B♭7
B♭7
F
Am7
A♭7
Gm7
Gm7
F♯7
F7
Cm7
38
Cm7
B7
B♭7
I
Fm7
B♭7
B♭7
B♭m7
Am7
A♭7


A♭7
D♭7
Gm7
F♯7
F
J
B♭7
B♭7
F
Am7
A♭m7
Gm7
Gm7
F♯m7
F
A♭m7
Gm7
C7
D.S.
Coda
C7
Am7(♭5)
D7
Gm7(♭5)
Gm7(♭5)
G7
C7
F
F△7(♯11)

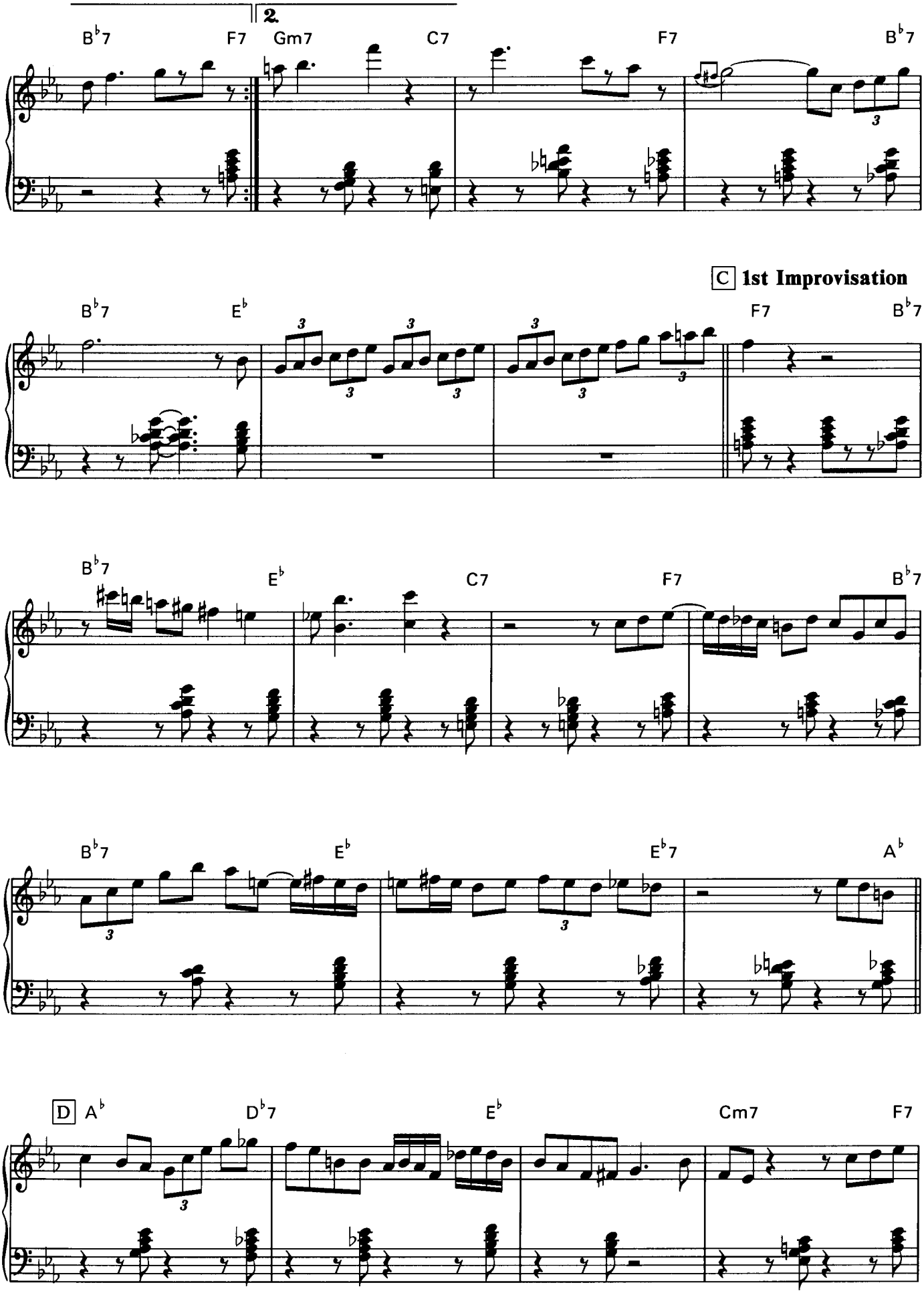
# But Not For Me

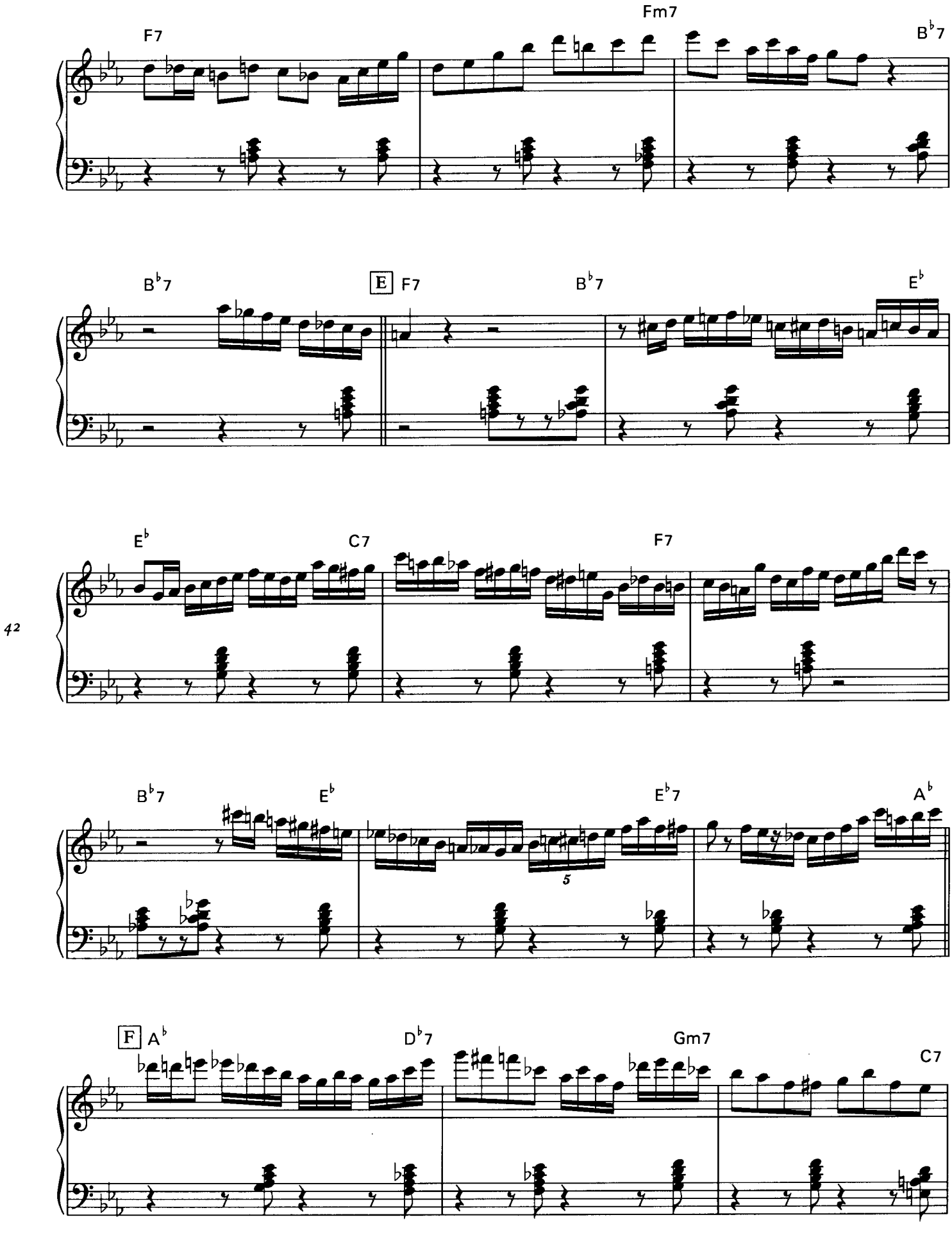
バット・ノット・フォー・ミー

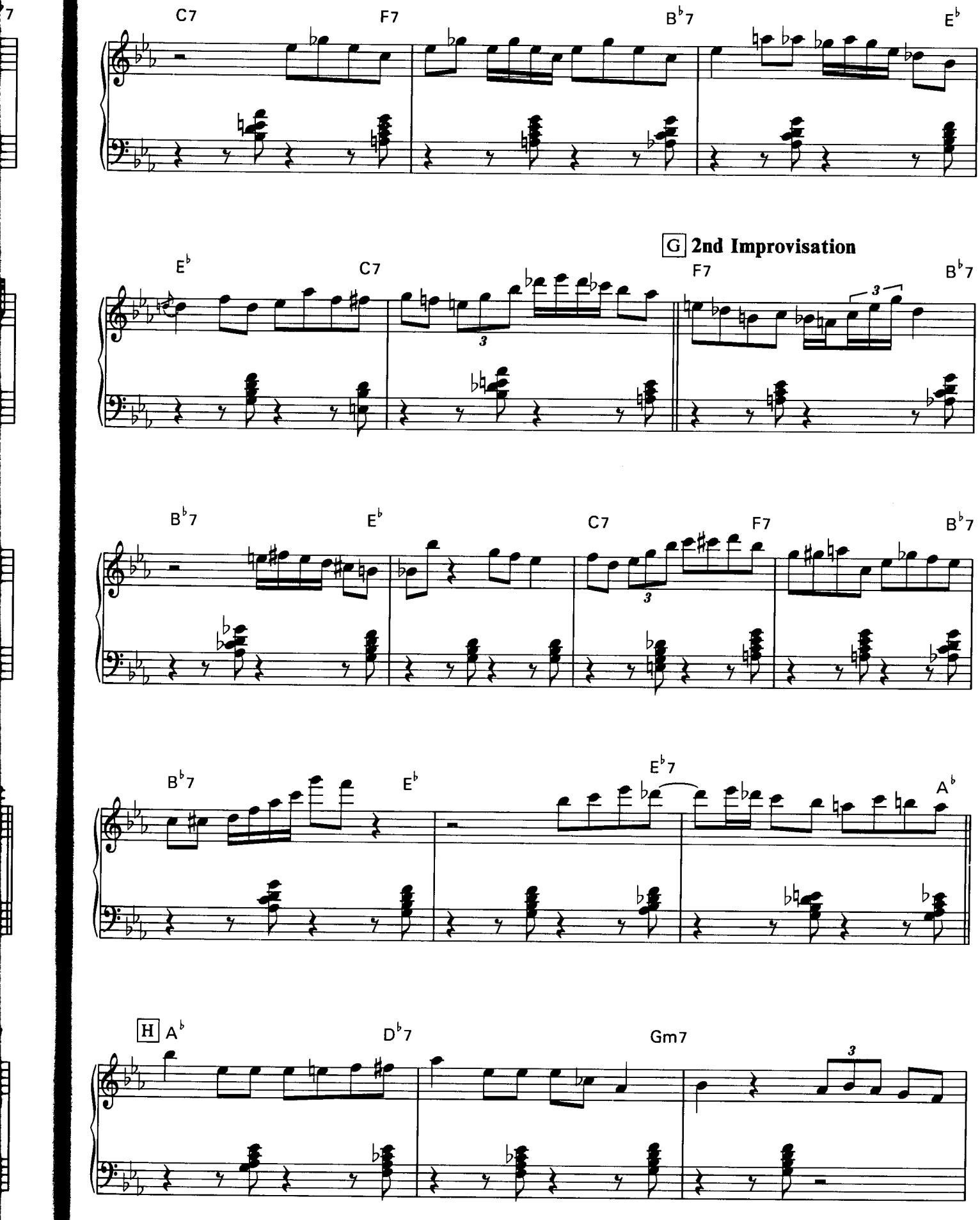
Words & Music by Ira Gershwin and George Gershwin

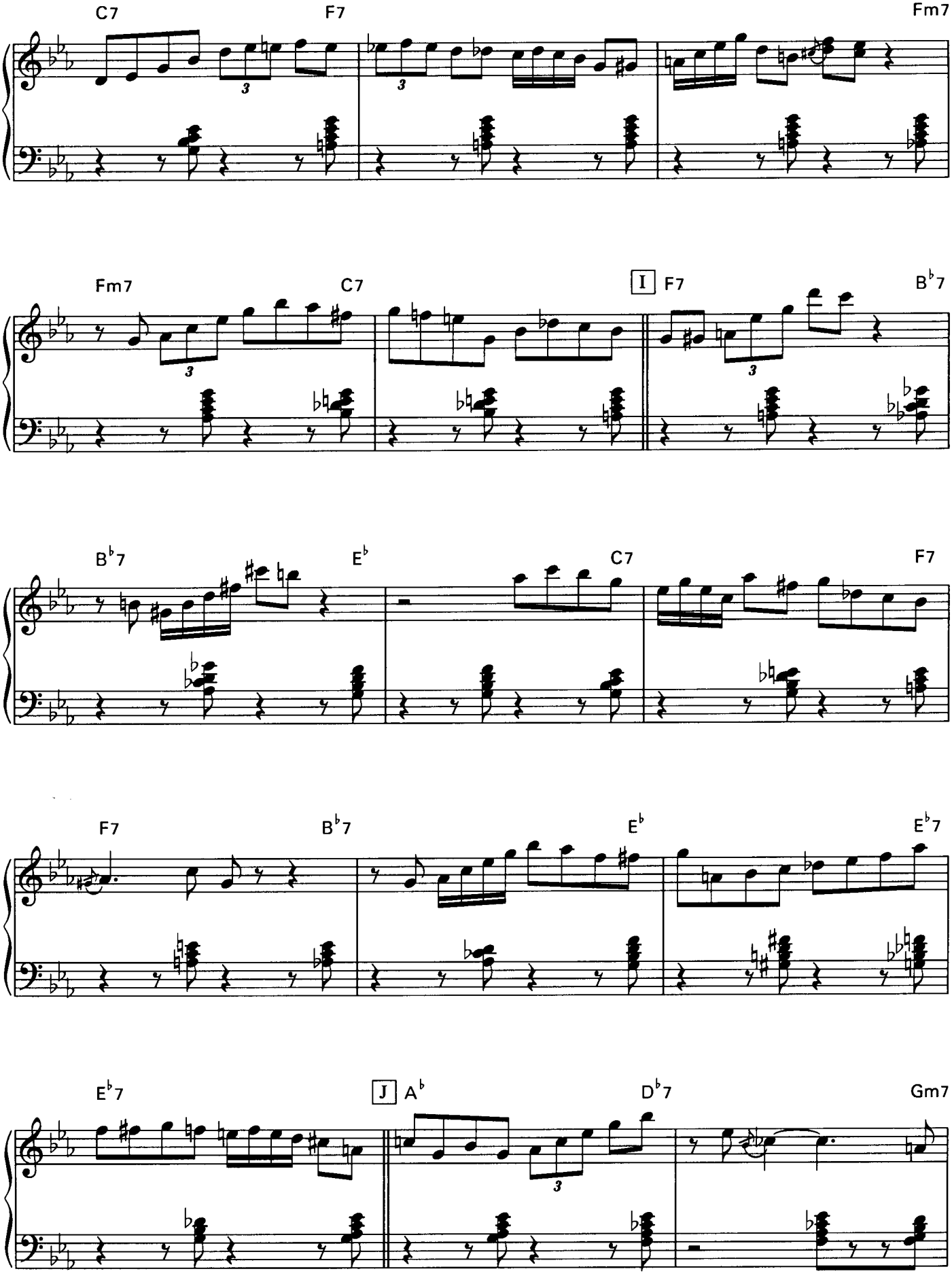


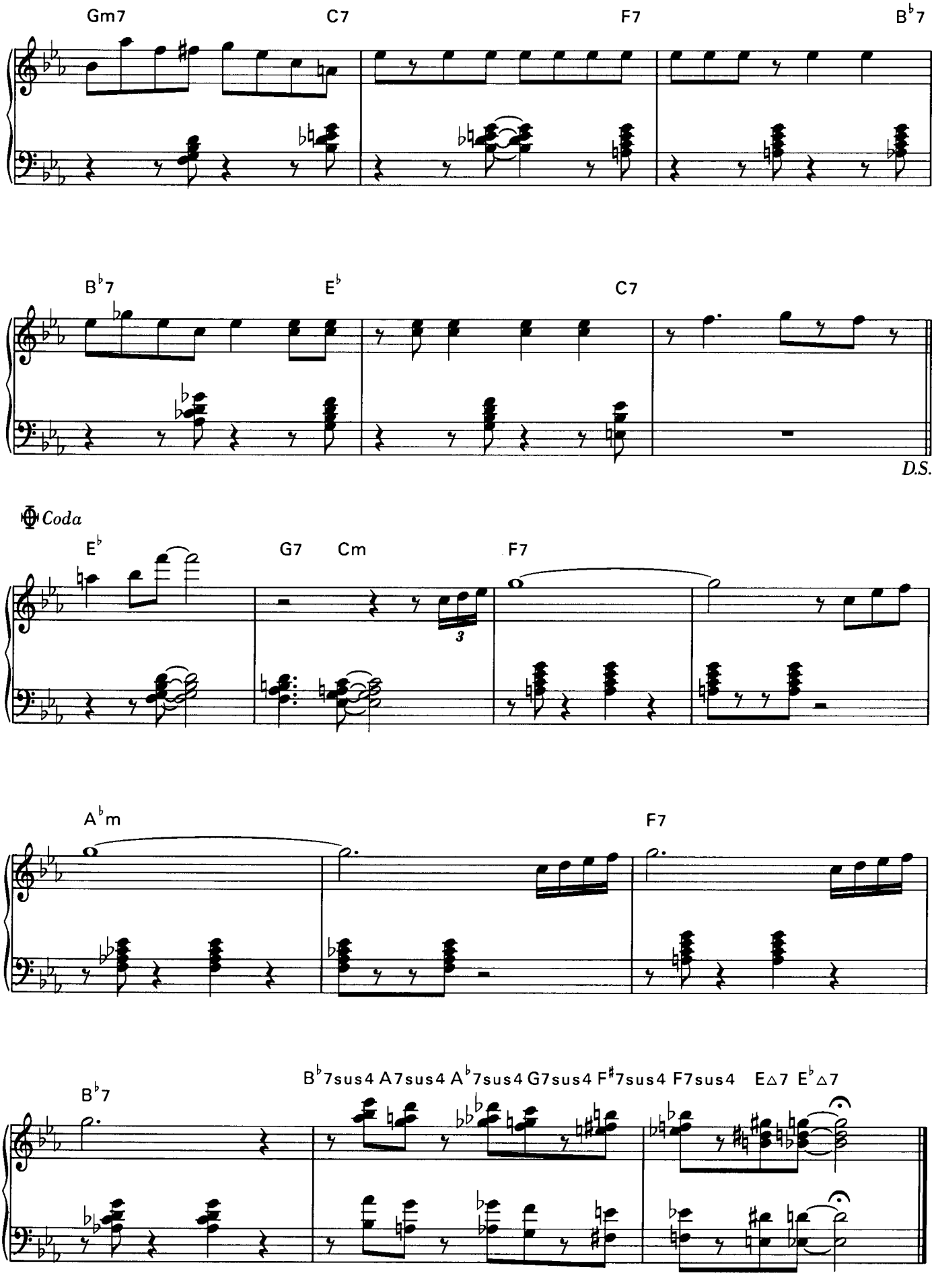

© 1930 by NEW WORLD MUSIC CO., LTD.
All rights reserved Used by permission
Rights for Japan administered by WARNER/CHAPPELL MUSIC, JAPAN K.K., c/o NICHION, INC.


2.
B♭7
F7
Gm7
C7
F7
B♭7
C 1st Improvisation
B♭7
E♭
F7
B♭7
B♭7
E♭
C7
F7
B♭7
B♭7
E♭
E♭7
A♭
D A♭
D♭7
E♭
Cm7
F7


F7
Fm7
B♭7
B♭7
E
F7
B♭7
E♭
E♭
C7
F7
42
B♭7
E♭
E♭7
A♭
5
F
A♭
D♭7
Gm7
C7


C7
F7
B♭7
E♭
G 2nd Improvisation
E♭
C7
F7
B♭7
B♭7
E♭
C7
F7
B♭7
B♭7
E♭
E♭7
A♭
H A♭
D♭7
Gm7

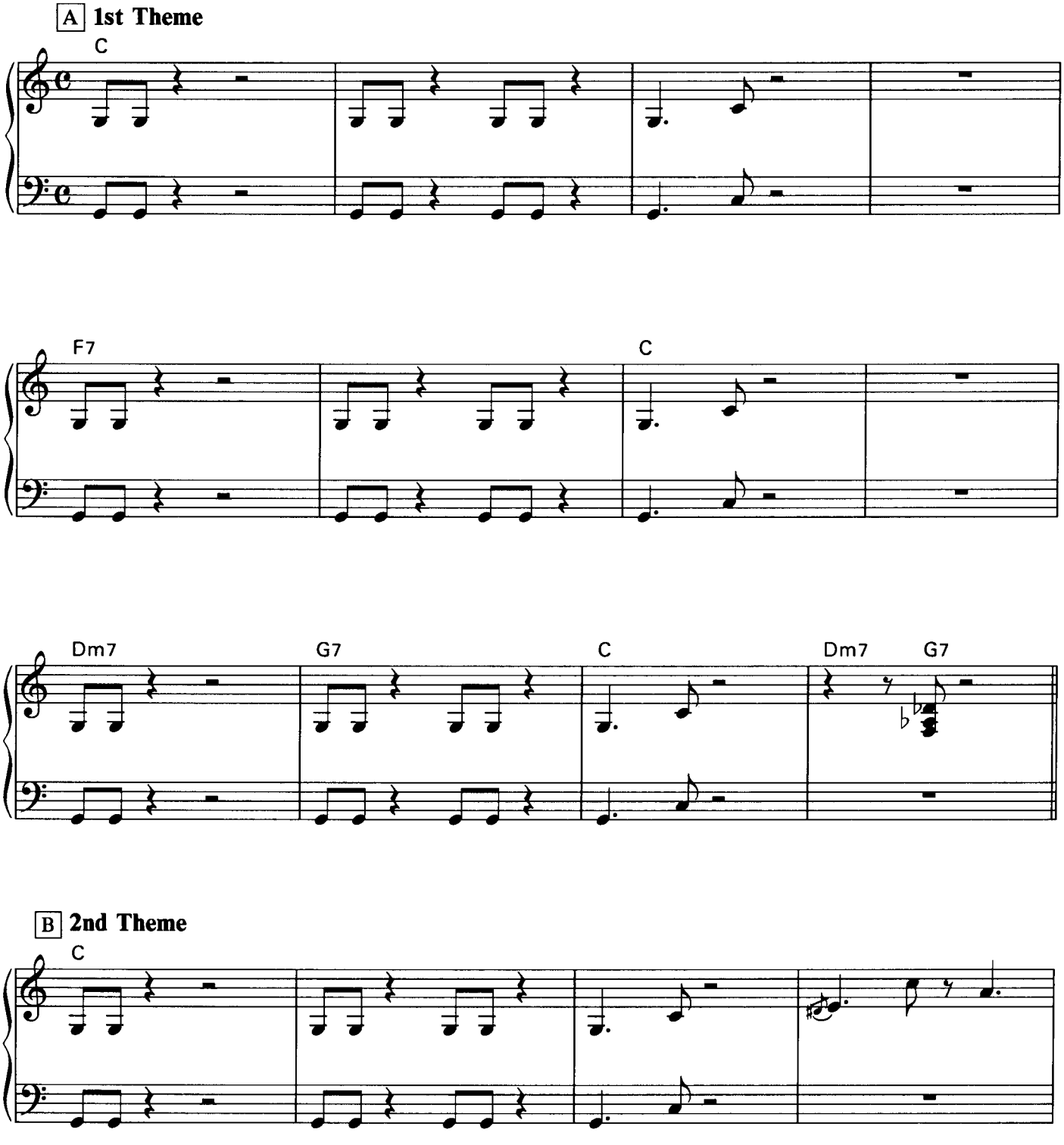

C7
F7
Fm7
Fm7
C7
I
F7
B♭7
B♭7
E♭
C7
F7
F7
B♭7
E♭
E♭7
E♭7
J
A♭
D♭7
Gm7


Gm7
C7
F7
B♭7
B♭7
E♭
C7
D.S.
Coda
E♭
G7
Cm
F7
3
A♭m
F7
B♭7
B♭7sus4 A7sus4 A♭7sus4 G7sus4 F♯7sus4 F7sus4
E△7 E♭△7

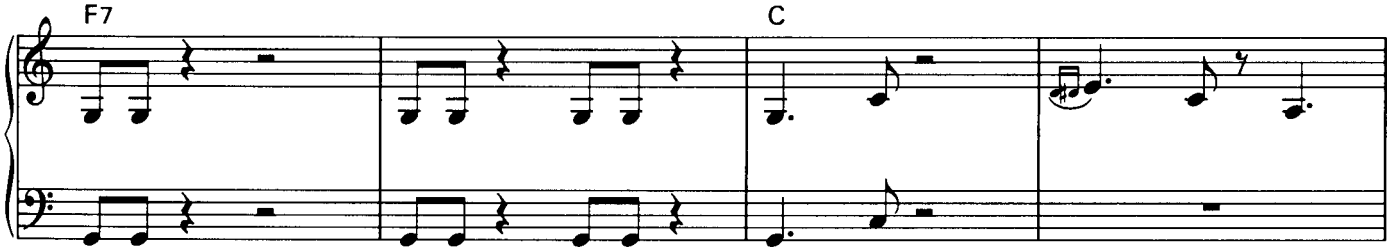
# C Jam Blues

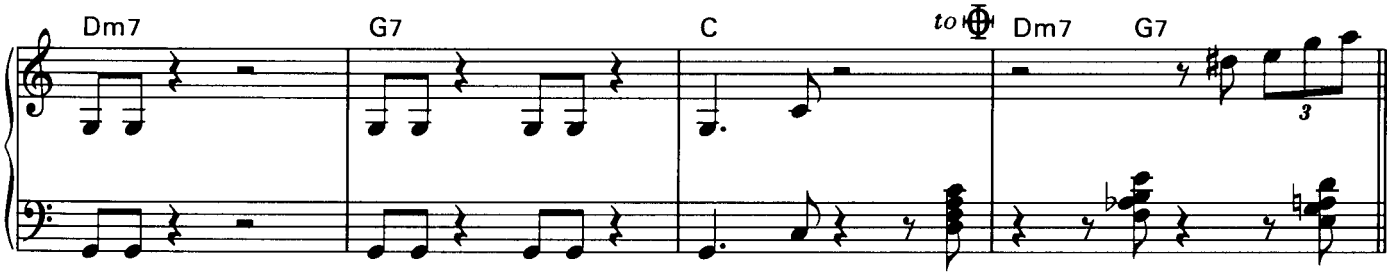
C·ジャム·ブルース

Music by Duke Ellington

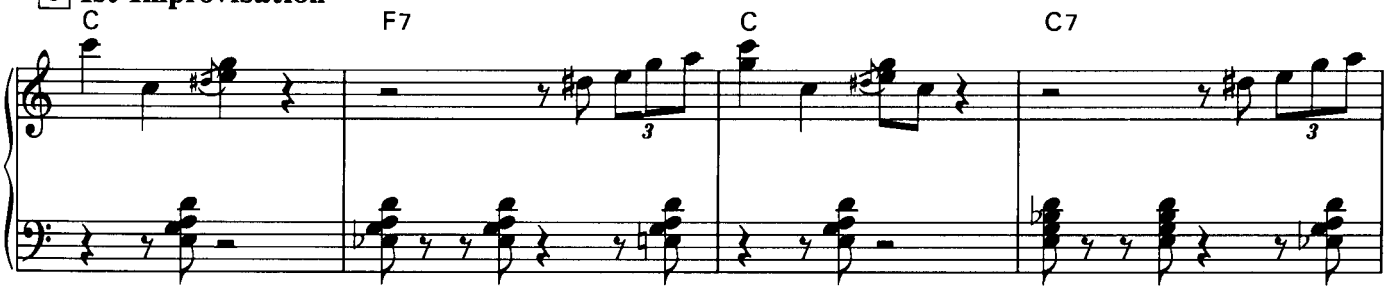


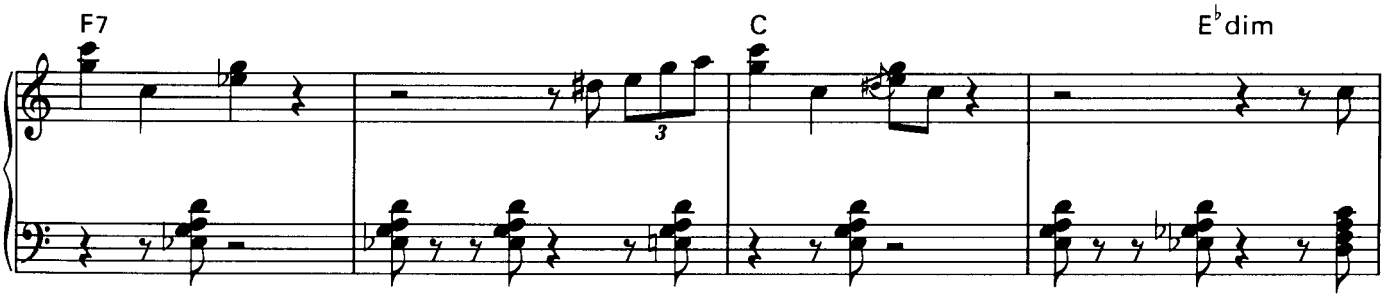

© 1942 by EMI/ROBBINS CATALOG INC.
All rights reserved Used by permission
Printing rights for Japan assigned to NICHION, INC.

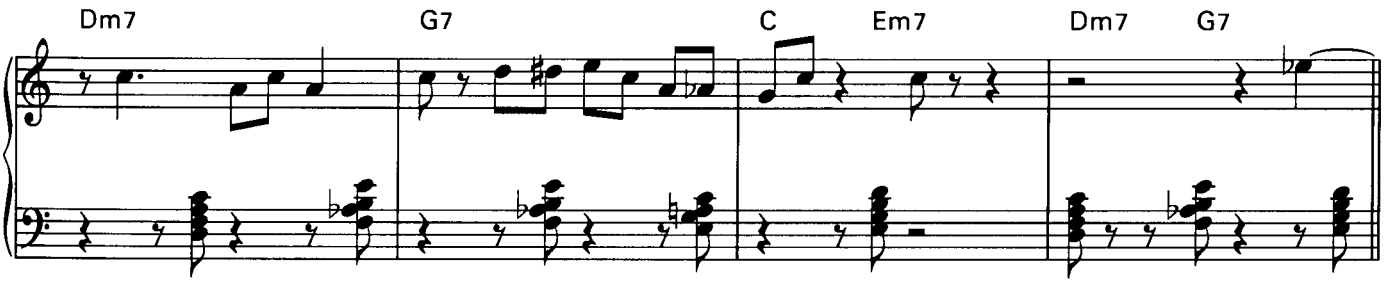


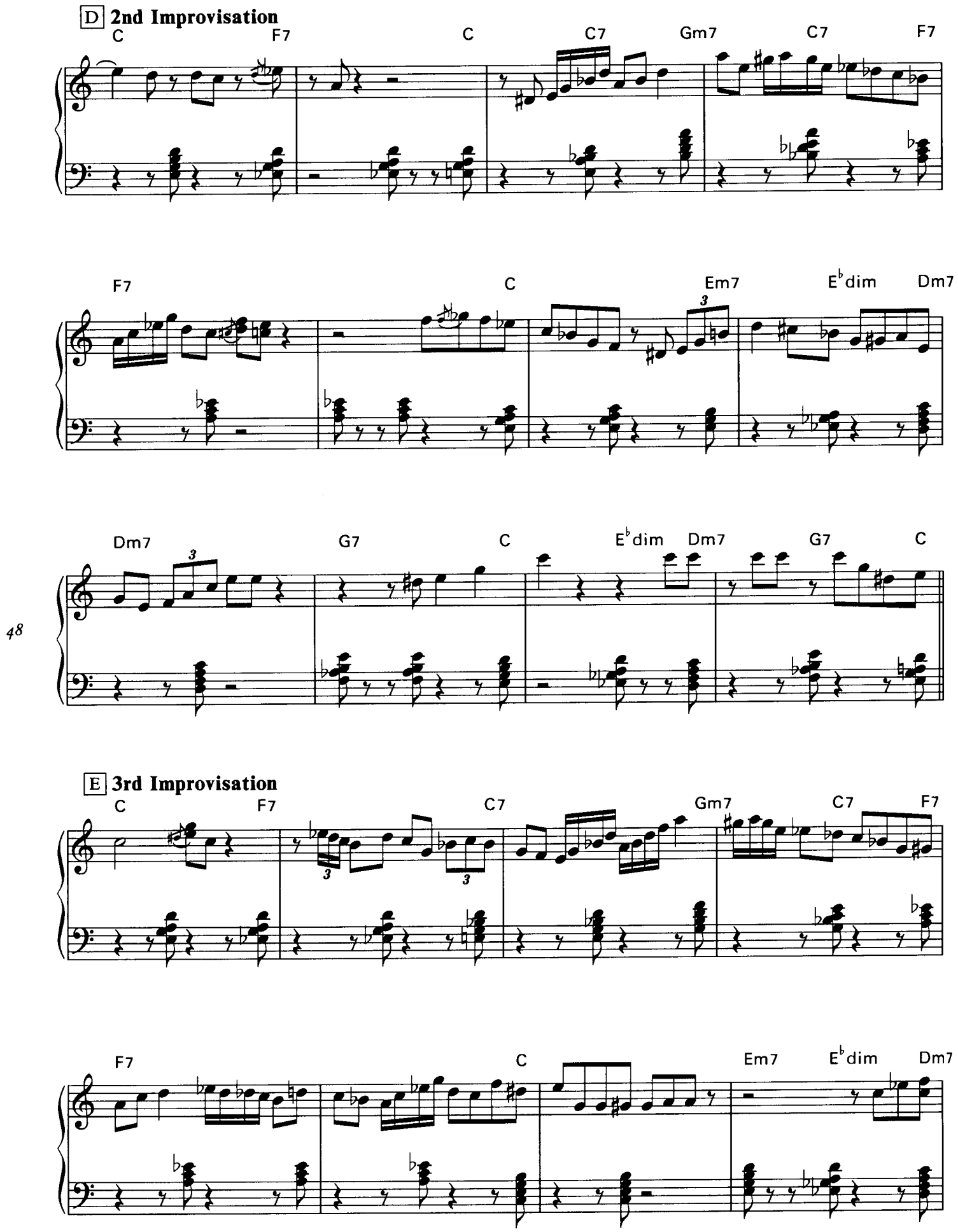



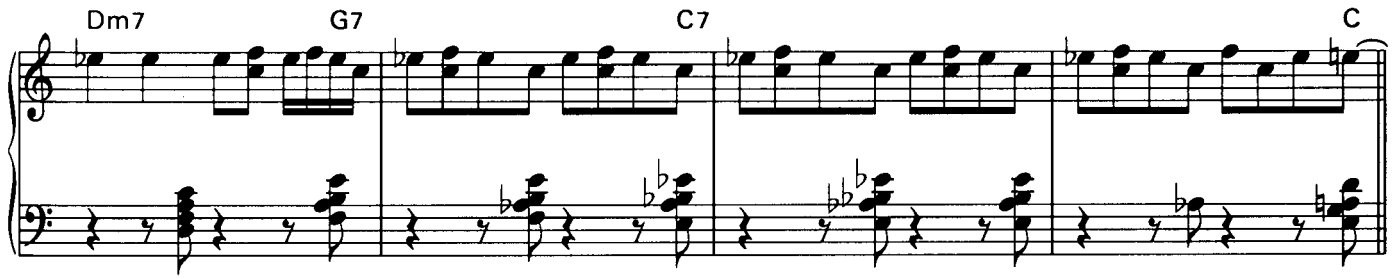

**C 1st Improvisation**



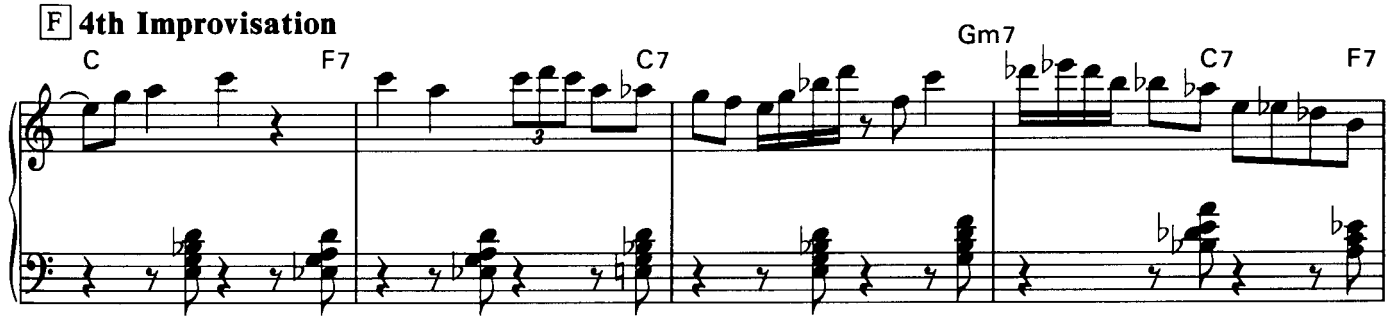



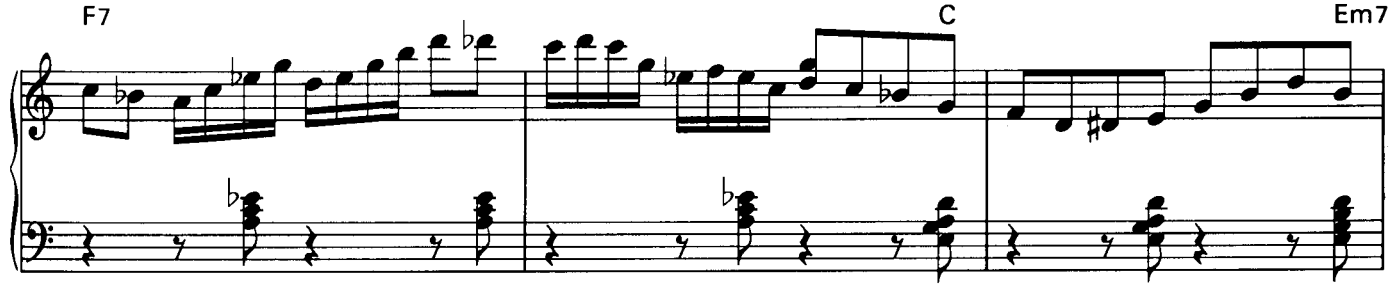



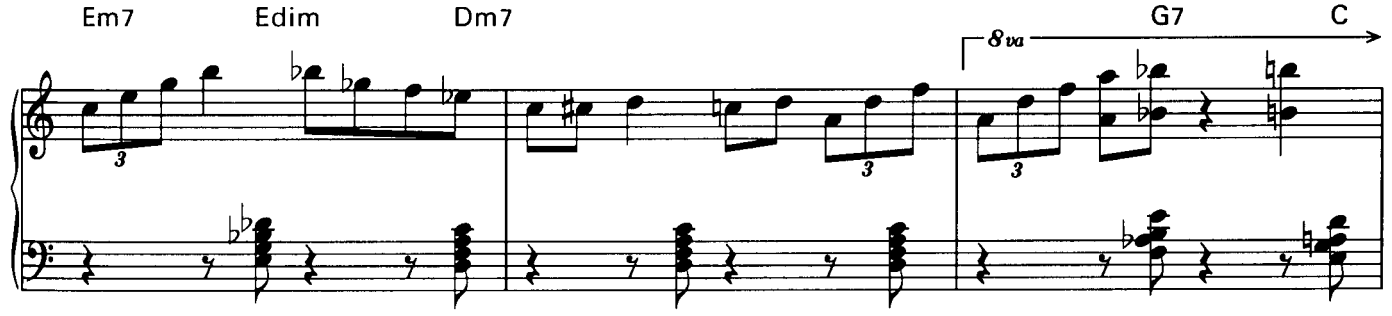

D 2nd Improvisation
C
F7
C
C7
Gm7
C7
F7
F7
C
Em7
E♭dim
Dm7
Dm7
G7
C
E♭dim
Dm7
G7
C
48
E 3rd Improvisation
C
F7
C7
Gm7
C7
F7
F7
C
Em7
E♭dim
Dm7

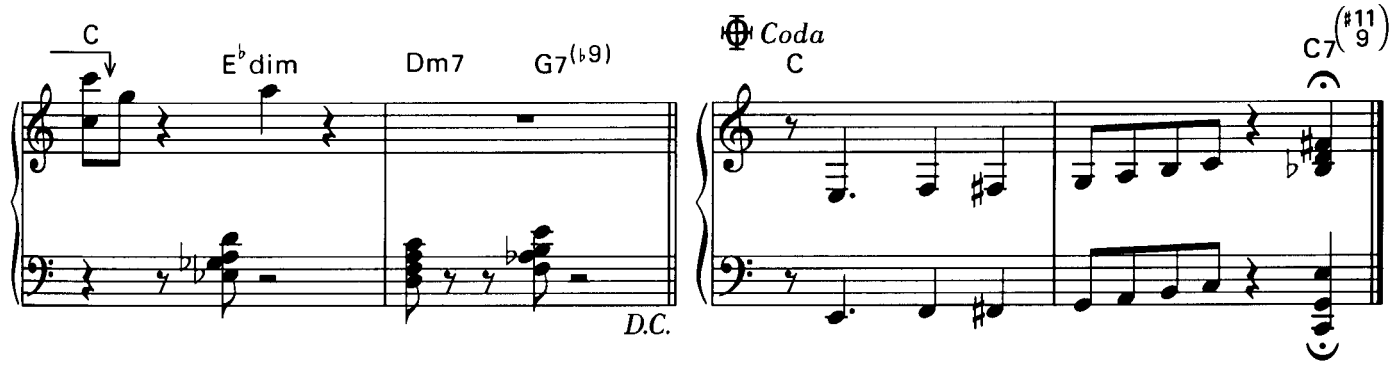



**F 4th Improvisation**



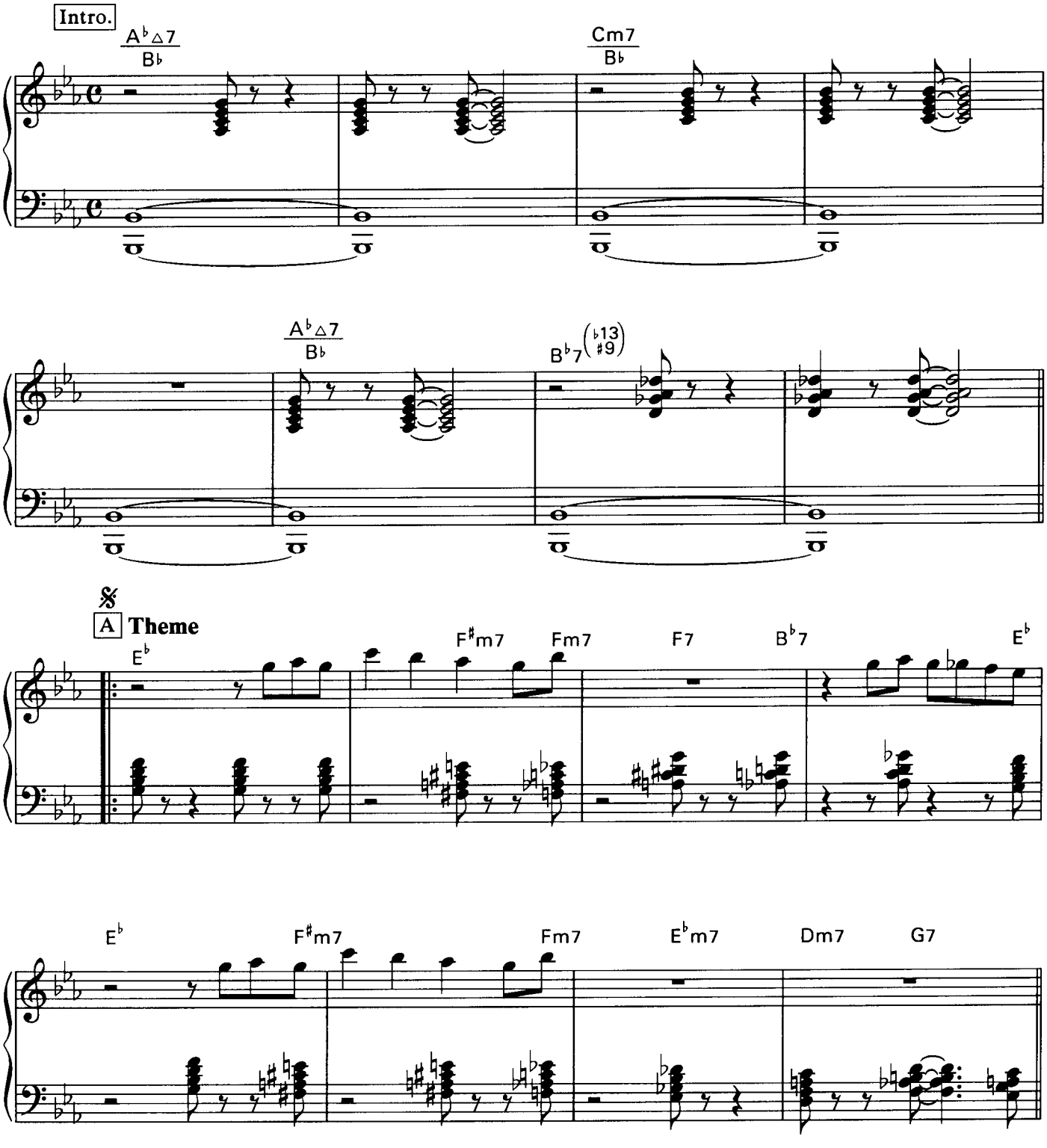



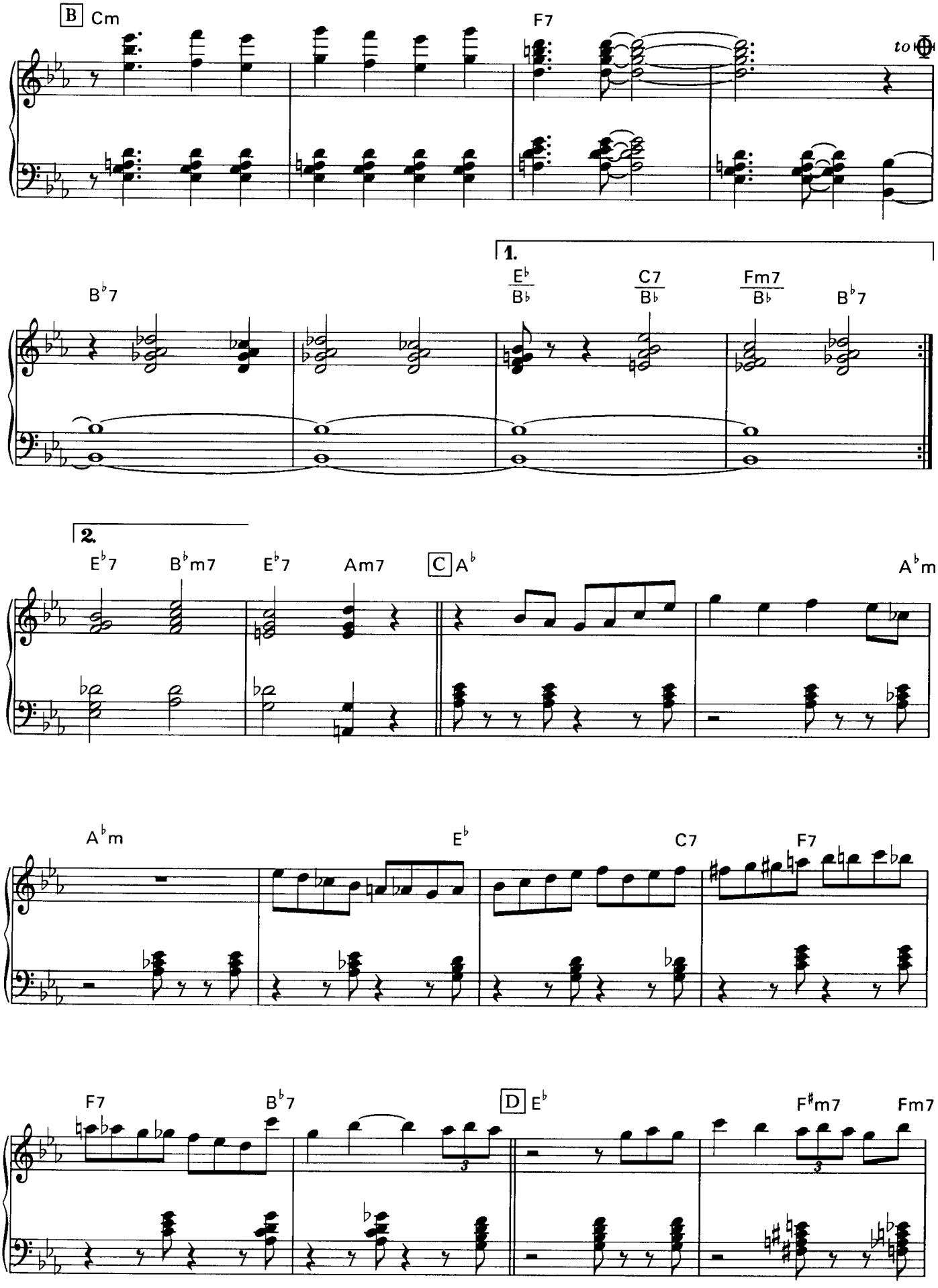
# Will You Still Be Mine

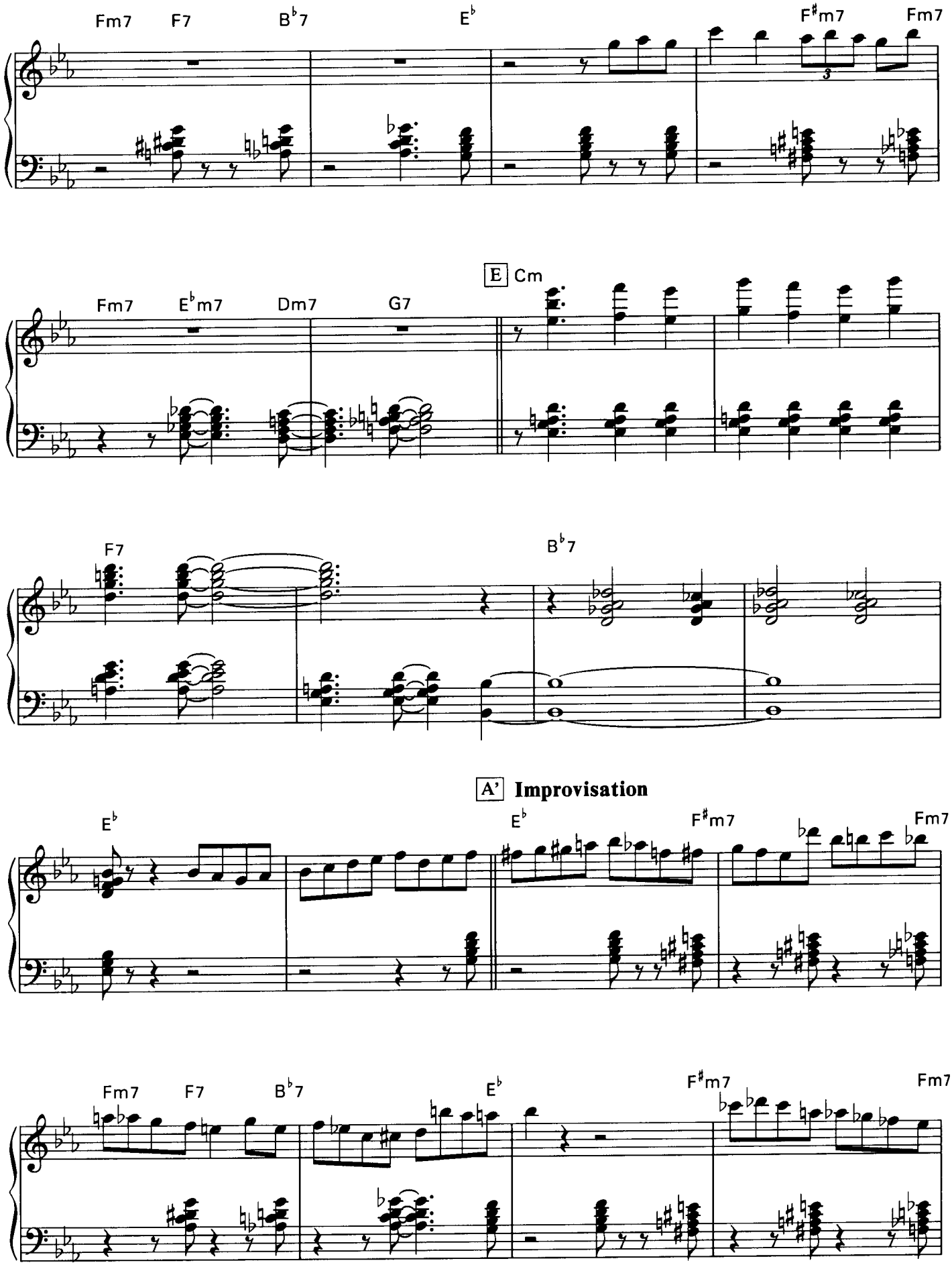
ウィル・ユー・スティル・ビー・マイン

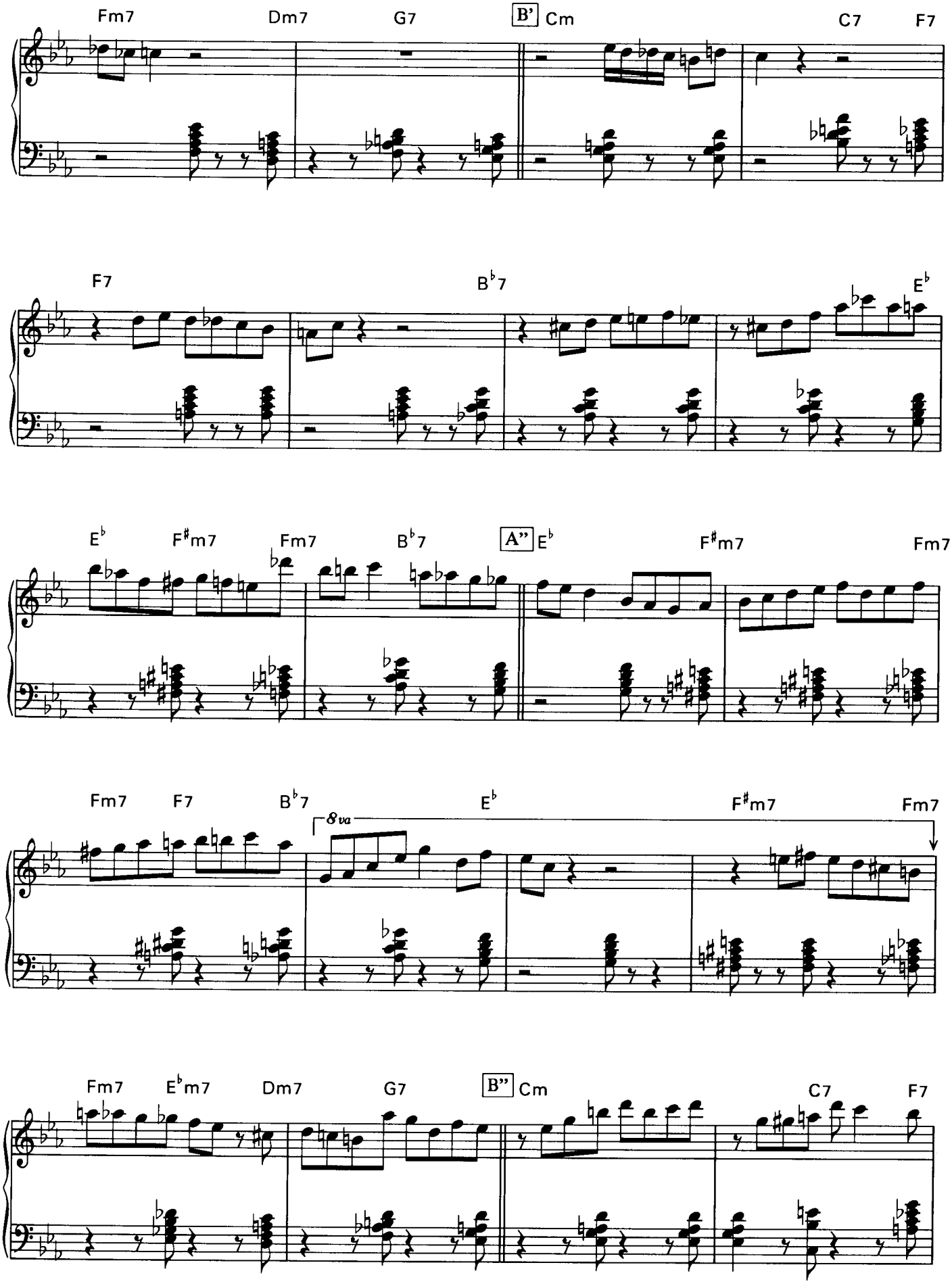
Words & Music by Matt Dennis and Tom Adair

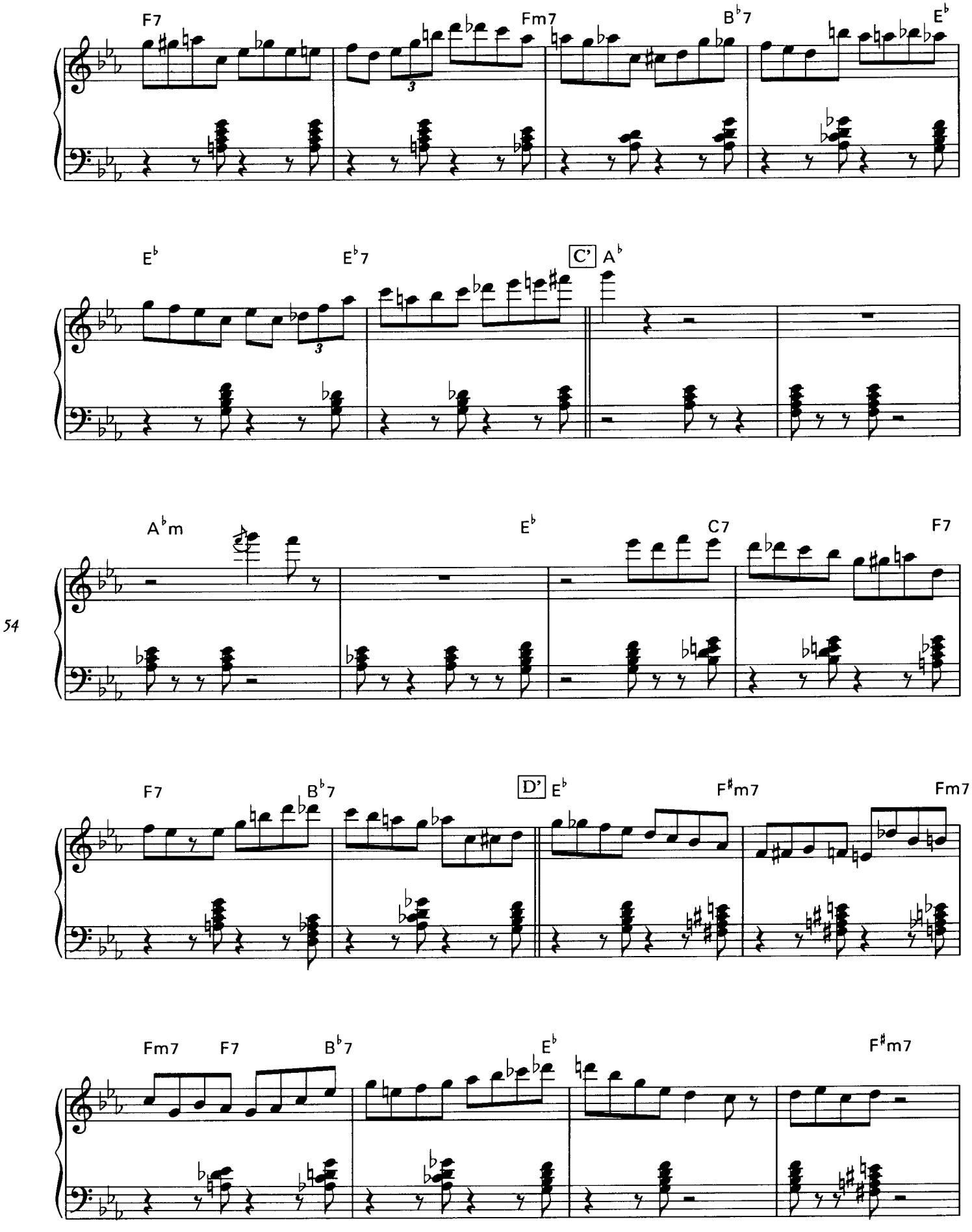


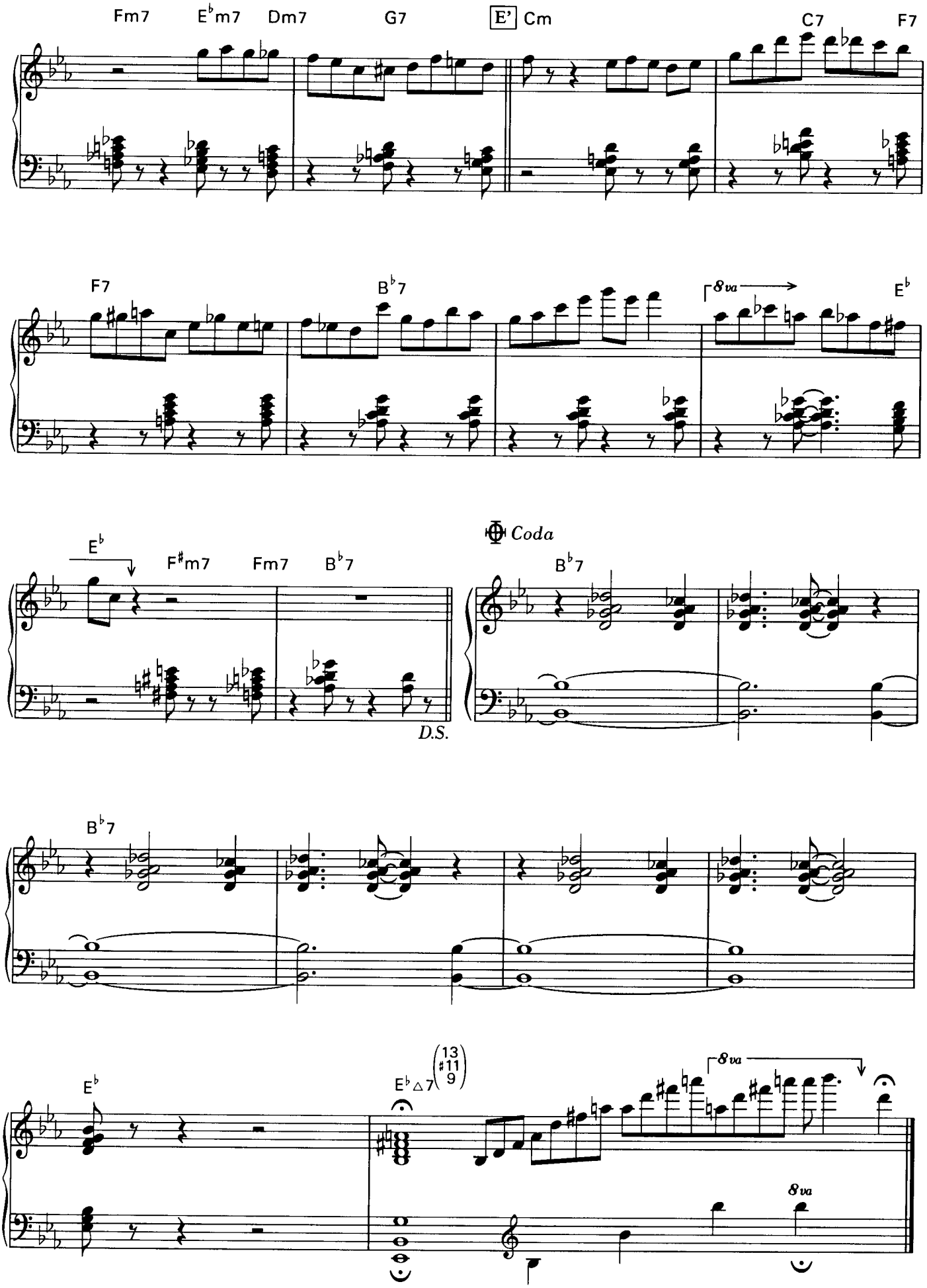

© Copyright 1941 by MUSIC SALES CORPORATION, New York, N.Y., U.S.A.
Rights for Japan controlled by K.K. Music Sales c/o Shinko Music Publishing Co., Ltd.,Tokyo
Authorized for sale in Japan only


B Cm
F7
to ⊕
1.
B♭7
E♭ / B♭
C7 / B♭
Fm7 / B♭
B♭7
2.
E♭7
B♭m7
E♭7
Am7
C A♭
A♭m
A♭m
E♭
C7
F7
F7
B♭7
D E♭
F♯m7
Fm7


Fm7
F7
B♭7
E♭
F♯m7
Fm7
E
Cm
Fm7
E♭m7
Dm7
G7
F7
B♭7
A'
Improvisation
E♭
E♭
F♯m7
Fm7
Fm7
F7
B♭7
E♭
F♯m7
Fm7


Fm7
Dm7
G7
B' Cm
C7
F7
F7
B♭7
E♭
E♭
F♯m7
Fm7
B♭7
A" E♭
F♯m7
Fm7
Fm7
F7
B♭7
8va
E♭
F♯m7
Fm7
Fm7
E♭m7
Dm7
G7
B" Cm
C7
F7

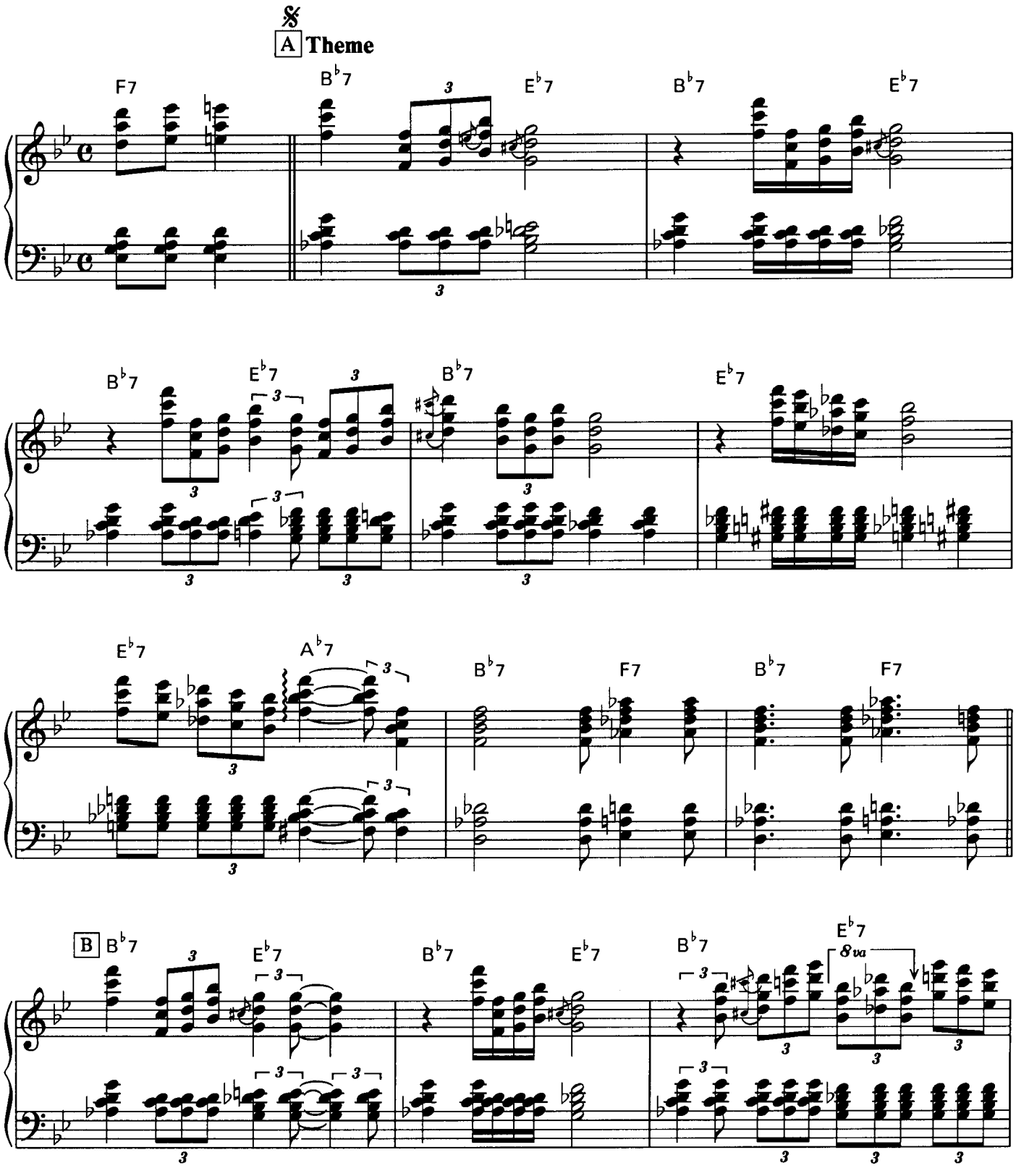

F7
Fm7
B♭7
E♭
E♭
E♭7
C'
A♭
A♭m
E♭
C7
F7
54
F7
B♭7
D'
E♭
F♯m7
Fm7
Fm7
F7
B♭7
E♭
F♯m7


Fm7
E♭m7
Dm7
G7
E'
Cm
C7
F7
F7
B♭7
8va
E♭
E♭
F♯m7
Fm7
B♭7
D.S.
Coda
B♭7
B♭7
E♭
E♭△7
13
♯11
9
8va
8va

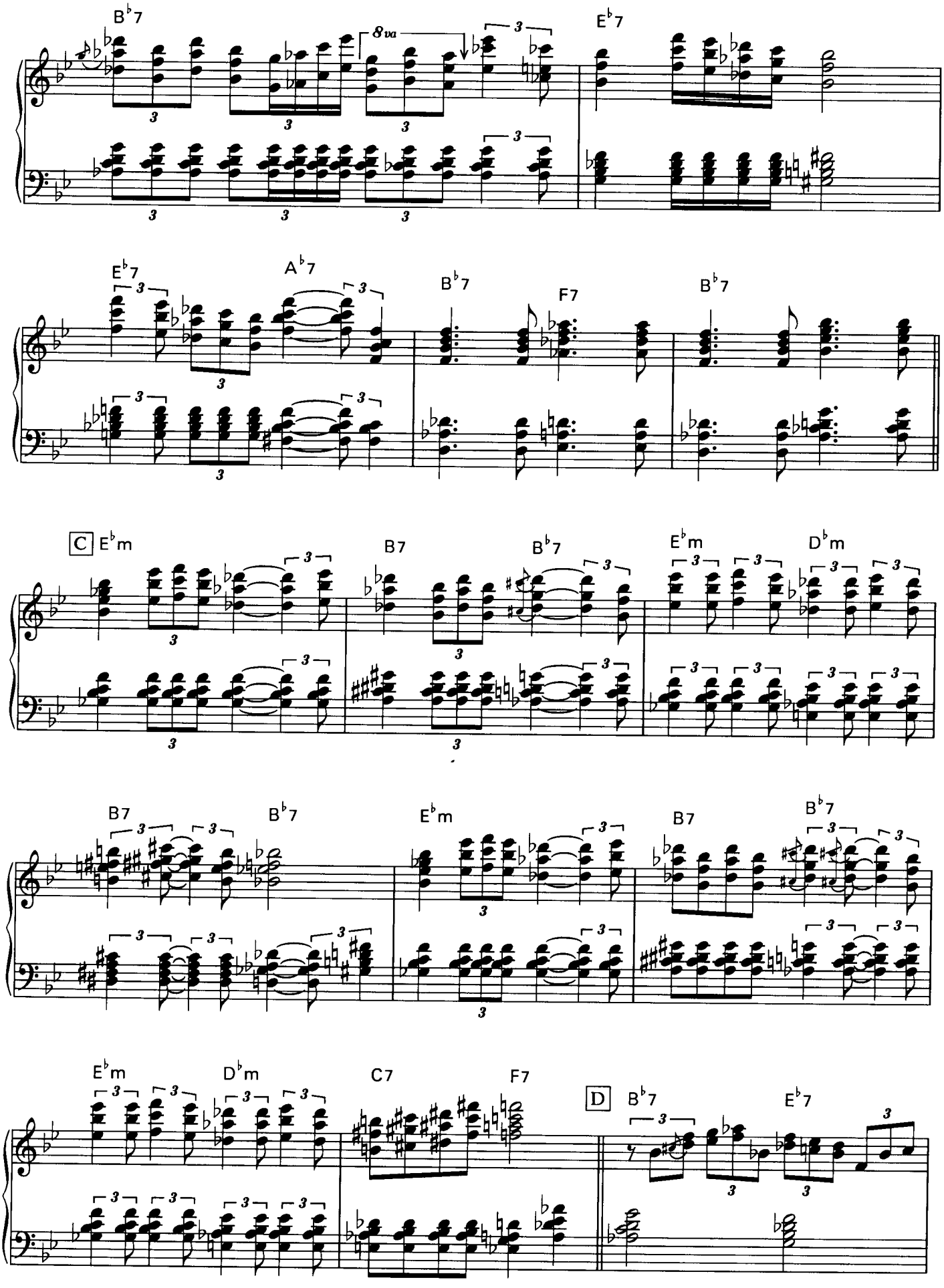
# Willow Weep For Me

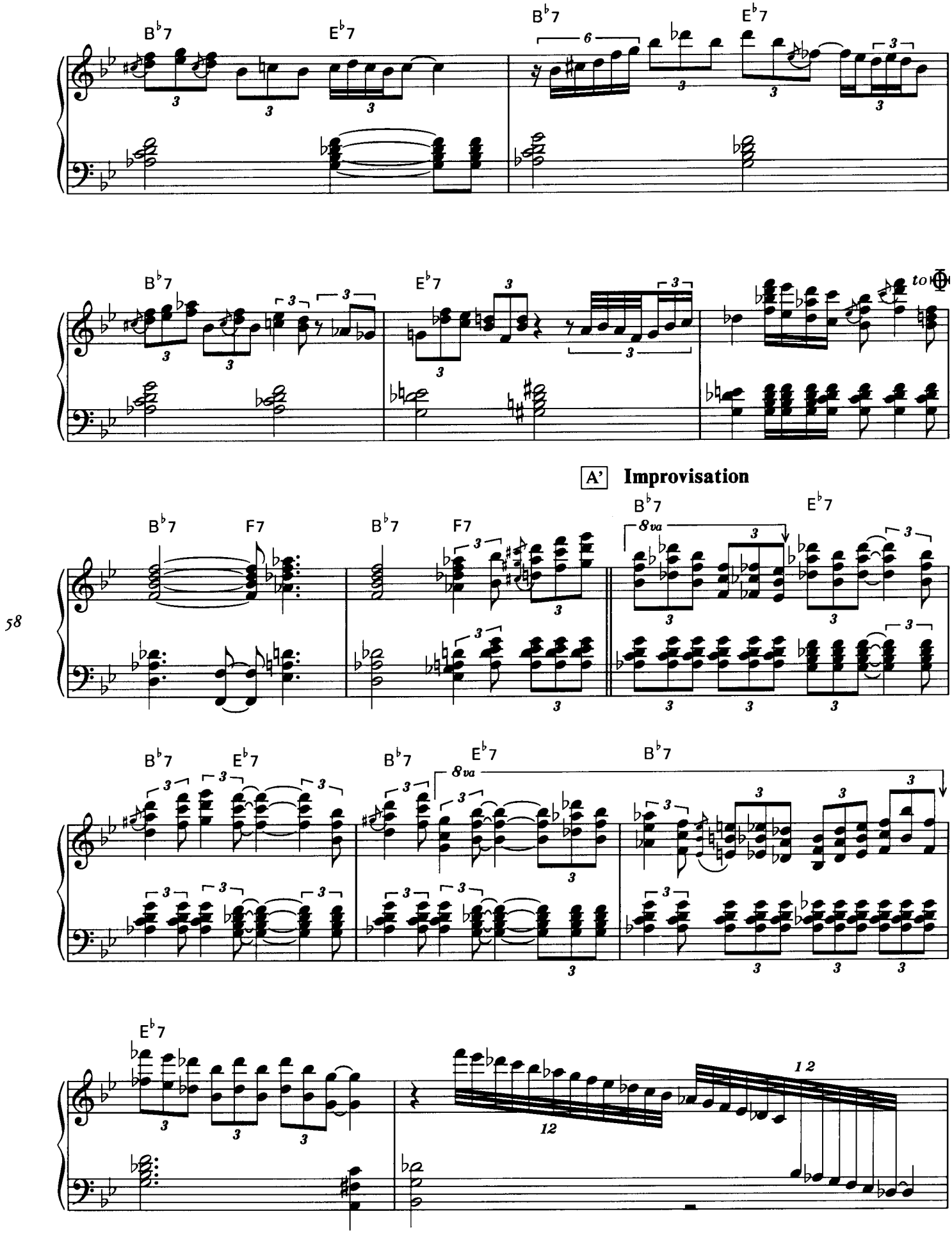
柳よ泣いておくれ

Words & Music by Ann Ronell

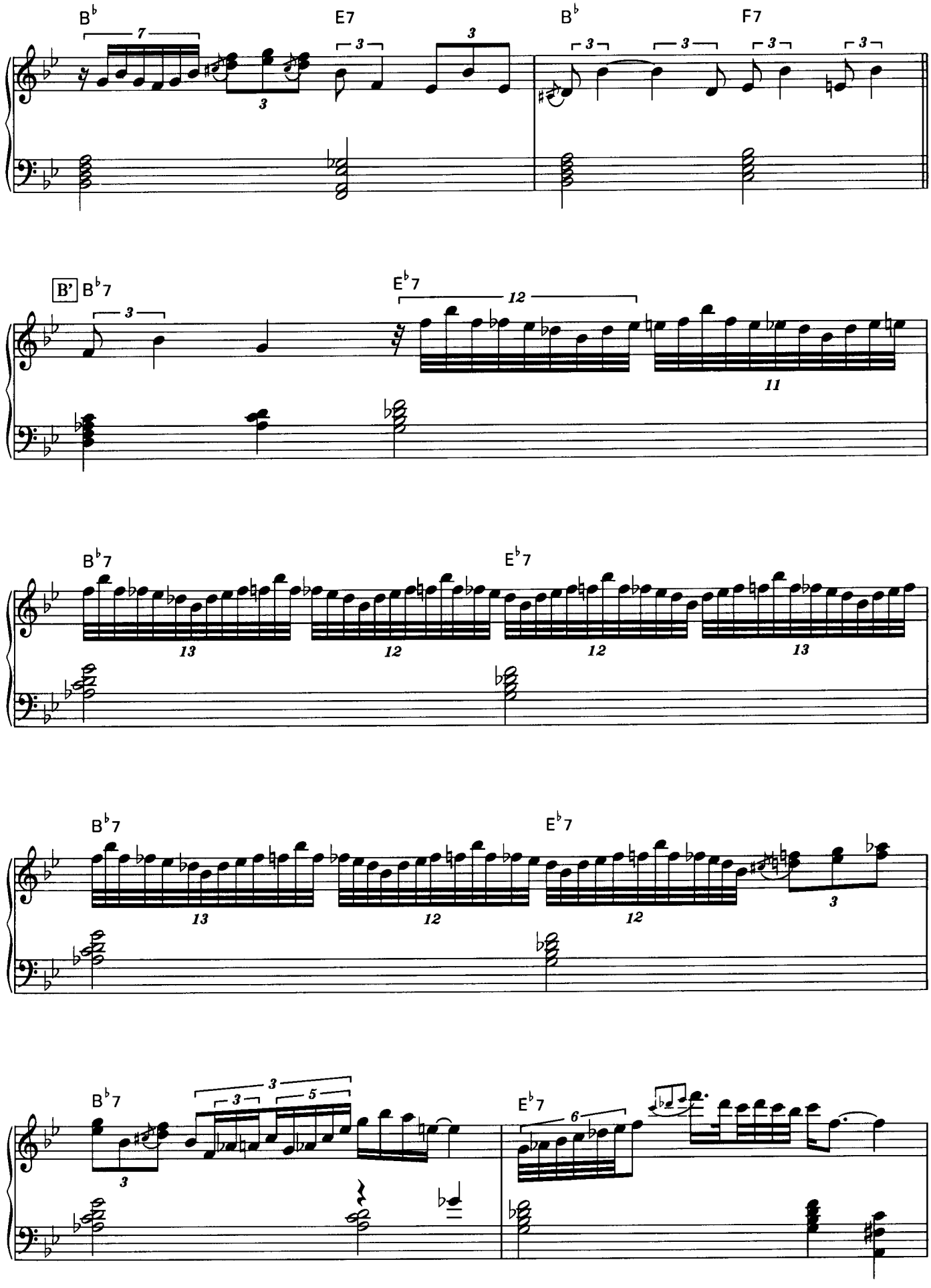


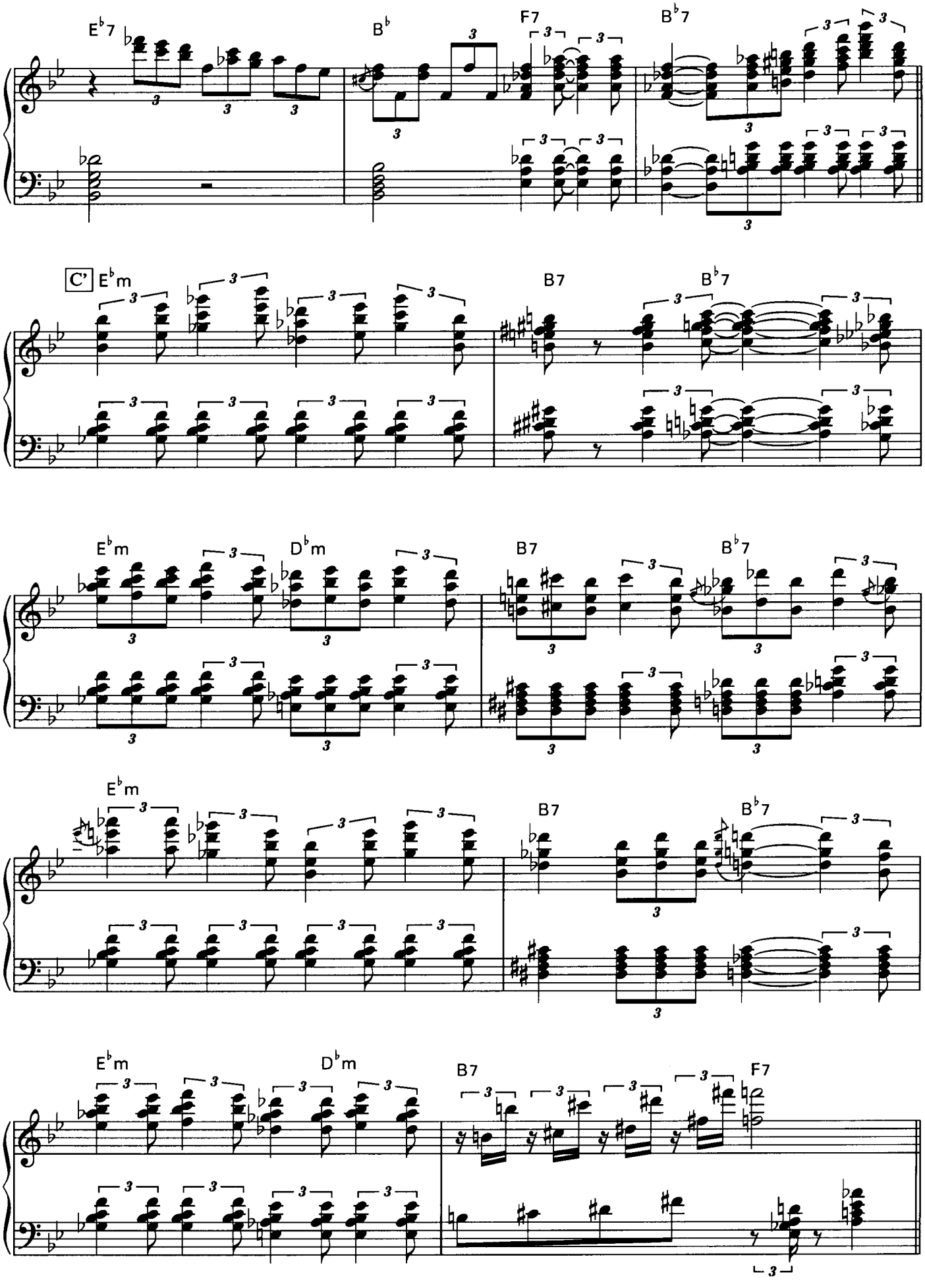

© Copyright 1932 & 1961 by BOURNE CO.
Copyright renewed All rights reserved
The rights for Japan administered by High Note Publishing Co., Ltd.


B♭7
8va
E♭7
E♭7
A♭7
B♭7
F7
B♭7
C E♭m
B7
B♭7
E♭m
D♭m
B7
B♭7
E♭m
B7
B♭7
E♭m
D♭m
C7
F7
D B♭7
E♭7

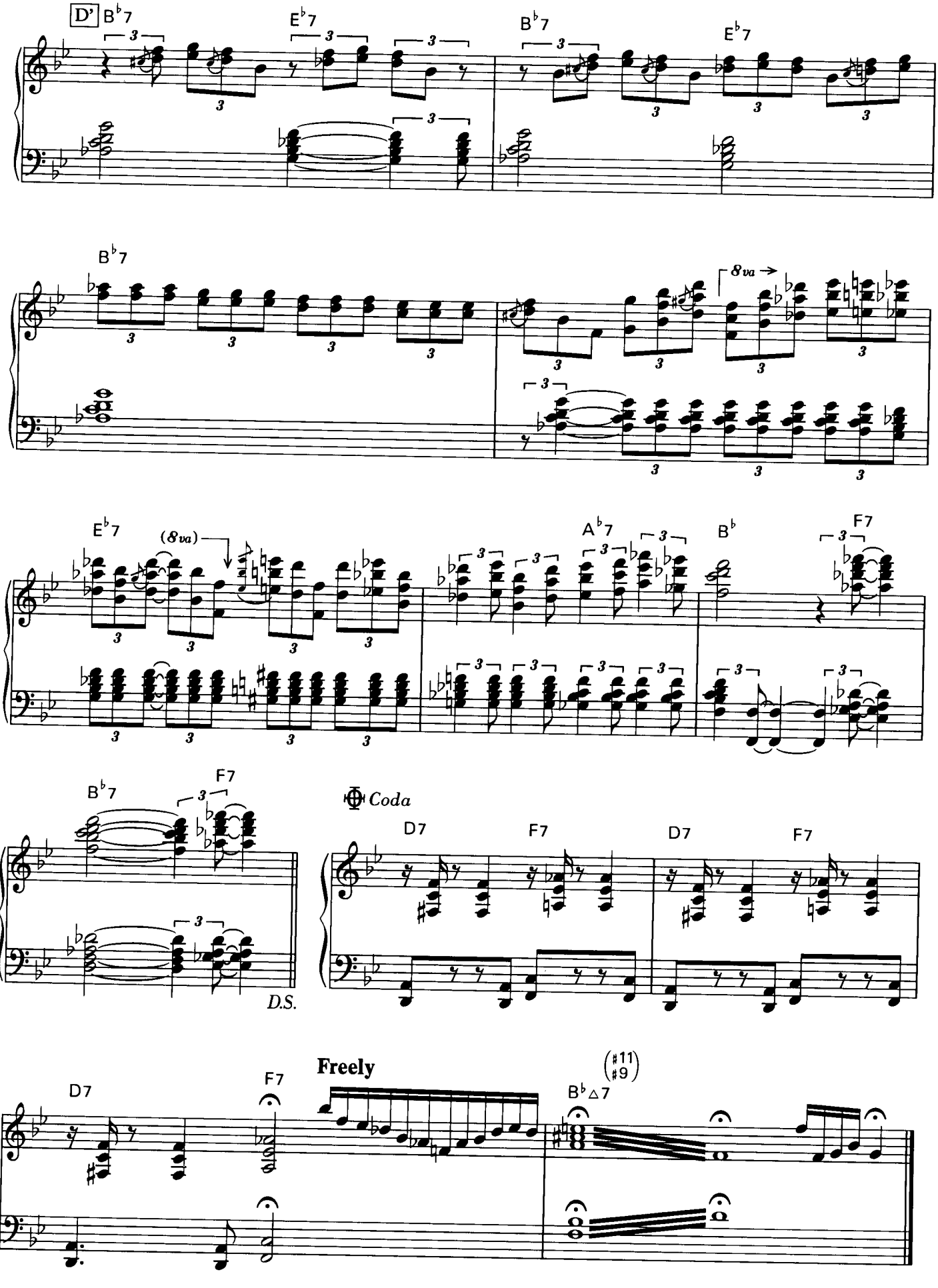

B♭7
E♭7
B♭7
E♭7
B♭7
E♭7
to
A' Improvisation
B♭7
F7
B♭7
F7
B♭7
E♭7
8va
B♭7
E♭7
B♭7
E♭7
8va
B♭7
E♭7
12
12

58


B♭
E7
B♭
F7
B' B♭7
E♭7
B♭7
E♭7
B♭7
E♭7
B♭7
E♭7



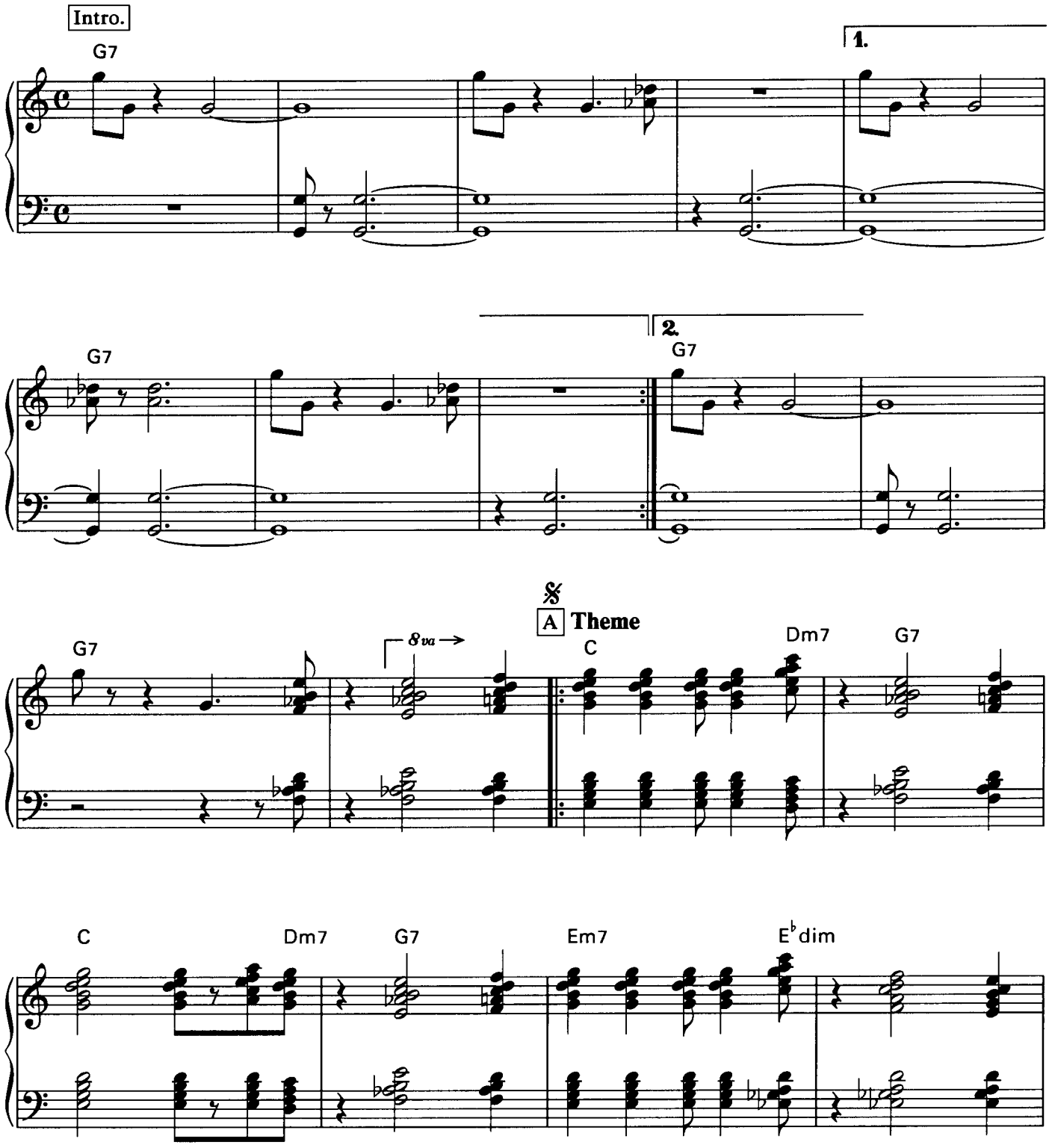

60

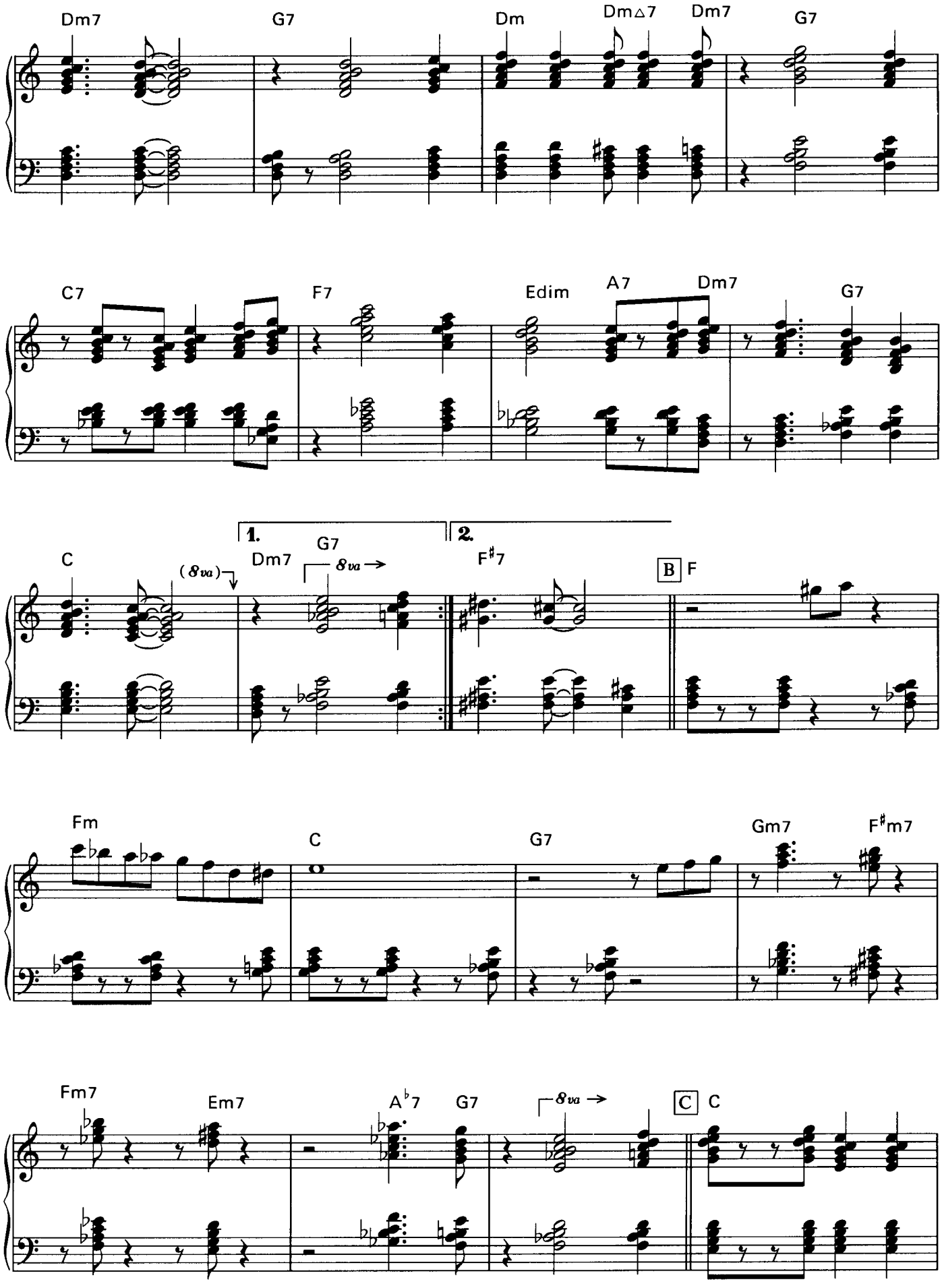

D'
B♭7
E♭7
B♭7
E♭7
B♭7
8va
E♭7
(8va)
A♭7
B♭
F7
B♭7
F7
Coda
D7
F7
D7
F7
D.S.
D7
F7
Freely
(♯11 ♯9)
B♭△7

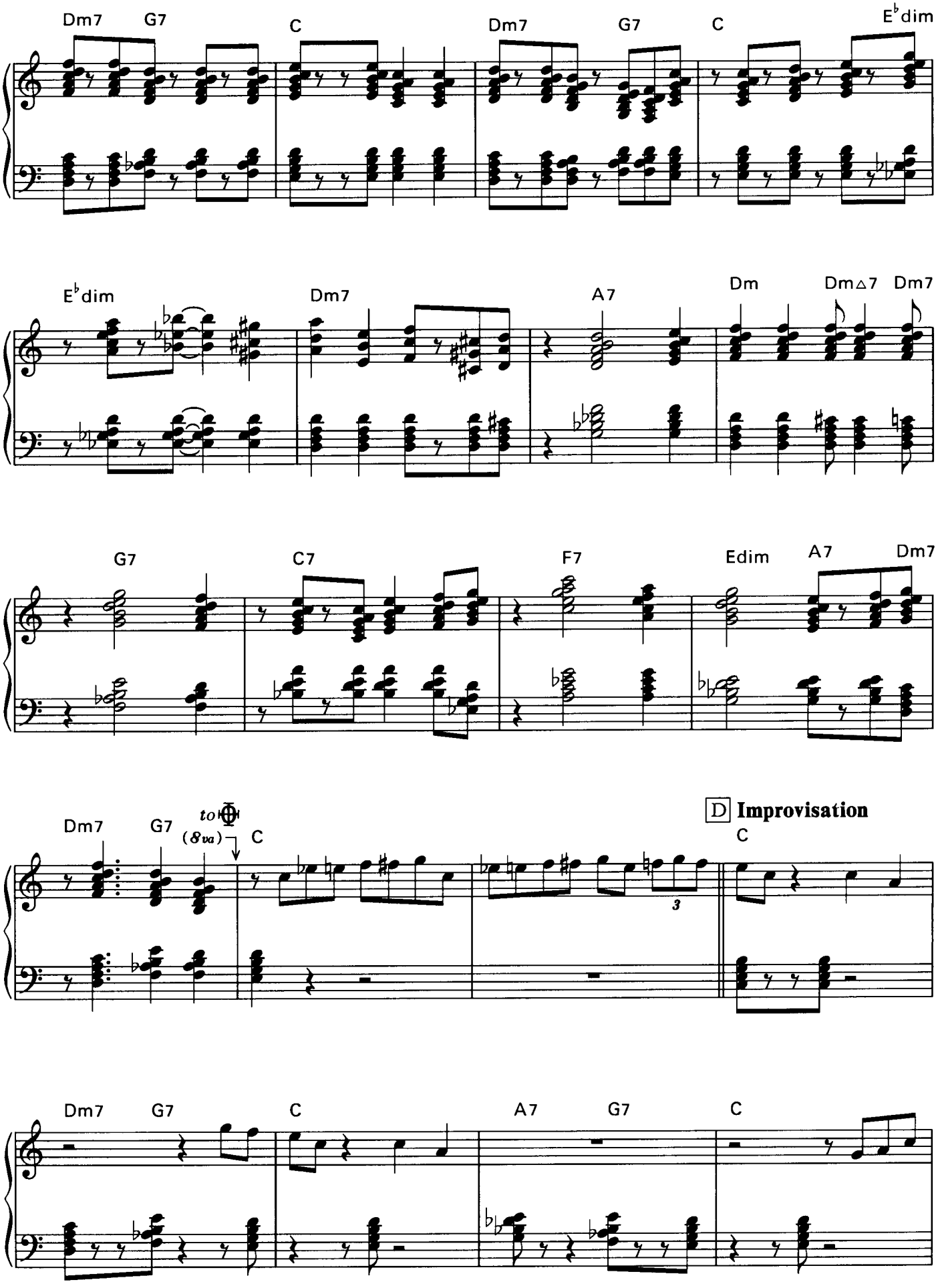
# Billy Boy

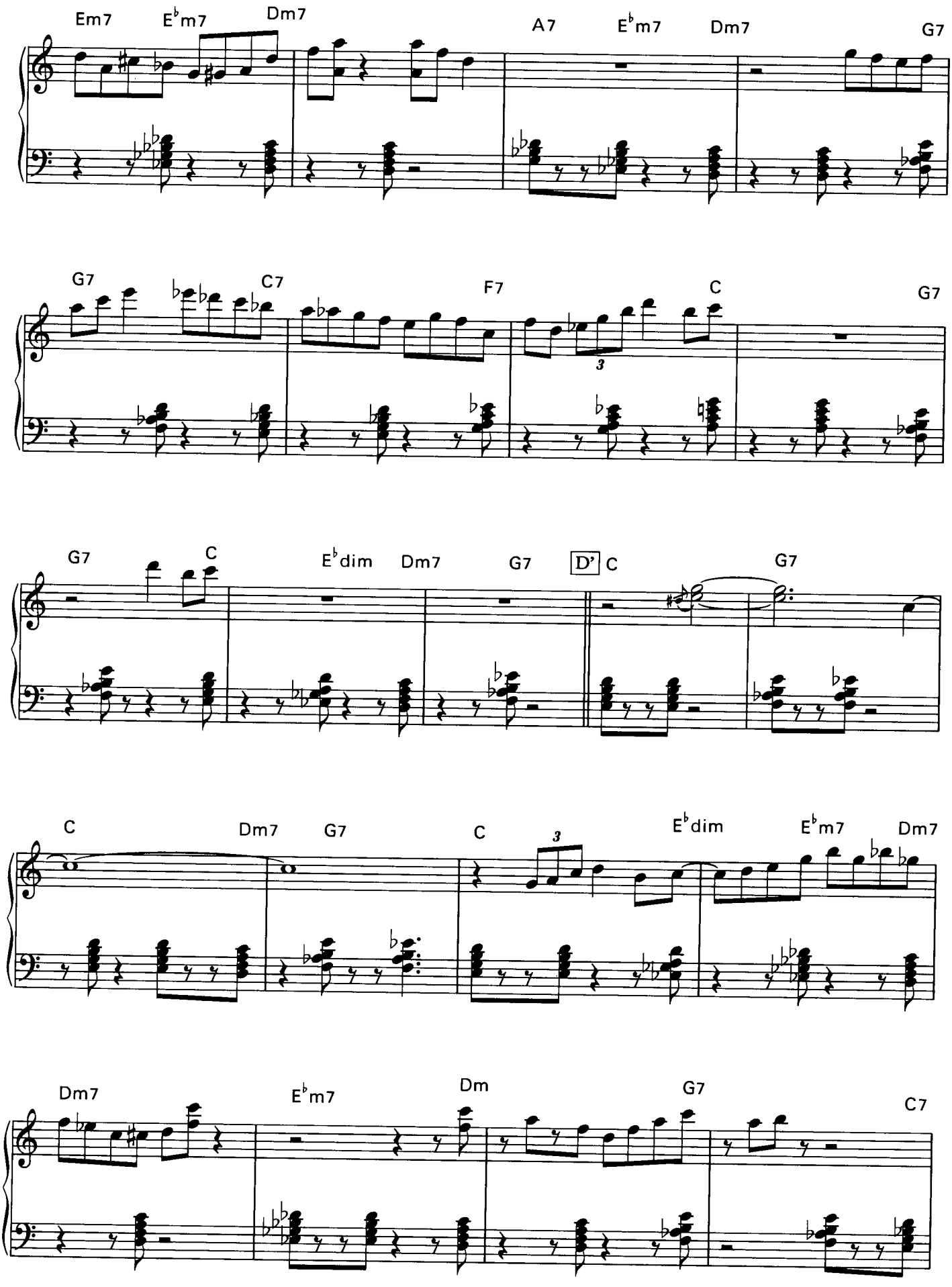
ビリー・ボーイ

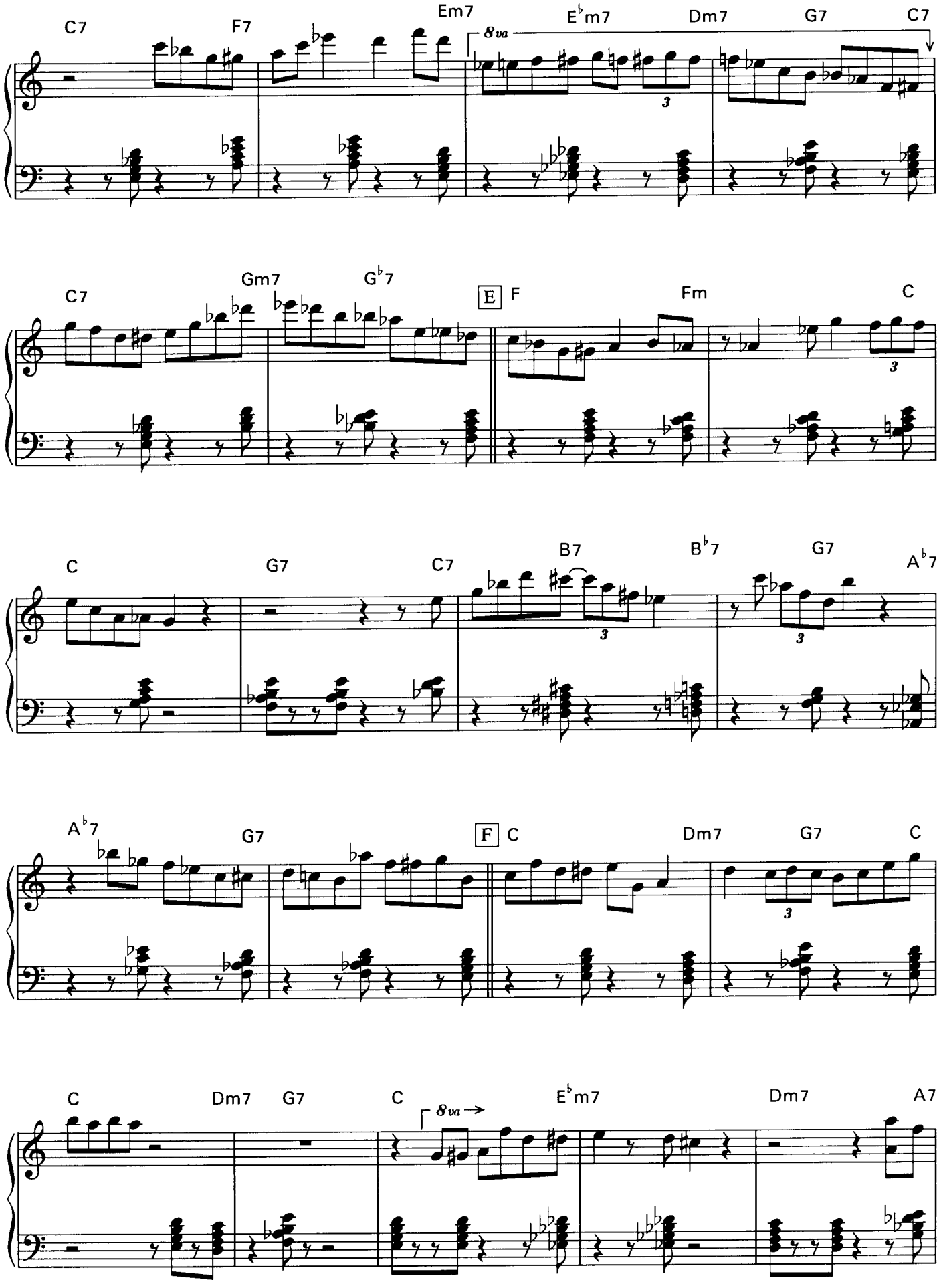
Traditional



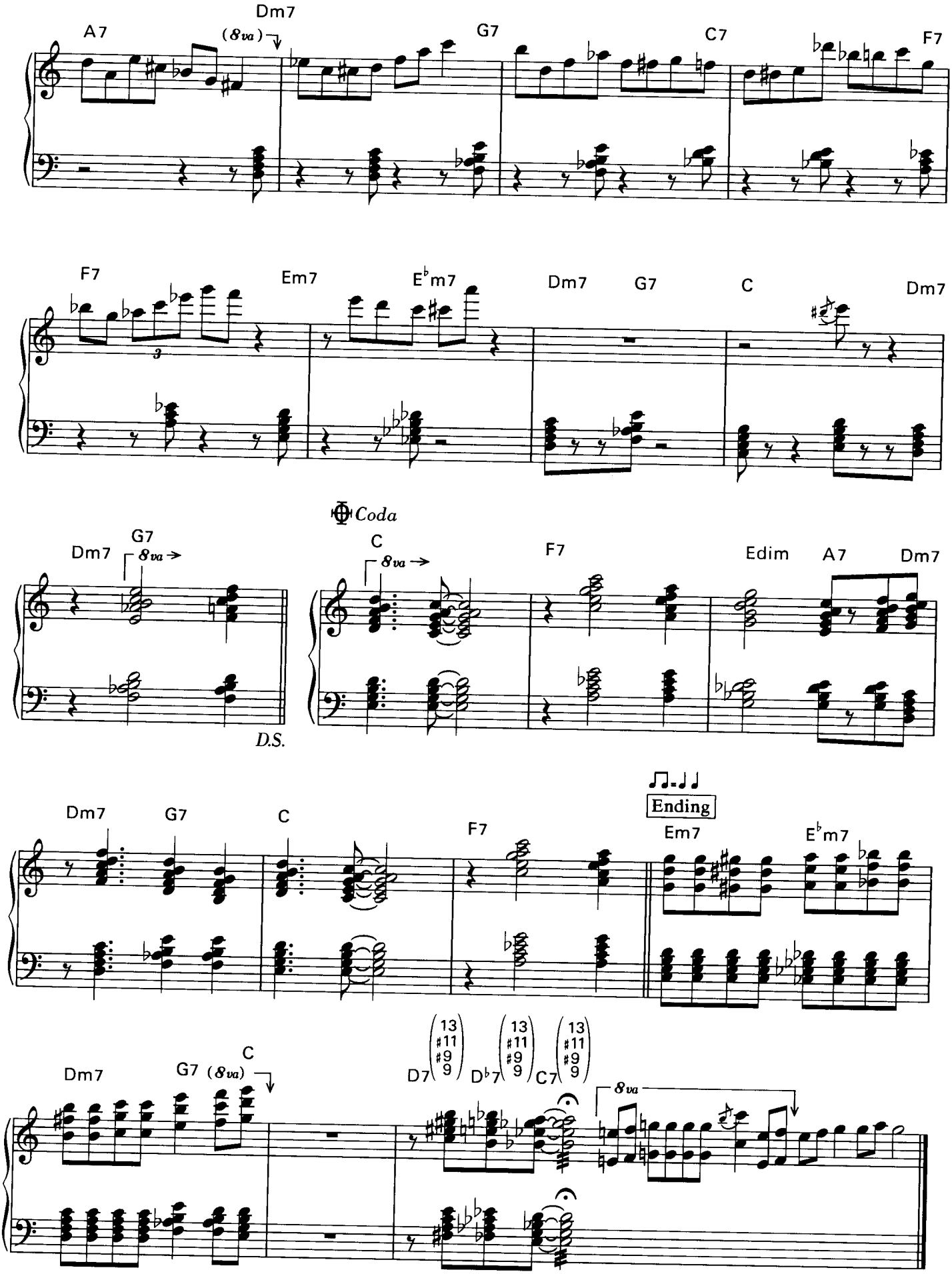

Dm7
G7
Dm
Dm△7
Dm7
G7
C7
F7
Edim
A7
Dm7
G7
1.
2.
C
(8va)
Dm7
G7
8va →
F♯7
B F
Fm
C
G7
Gm7
F♯m7
Fm7
Em7
A♭7
G7
8va →
C C


Dm7
G7
C
Dm7
G7
C
E♭dim
E♭dim
Dm7
A7
Dm
Dm△7
Dm7
G7
C7
F7
Edim
A7
Dm7
64
Dm7
G7
to ⊕
(8va)
C
D Improvisation
C
3
Dm7
G7
C
A7
G7
C


Em7
E♭m7
Dm7
A7
E♭m7
Dm7
G7
G7
C7
F7
C
G7
3
G7
C
E♭dim
Dm7
G7
D'
C
G7
C
Dm7
G7
C
3
E♭dim
E♭m7
Dm7
Dm7
E♭m7
Dm
G7
C7


C7
F7
Em7
8va
E♭m7
Dm7
G7
C7
C7
Gm7
G♭7
E
F
Fm
C
C
G7
C7
B7
B♭7
G7
A♭7
A♭7
G7
F
C
Dm7
G7
C
C
Dm7
G7
C
8va
E♭m7
Dm7
A7

66


A7
Dm7
(8va)
G7
C7
F7
F7
Em7
E♭m7
Dm7
G7
C
Dm7
Coda
Dm7
G7
8va
C
8va
F7
Edim
A7
Dm7
D.S.
Dm7
G7
C
F7
Ending
Em7
E♭m7
Dm7
G7
(8va)
C
D7 13 #11 #9 9
D♭7 13 #11 #9 9
C7 13 #11 #9 9
8va

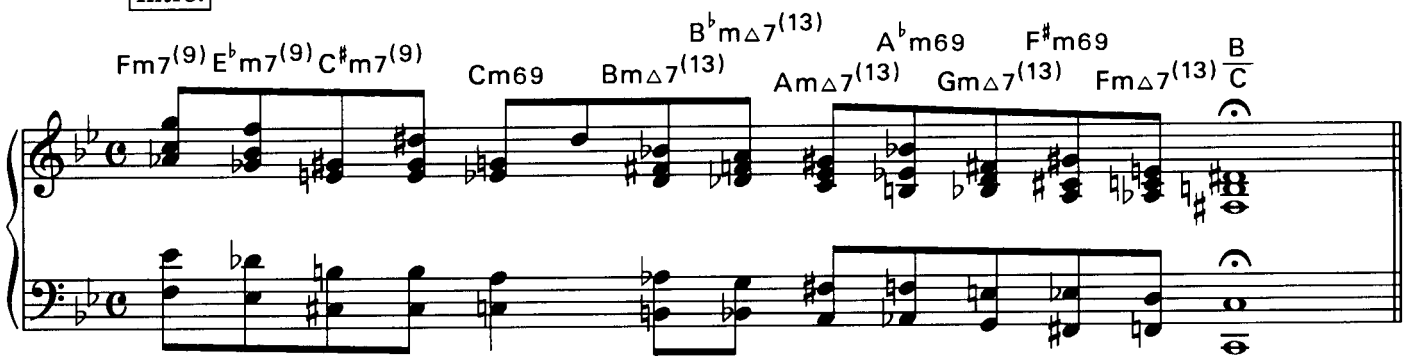
# Satin Doll

サテン・ドール

Words by Johnny Mercer/Music by Billy Strayhorn and Duke Ellington

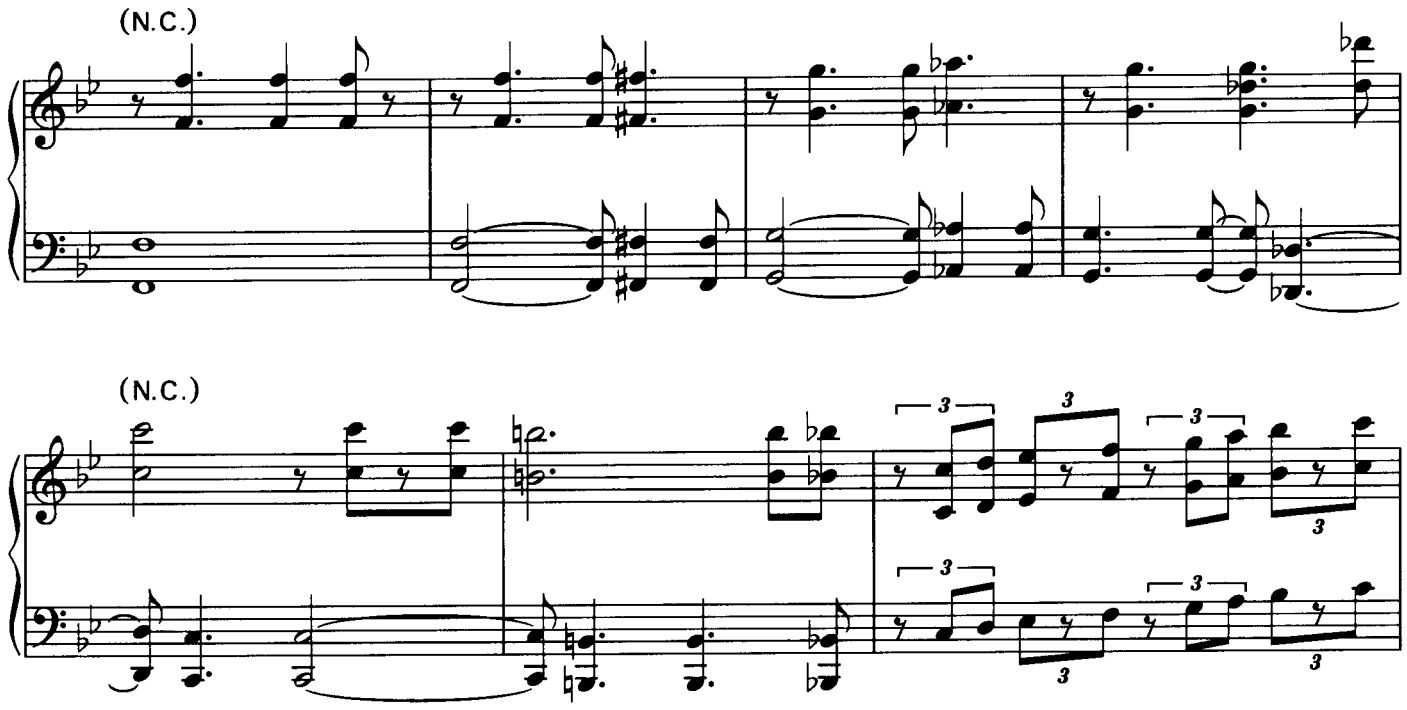
**Rubato**

Intro.




**In Tempo**

(N.C.)

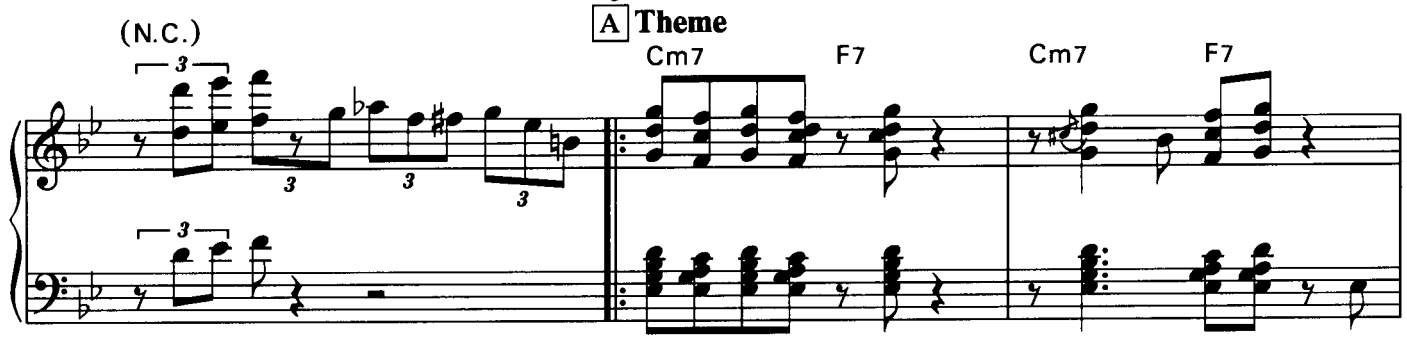


(N.C.)

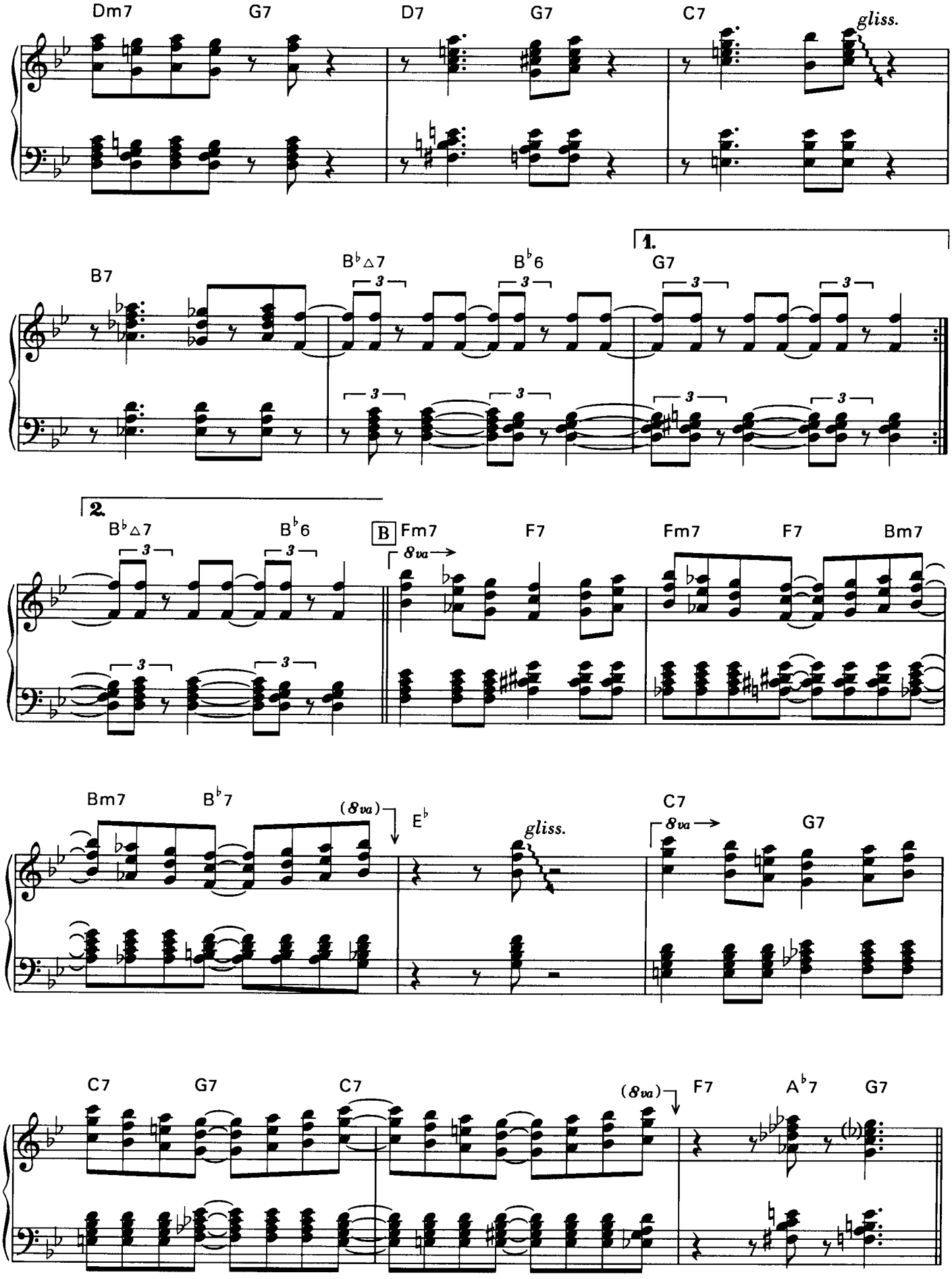


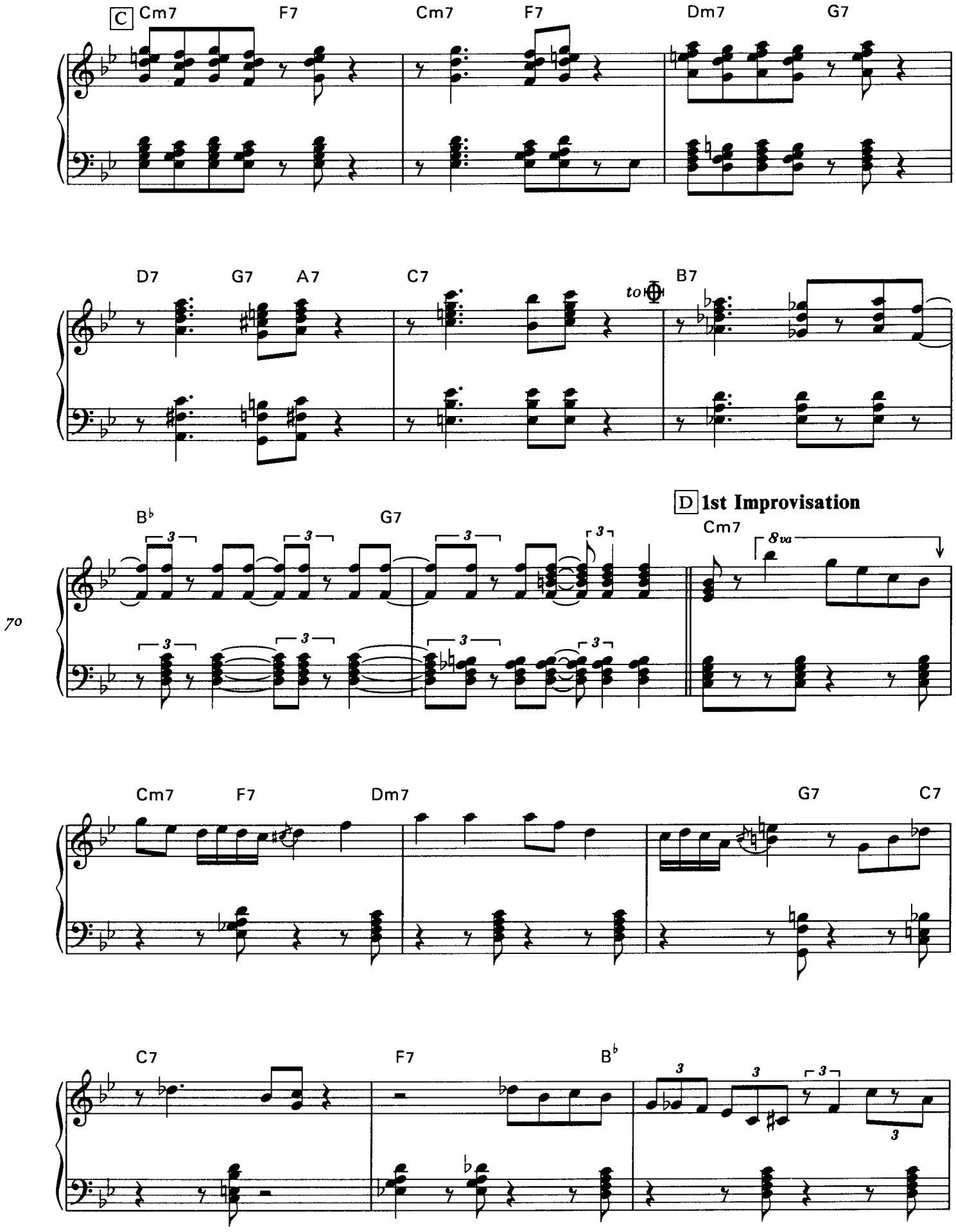
(N.C.)

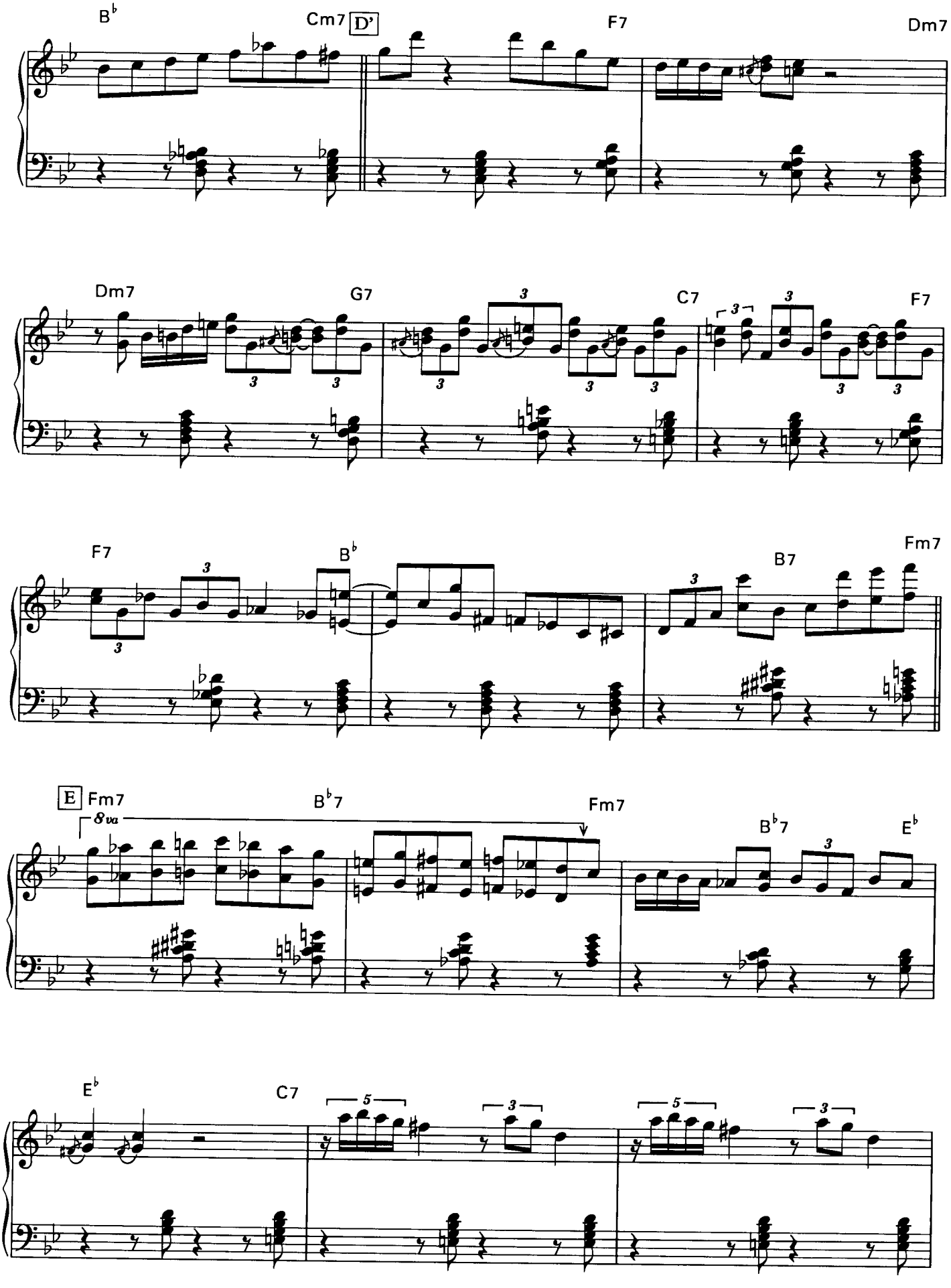
𝄋 A **Theme**



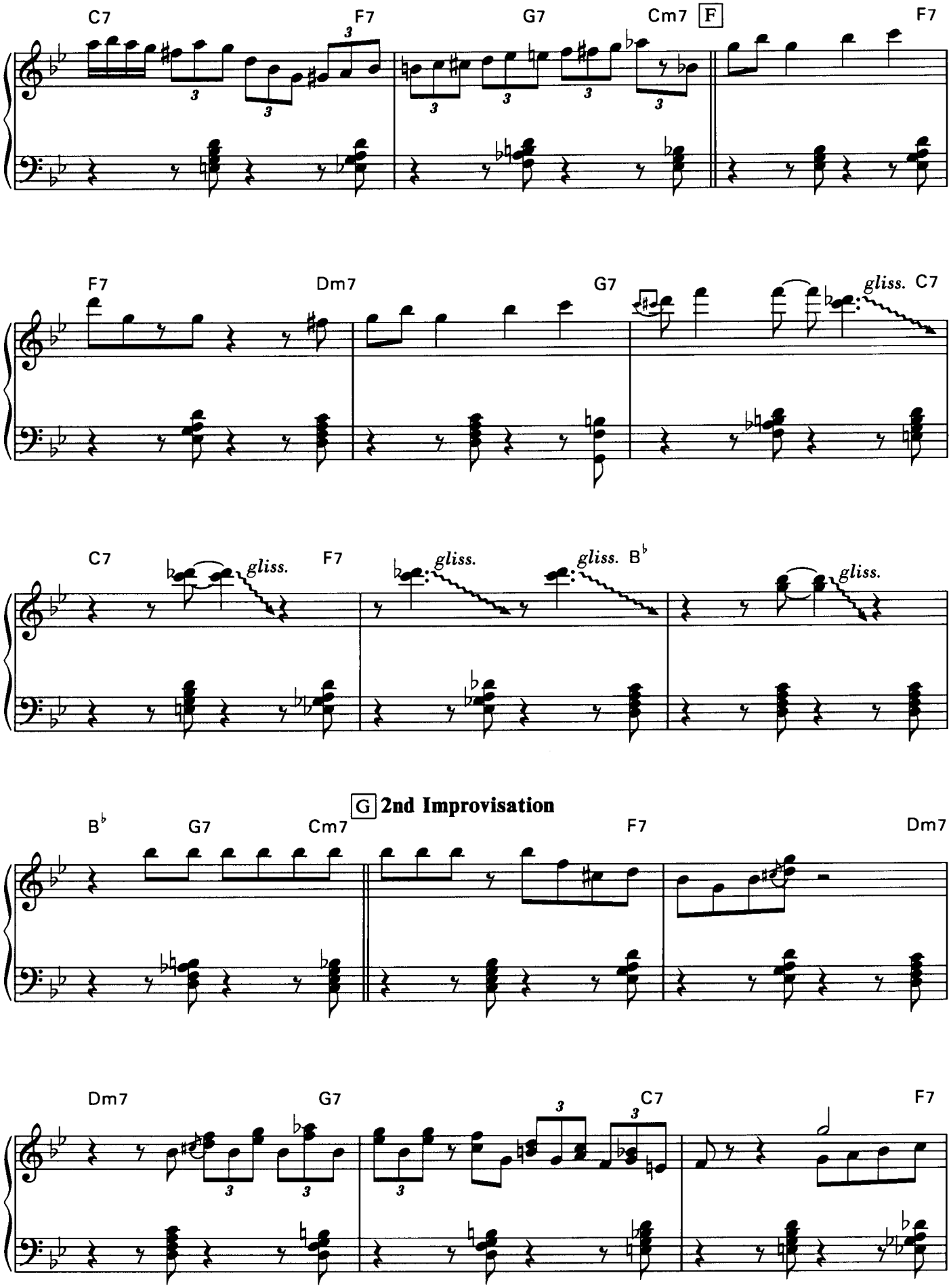

© 1953, 1960 by TEMPO MUSIC, INC.
All rights reserved Used by permission
Printing rights for Japan assigned to NICHION, INC.

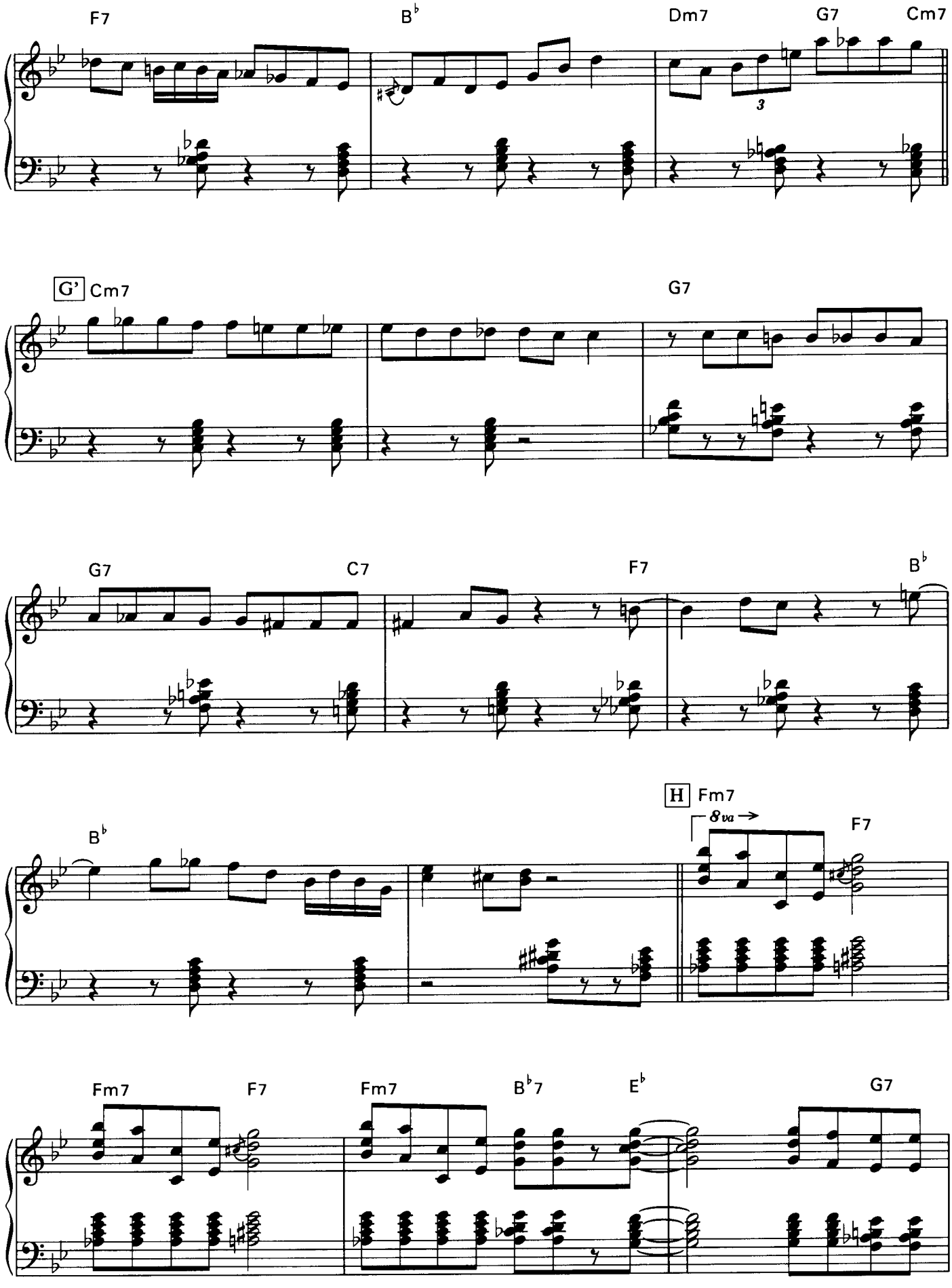

Dm7
G7
D7
G7
C7
gliss.
B7
B♭△7
B♭6
1.
G7
2.
B♭△7
B♭6
B
Fm7
F7
Fm7
F7
Bm7
8va
Bm7
B♭7
(8va)
E♭
gliss.
C7
8va
G7
C7
G7
C7
(8va)
F7
A♭7
G7

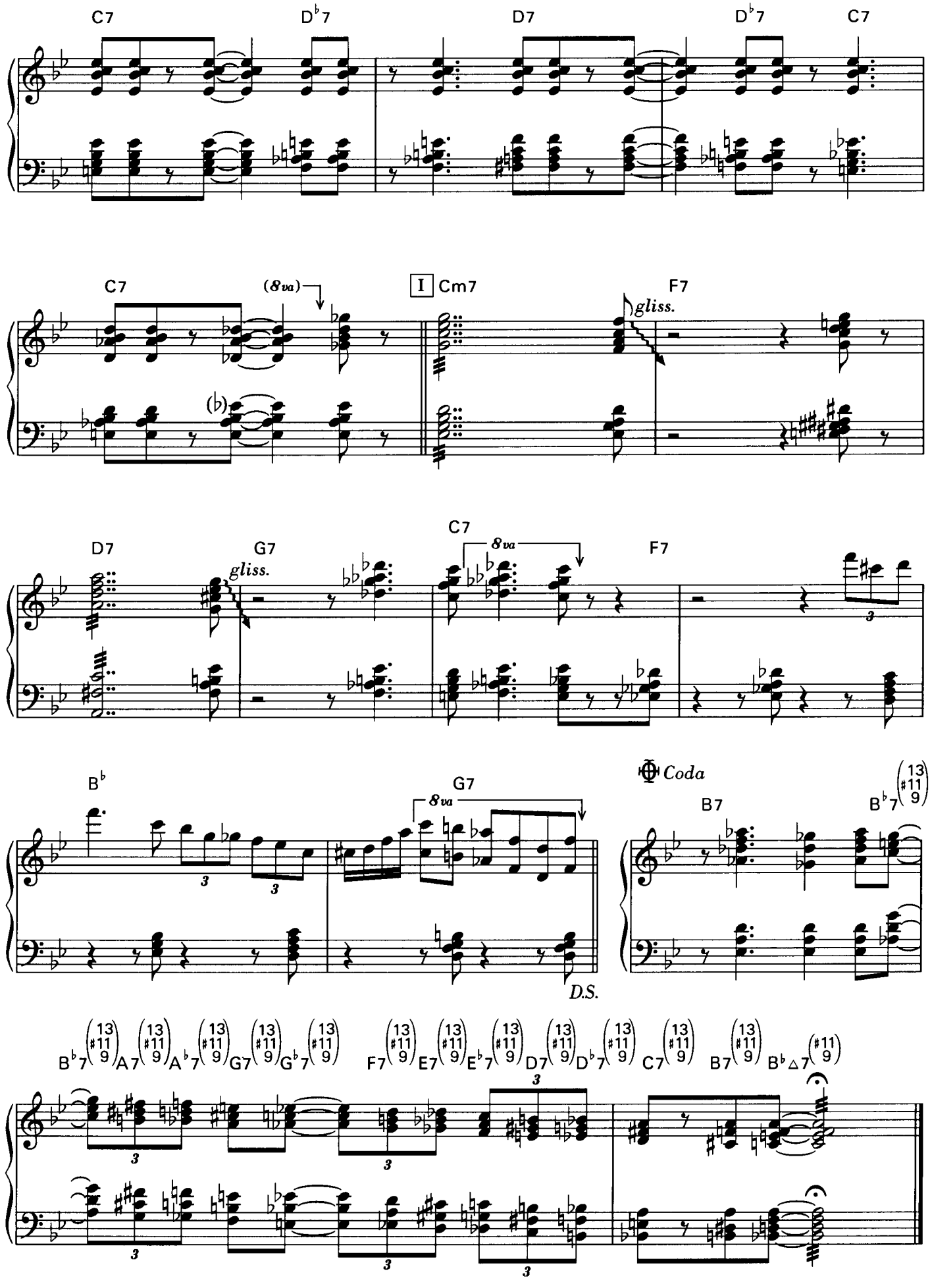

C
Cm7
F7
Cm7
F7
Dm7
G7
D7
G7
A7
C7
to ⊕
B7
B♭
G7
D 1st Improvisation
Cm7
8va
70
Cm7
F7
Dm7
G7
C7
C7
F7
B♭




71


C7
F7
G7
Cm7
F
F7
F7
Dm7
G7
gliss.
C7
C7
gliss.
F7
gliss.
gliss.
B♭
gliss.
72
G 2nd Improvisation
B♭
G7
Cm7
F7
Dm7
Dm7
G7
C7
F7

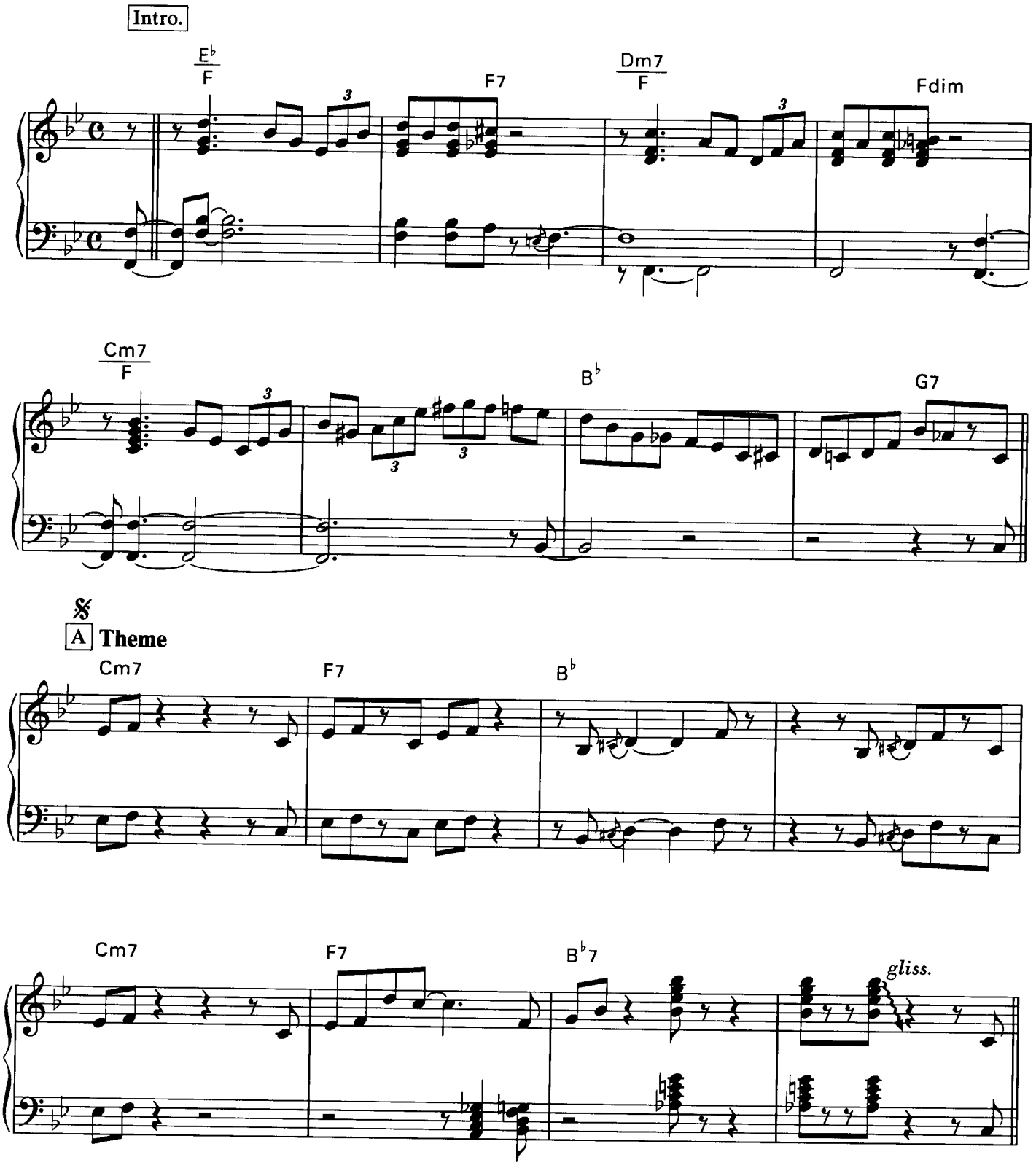

F7
B♭
Dm7
G7
Cm7
3
G' Cm7
G7
G7
C7
F7
B♭
B♭
H Fm7
8va
F7
Fm7
F7
Fm7
B♭7
E♭
G7


C7
D♭7
D7
D♭7
C7
C7
(8va)
I Cm7
F7
gliss.
(♭)
D7
G7
gliss.
C7
8va
F7
74
B♭
G7
8va
Coda
B7
B♭7 13 #11 9
D.S.
B♭7 13 #11 9 A7 13 #11 9 A♭7 13 #11 9 G7 13 #11 9 G♭7 13 #11 9
F7 13 #11 9 E7 13 #11 9 E♭7 13 #11 9 D7 13 #11 9 D♭7 13 #11 9 C7 13 #11 9
B7 13 #11 9 B♭△7 #11 9

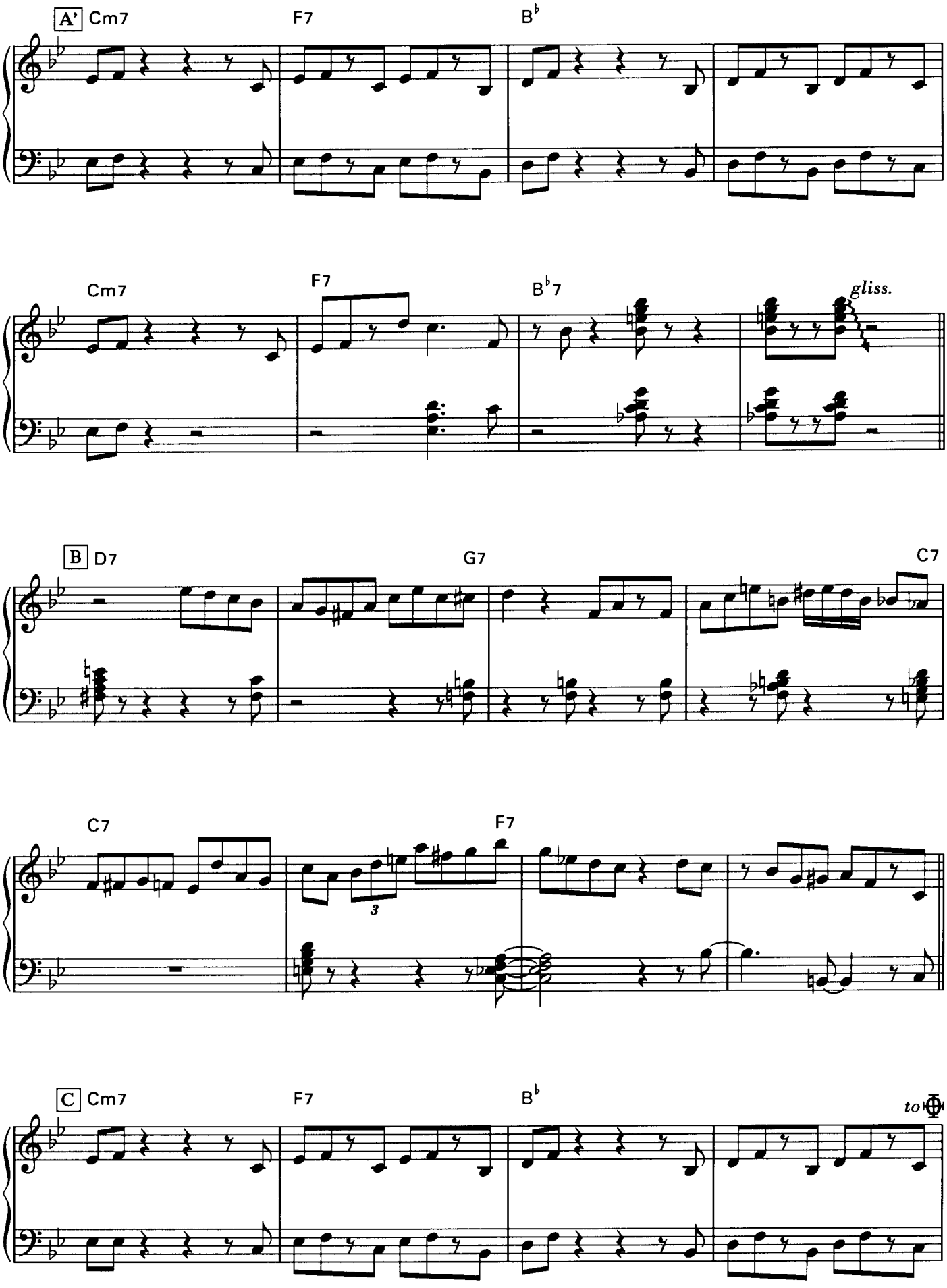
# Perdido

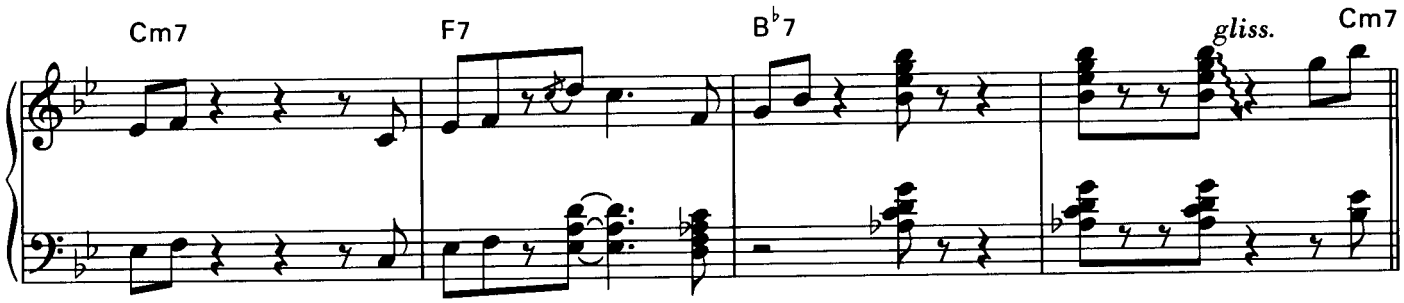
パーディド

Words by Ervin Drake and Harry Lenk/Music by Juan Tizol

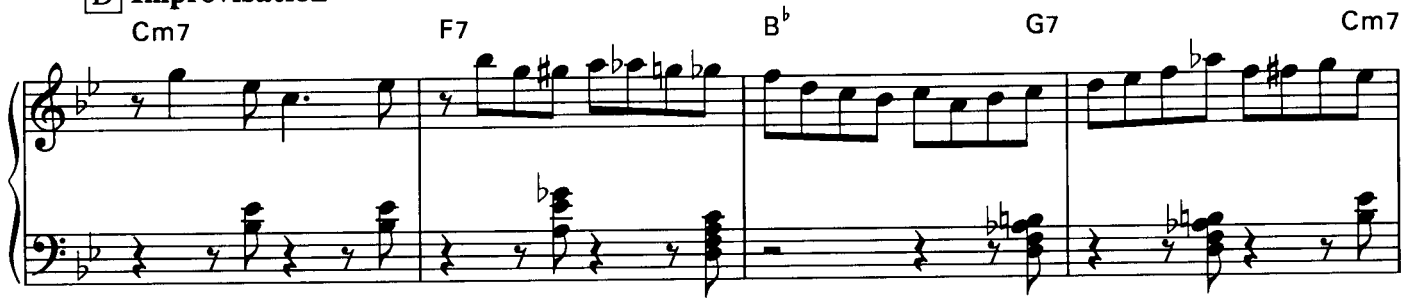


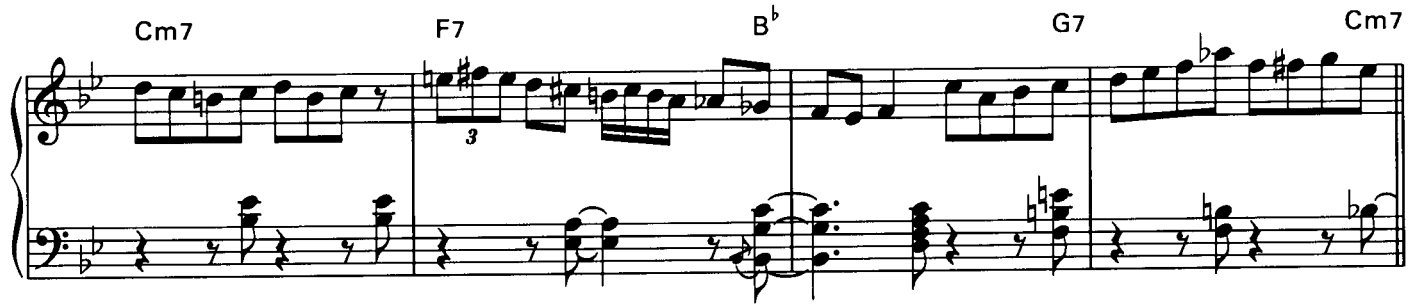

© 1942 by TEMPO MUSIC, INC.
All rights reserved Used by permission
Printing rights for Japan assigned to NICHION, INC.


A' Cm7
F7
B♭
Cm7
F7
B♭7
gliss.
B D7
G7
C7
76
C7
F7
3
C Cm7
F7
B♭
to Φ

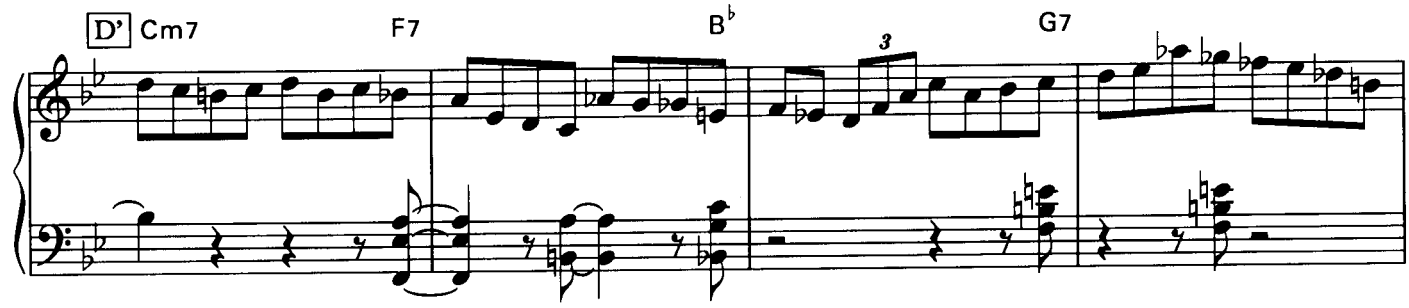


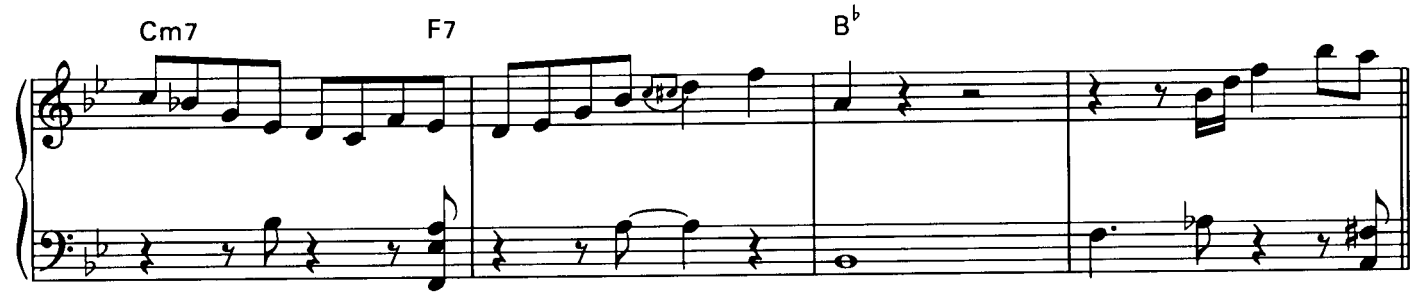

**D Improvisation**

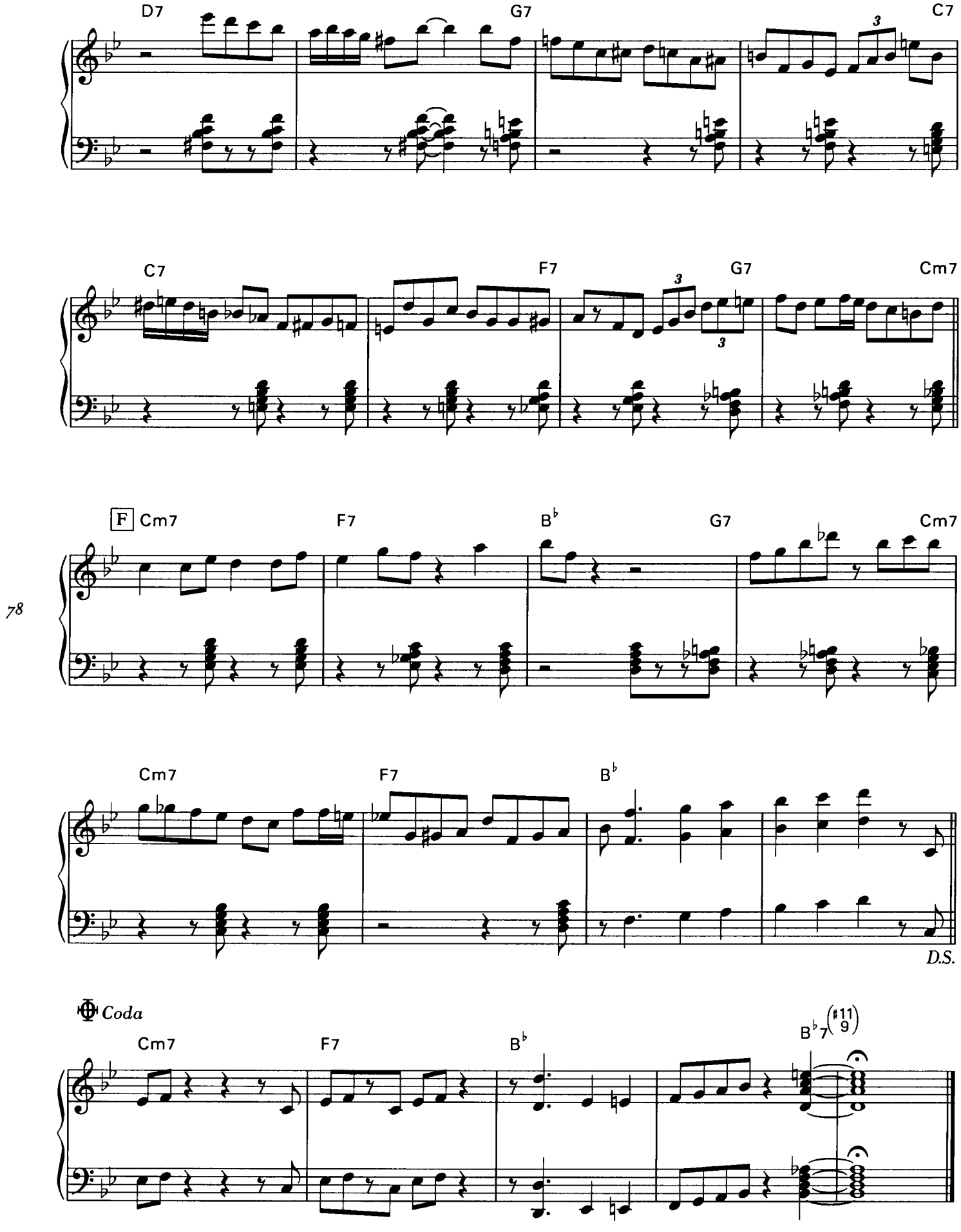





D7
G7
C7
C7
F7
G7
Cm7
F
Cm7
F7
B♭
G7
Cm7
78
Cm7
F7
B♭
D.S.
Coda
Cm7
F7
B♭
B♭7(♯11 9)

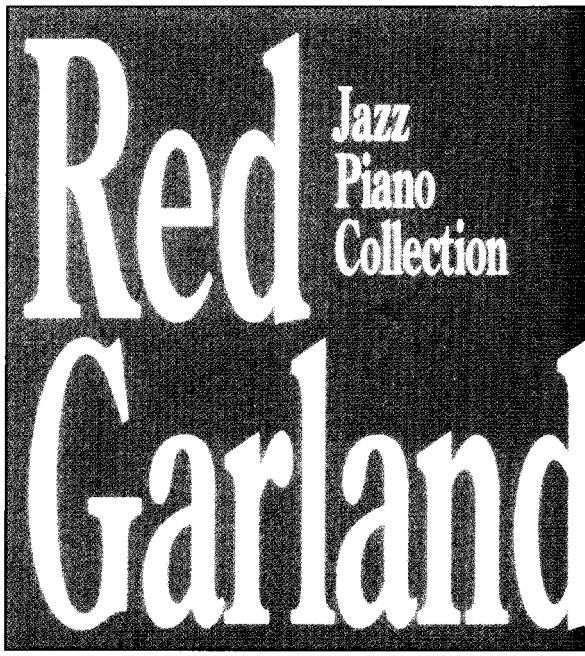
ISBN4-401-01295-X

C0073 ¥2300E

★定価（本体 2,300円+税）

9784401012954

1920073023005




Bye Bye Blackbird | Blues By Five | A Foggy Day | My Romance
What Is This Thing Called Love | Stompin' At The Savoy | But Not For Me | C Jam Blues
Will You Still Be Mine | Willow Weep For Me | Billy Boy | Satin Doll | Perdido

4 997938 012952